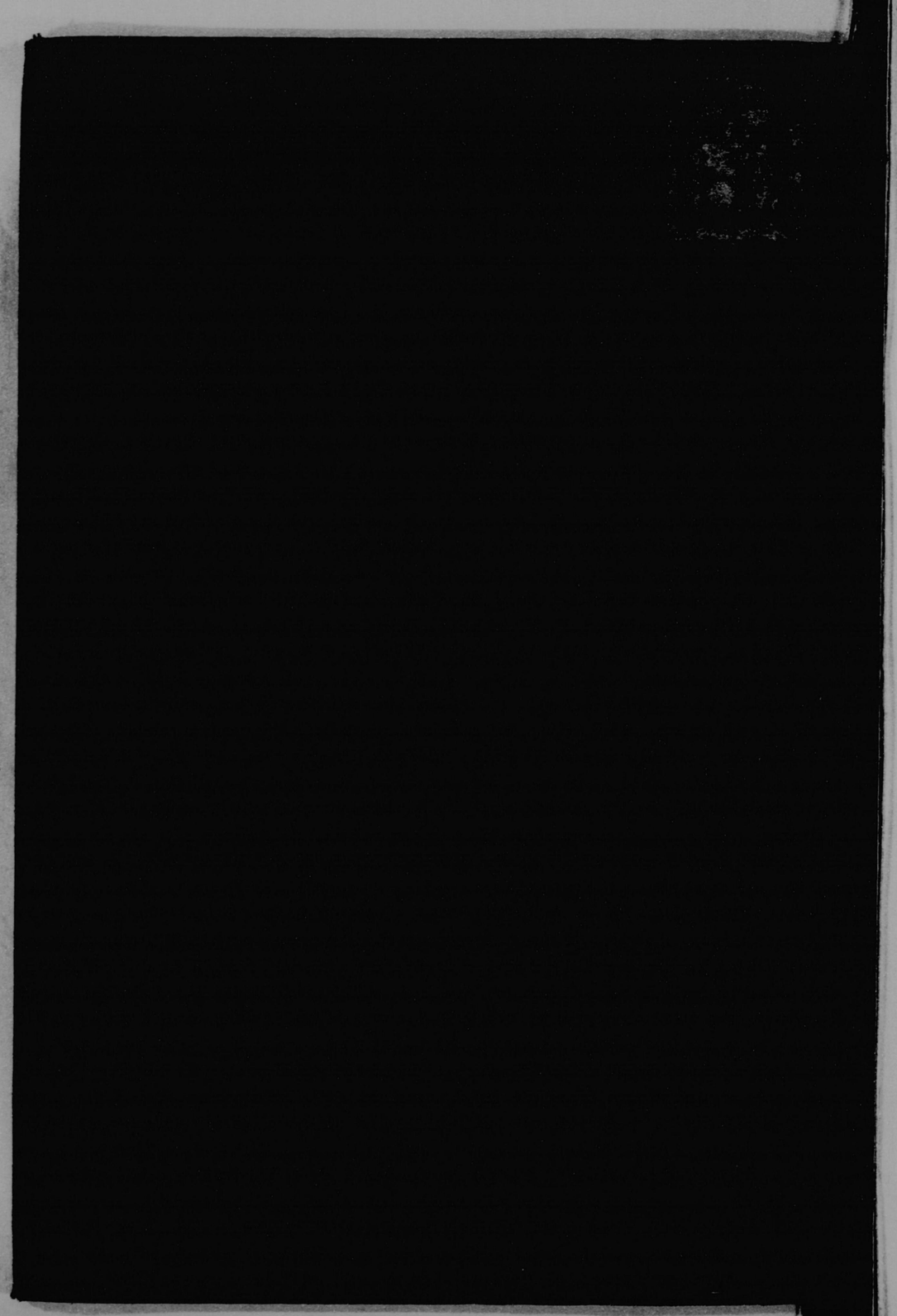


0051453000

0051453-000

特２７６－１２３

中学生の未来展望

小山文太郎・著

培風館

昭和５

AHM

8. 5.10

特 276
123

中學生の未來展望

文學士・經濟學士
小山文太郎著

東京 培風館 發行
昭和十五年

607-170

みちの話

——自序のつもりで——

一人の旅びとがありました。どこへ行くといふあては大體あるのですがその「どこ」が方角もわからないし道順もはつきり知らないのです。人に聞かうにも教へてくれてがない。言葉も殆ど通じない。地圖も賣つてゐない。

旅びとはあせつて〳〵いら〳〵しつゝ途方にくれてゐます。どうなるかと、ヘタで見てゐても、見てゐる人が彼の行く先を知らないのですからどうにも教へてあげる事も出來ないでゐます。

之が今日の中學生の立場ではないでせうか。

——いや、そんな事はない。それは我々を冒瀆するものだ。我々には、しつかりした自覺がある。行く先だつてはつきりしてゐるのだ。

さういふ抗議が出るかも知れませぬ。さうです。さういふ抗議を申込むだけの、本當の自覺と本當の「我が往くみち」のきまつてゐる方々のある事を澤山あ

る事をわたしは望んでやみませぬ。ですが今日の中學生は上級學校に行く事に、絶對の信頼と、最大の期待とが持てる時勢でせうか。

それは幾十年の昔からこの四五年前までは中學生が中等學生の花形でありました。卒業してから、〇高——帝大——官吏——知事、高商——實業界——重役といつたやうに將來の天地は豁然として開けてゐた時代もあつたのです。が此の頃は上の學校へ行きたがるなと、名士や先覺者が異口同音に唱へて居り、幾多受驗の難關を突破し、多年の努力を拂ひ、巨額な學資を使つて、折角高等な學校を卒業しながら、口がなくて遊んでゐる人がとても多い有樣ですから、先覺者のさういはれるのは尤もであり、又其の現實を證明するものであります。本當に考へねばならぬ時代になりました。そんなら、いつその事上の學校をあきらめますか！一層の事あきらめてしまつてすぐに職業生活にはいる事にしますか。

しかし考へて見ると、一たい中學で覺えた事を武器としてすぐにも實社會にうつて出られる仕事がありますか。力がありますか。だい一、口がありますか。

今日の中學生は、正に進退兩難の立場にあります。はつきりしてゐると思つてゐた我が行くみちがボンヤリ消え失せたかの感があります。みちのわからぬ境地、未知に滿ちた地位、之がこんにちの中學生の立つてゐる地點であります。

拙い筆で未知の部分の多い淺薄なものを書きつらねて御覽を願ふ私の心も少しでもこの進退兩難の岐點に惑ふ方々の道標にもならばと思ふからであります。「未知」の人々への往くべき道が、多少なりと示され得るかと思ふが故であります。

ですが何しろ道は八方であり、往く人は多勢である。各の道、各の人、その何れにもピタリとはまるやうな事を書く事は不可能であります。今や稿を終へ禿筆を洗うてしみ〴〵と省みる時甚だ物足らぬ氣持があります。只讀者の前途の爲に何等かの御役にたてば結構と思ひます。

空論よりは事實。之がかうした問題には特に必要です。で職業の事實を記すにも出來るだけ實際家の意見を叩き、又名士の説をたづね中學生の意向を集計して之を載せる事に致しました。生きた事實、叫ばれた意見によつて、どうか私の管見を補うて頂きたいものです。

多方面に亘る叙述に對し、高見を披攄された名士、實際家並びに千餘名の中學生の隔意なき志望發表、及び之が解答に斡旋を賜はつた教育家諸彦に深甚なる感謝を捧げる次第であります。

昭和庚午の晩夏　利根河畔にて　著者識

……御相談……

申上げた通り、個人にあてはまるべくあまりに廣汎な問題ですから、御自身の境遇、志望其他について御讀みの上、未解決の問題に對しては、未熟ながら御相談に應じたいと思ひます。御希望の方は卷末の注意事項を御覽願ひます。

中學生の未來展望

目次

第一篇　暗雲一掃

一、岐路に立つ……一
1. 沒頭の前……一
2. 導くもの……六
3. 目的への沒頭は……一〇

二、僕の未來は……一三
1. 實現と現實……一三
2. 人生の試驗期……一五
3. 偉人の活躍期……一八
4. 嗜好と修學と仕事……二三

三、變革の時……二六
1. からだの過渡期……二九

2. こゝろの變動期……三一
3. 自己をゆり動かすもの……三四
四、現代の世相……三九
1. 萬年不景氣……三九
2. 神經は疲れる……三九
3. 强い刺戟物の橫行……四二
五、極めて愼重……四六
1. 職業といふもの……五〇
2. 米二十石の學士……五〇
3. 世の求むる人……五六
4 我が惡癖……五八
第二篇　活躍舞臺展望
六、技術の學校を出て……六三
1. やりがひのある學問……六九

2. 新時代の技術家……七三
3. 技術者養成の道……七九
第一　工業方面……七九
第二　農業方面……八一
七、これからの醫者……九九
1. 醫學博士……九九
2. 醫者の生活……一〇四
3. 醫者になるなら……一〇九
4. 齒科醫と藥劑師……一一四
八、法・經・商出の進路……一一七
1. 就職難率の見方……一一七
2. 實業界を目指して……一二三
3. 高文パス後の進路……一二四
A. 行政官の畑……一二八

B. はなやかな外交官……一四二
C. 司法官と辯護士……一四九
九、訓導・教諭・教授——學者……一六〇
1. 人間製造家……一六〇
2. 訓導……一六七
3. 教諭……一七一
4. 教授——學者……一七五
一〇、軍人になれば……一八一
1. 國防と平和……一八一
2. 將來の軍人……一八二
3. 軍人と苦樂……一八五
一一、尖端を行く記者……一八七
1. ドギモをぬかれて……一八七
2. 新聞人の生活……一八九

3. 記者の能力……一九三
4. 雜誌の仕事……一九四
一二、藝術の世界へ……一九七
1. 彗星的藝術家……一九七
2. どんな人なら……一九九
A. 作家……二〇〇
B. 音樂家……二〇五
C. 美術家……二〇七

第三篇 未來燦然

一三、自己の凝視……二一一
1. 自分が土臺……二一一
2. 適業摸索……二一四
3. 自分のあたま……二一八
4. 特殊な能力……二二七

一四、生徒の志望と名士の希望……二二一
1. 千餘名の前途志望……二二一
A. どの位上に進むか……二二二
B. どんな職業を望むか……二二三
C. どんな學校へ……二二四
D. 學資はどうなる……二二五
E. 煩悶する生徒……二二七
2. 名士の希望……二三〇
(一) 生徒への希望……二三一
(二) 父兄への希望……二三六
(三) 教師及學校への希望……二六〇
一五、學校生活の價値……二六五
1. 學校否定の風潮……二六五
2. 千里の馬……二六八

3. 母校・同窓のねうち……二七一
4. 時勢に應じて……二七二
一六、共同研究の提唱……二七五
1. 雜誌や書物から……二七五
2. 目的調査會を作つて……二七七
イ、話をきく、ロ、共同研究、ハ、見學、ニ、實習
3. 職業觀察の要點……二八三
4. 破天會の二十年後……二八四
一七、學校選擇の諸條件……二八六
1. 無定見居士……二八六
2. 職業資格と學校……二八九
3. 打算的に見た學校……二九三
4. 同種の學校の觀方……二九七
A. 學校の內容……二九八

B. 自分の力と境遇から……一〇一
一八、苦學か獨學か……一〇四
1. 腕一本頭一つで……一〇四
2. 苦學ざんげ……一〇七
3. 仕事のくるしみ……一一一
4. 獨學難……一一五
5. 苦學者の長短……一一六
一九、受驗生時代の採取……一二〇
1. 難就期……一二〇
2. たよりない生活……一二三
3. 熱い血はたぎる……一二四
4. 採取のコツ……一二六
二〇、科學に基く勉强……一三〇
1. 出て來ない記憶……一三〇

2. 記憶の心理……一三三
イ、學習經濟の法則……一三五
ロ、把住と忘却……一三六
ハ、憶起と再認……一三八
3. 記憶の仕方……一四四
4. 先づ健康……一四九
5. 疲勞と恢復……一五〇
6. ねむる事の効果……一五五
7. 勉强時の温度・刺戟劑など……一五九
二一、これからの學生……一六二
1. 貢獻のエキスは十ケ年……一六二
2. 萬物の冷嘲……一六三
3. 運命の建築家……一六四
4. ネセサリイの人……一六六

目次

5. ピラミッドの頂きを目指して……二六九

（目次終）

中學生の未來展望
第二篇 暗雲一掃
牧路に立つ

1. 波頭の前

「隨分しばらくだつたね、幾年ぶりだろ？」

「ハア……もう、お別れしてから三年目です。」

「ちと、やせたぢやないか。もう五年生だね。君も地獄へ行く準備でやせたのか。——久しぶりで會つて、『地獄行きの準備』とは、少し縁起が悪かつたね。」

「でも、實際此の頃は、試驗地獄行きに波頭してゐたんです。學校でも正規の授業がすむと科外が二時間、それに日土講習へも出る。宿題も澤山ある。全くヘト〳〵です。」

「時勢がかはつて、上の學校へ行くものがへつたやうでもやつぱり、はいるとなるとヘト〳〵の

思をするんだねえ。しかし君そんなにせはしいのに、どうして今頃こんなところへ――學校を休んでまで……」

「やりすぎたんで神經衰弱になつたものですから。――どうも夜も十二時頃にねるんですが、二時三時迄眼がさえてねられないし、ねむつてゐる間にも、數學をやつてゐるやうな氣がしたり時間が來ても答案が出來ないであせつてゐるやうな夢を見たりするんです。で醫者もすゝめますし、それに母が、泣いて過度の勉强はよせつていひますから、やつと保養にやつて來ました。」

「さうか、それはどうもあぶなかつた。本當の地獄行きになつちや、大變だからね。暢氣になるがいゝさ。だが、君その大きな行李は？」

「……えゝ、やつぱり思ひきれなくて、準備の本をつめこんで來たんです……」

小春日和のうららかな秋の日曜の午後、彼は突然私の玄關に訪れて來た。人並より大きくて太つてゐながら、小學時代からスポーツできたえた筋肉づきのガツシリした無邪氣な子供だつた彼はいつの間にか、ひよわな蒼白い容貌の持主にかはつて、スポーツシイズンもよそに、屠所にひかれる羊のやうな氣持で、この海邊へ保養に來たのであつた。彼にも亦腦力と體力との試煉としての入學試驗が、魔物の如く襲うて來て、彼からあの快活さを失はせ、あの頑丈さを奪つたのだ。

それでも轉地保養に出た彼は、大きな行李に一ぱいの書物をつめこんで、靜かな所で「優勝への地歩」をふみしめようとしてゐるのである。

彼の話によると、高校にはいる點に於て全國有數である彼の中學校では、彼の四年の時、同級生の殆ど半數が、高校其他有數な官立の學校にはいつてしまつた。そして彼も其の受驗生の一人だつたのが、不幸にも、落伍の悲運にあひ、今や雪辱戰にあせりつゝあつた所だといふ。なるほど、彼の同級生が、一高や商大の制帽制服で意氣揚々たる所を見ては、それはもう居ても立つてもゐられない焦燥を感じてゐるのは無理のない話だ。だが、こゝが危險の第一である事を知らねばならぬ。

「僕等も多少經驗があるが、何だか入學試驗を受けようといふ時には、丁度、自分の受ける學校の校門が、むしやうに高いやうな感じがするもんだね。」

「えゝ、じつさいさうなんです。何だか學校の門が、まるで、えらくきつたつた崖のやうに、自分の前にのしかゝつてゐるといふ氣持がするんです。こゝを一擧に登るんだ、こいつを征服するんだといふ氣持は、何だか、槍ケ嶽や上高地に登攀する勇ましさがあるやうですが、しかし癪にさはるのは、既に登つちまつて、――オイ早く來ないか、遠くが見えるぞ――といつて、

僕達を見下してゐる連中のゐる事です。何クソ！と思つたつて、どうしたつて、登れない事にはしやうがないし、登る爲の準備をする途中で、お醫者さんにやめろといはれるやうぢやだめです。すつかり悲觀しちまひました。」

「ウム、無理もない。だがね、君、其の聳立した難所を突破して、上にのぼつてしまつた君の同級生がだね、果して、君達に、早く來ないか、遠くが見えるぞ、といつて得意になつて、見晴し臺で凱歌をあげてゐるんだらうか。」

「僕等にはさう思はれてたまらないんですが……」

「遠くが見えればいゝ。しかし一つの山を征服する迄は更に前途にどんなより高い、より險しい山がそびえてゐるかわからないのだ。君のいふ友達が一段上に登つて得意顏でゐるかもしれないしかし、まだ〳〵彼等の直前に於けるより大きな難關を越えねばならぬ時、とても凱歌どころではあるまいと思ふ。學校を卒へて學校に入り、學校を登りつめて世の中に出る——かういふ道に直進してゐる受驗生には、岐路が足下に迫つて、迷ひの來る事も知らず、只もうわきめもふらずに合格、入學への熱心さでかたまつてゐるのだ。

何事でも、わき目もふらぬ熱心さでやりとげるといふ事は最も大事な事で、うら若い君方の時代には之がわりあひたやすく出來るものなのだ。所謂浚頭するといふ狀態を幾度か重ね〳〵してゐる中に、遂に優勝の地位が得られて來るのだ。けれども、元來浚頭といふのは頭を浚する事なのだ。當の目的に對して遂行しようといふ事の中に全く頭をスツポリと入れてしまつて、外の事は何も考へない狀態なのだ。君方でいへば、つまり、上の學校にどうしてもはいるのだ。何としてでもいゝ、どんな手段を講じてもいゝ。とにかく、上級の學校に進まねば恥だと考へて、神經衰弱になる程努力してゐる事だ。受驗準備への浚頭——まことに雄々しくも亦涙ぐましい事だ。

私も、君達のその努力は十分に買ひたい。だが——。

だが、しかし、その受驗努力の結果、どこの學校へはいらうとするのだ。その學校へはいつて卒業してから何をするのだ、といふ問題はしつかり考へないでよからうか。その時はその時の風がふくといつてすまして居られるだらうか。

私は諸君の受驗への浚頭を讃美したい。しかし前途未定のまゝ、只目前の問題にのみの浚頭は大なる聲を以て之を否定したいのである。諸君の榮達の爲に、國家社會の諸君に對する期待の爲に、受驗への浚頭の以前、まづ前途の目的への浚頭を、諸君に提唱したいのだ。

2. 導くもの

―君は學科の中で何が一番好きかね。
―何も好きなものはありません。
―それぢあ勉強するのは苦しい許りぢやないか。
―えゝ苦しいばかりです。
―何のためにそんな苦しい思をして勉強してゐるのだ。
―何の爲つて、さうですねえ。高等學校へいつて、それから大學へ行つて……
―大學へいつて、それから？
―さう追求されては困りますが、まあ、友達が、皆大學へ行くといふから私も行きたいんです。
―お父さんは何うせよと仰有る？
―父は私の勝手にしろと言ひます。
―高等學校へ行きたければやつてやるし、行きたくなければ家へ歸つて來いつて？
―えゝ。

―それぢあ、もう厭な學問などやめて、家へ歸つてブラ〳〵遊んで居たら好いぢやないか。
―でも、皆が高等學校へ行けば、私も矢張り行きたいんですねえ。

これは或る雜誌に載つてゐた教師と生徒との問答である。「さう追求されては困りますが、まあ友達が皆大學へ行くから私も行きたいんです。」といふ生徒の心持は、如何にも子供子供して無邪氣さが可愛いゝけれども、身長五尺何寸、立派な大人としての風貌をそなへながら、「皆が行くから僕も行きたい」は、ちと子供すぎはしまいか。子供だから、「さう追求されては困つて」しまふのだらう。けれども、私が前途への曙頭に先だつてしてほしいと云つたのは、つまり、君達にこの「追求」をしたわけなのだ。私はあくまで「出てそれから」「卒業してそれから」をグン〳〵追求したい。この問題について、諸君も諸君自身を追求してほしい。諸君自身で前途の事を突込んで熟慮してほしい。曾て

I don't know where I'm going, but I am on my way. といふ俗謠（ヴォードビル Vaudeville song）がはやつた事がある。「さう追求されては困る」人々は、皆この俗謠の讃美者なのだ。この俗謠に陶酔する所、諸君の前途は暗澹たるものである。「どこへ行くのか知らないけれど、兎に角私はあるいてる。」で世渡りが出來るかどうか、成功者になれるかどうか。

まあ、しかし、それでもいゝ。十七八位の時代に、世の中の事などそんなにわかるものではない。わかりすぎてゐる人間は、マセすぎてゐて、かへつて工合がわるい。目前の事を一歩一歩忠實にやつて行くといふ事で結構かとも思ふ。けれども、將來何かの仕事をもち、何かの部署について、自分を發揮して行くのだといふ事は嚴然たる事實なのだ。自分の要求なのだ。世の中が自分に要求する事なのだ。たとひ、自分に、將來の仕事、將來の部署がわからないとしても、誰かが自分の事をよく考へてくれなくては困るではないか。

そこで、自分を一番考へてくれるのは親だ。一番心配してくれるのは親だ。所が——

——お父さんは何うせよと仰有る？

——父は私の勝手にしろと云ひます。

前途のわからないものに對して、「勝手にしろ。」は、どうもあまり冷淡な感じがする。我が子いとしと思はない親は、恐らくないだらうのに、行き先きのわからない子供に「どこへでも行け、金だけはくれてやる」といふのは、まるで、昔の勘當としか思はれない。だが、今の時代はかうした「おやぢ」が多いやうである。この父などまだ話せる方なのだ。もつと以前には、むすこは全く自分の所有物なのだから、父の思ふ通りの事をさせようといふので、すきでもきらひでもか

まはない、いや應なしに、父の命令で仕事をさせられたやうな事が多かつた。しかし「今の子供はなか〳〵親の自由にばかりはなりませんよ。我々の時代には、よみかきそろばんで間に合つたものですが、現在は、なまやさしい事では、一人前にはなれませんし、親がかうしろといつたつて、子供の方から、りくつづめにされちまふんで、結局どうも、子供のすきなやうにする外ないんですなア。」——話せるおやぢ、開けたおやぢも、實は、最愛の我子すら自由にならぬ。あきらめの悲哀をかこつてゐるのだ。

「私の勝手にせよ」といはれる人が諸君の中にあるとするならば、其の人は、甚だ重大な責任を自分に負はされたものだと思はねばならないわけだ。自分のえらむ道に對して、成功も失敗も皆自分の責任だから、それだけうつかりしてはゐられないのだ。だのに「さう追求されては困る」やうな雷同的高校志願者では、むしろ高等學校の方で御免をかうむりたいではなからうか。

かうなると、自分にも行くさきはわからないし、親は勝手にしろといふし、どうも困つた事になる。でも、もうすぐに中學を出て、何とかしなくてはならないし、上の學校にはいるべく、受驗の準備は一刻も忽せに出來ない。前途の問題を放擲して、受驗への沒頭はあぶないし。……何だか、危機が刻々に迫つてくるやうな感じで、胸がさわぐではないか。

3. 目的への没頭は

かうした時に相談相手になつてくれるのは、先生である。親といふものは、子供をこの世に於いて一番よく觀る機會をもつてゐる。一番多く我子との接觸が行はれてゐる。しかし、親は、何といつても血につながるものに對して、愛のまなこで見てゐるから、ひゐき目に見る事が多い。買ひかぶる事が多い。自分の子は、そんなに馬鹿だとは思つてゐない。しかし時には、まだ子供だから、何もわかりはしないといふ、實際よりも低く評價する傾きもある。つまり、親から見ると、正當な觀察が困難になるのだ。

そこへ行くと、教師は、親ほど接觸する機會は少いけれども、多數の生徒をならべて、冷かに觀る事が出來る。この生徒ならば、どの位の頭があるといふ事が大體わかる。だから自分の行き先がわからず、親も自分の勝手にしろといふ場合、勝手のわからない時の相談にはどうしても教師をたよるより外はない。けれども――

――それでは、もう厭な學問など止めて、家へ歸つてブラ〳〵遊んで居たら好いぢやないか。といふ教師がある。あゝ、救はれない哉、中學生諸君――といひたくなる。

「學校出」のねうちに疑をもつ現代ながら、尚我も〳〵と、學校に行く時、學問がいやでも、やめてしまふ事が出來ないのは、若人の氣持として、みとめねばならない。殊に親が相當の地位をもち、又上流の家庭である場合、中學を出ただけで、もうやめろといふ事は、親自身もいひたくなからう。學科の中何も好きなものがなくて、勉強が苦しいばかりだとしても、さう簡單に「いやな學問など止めてしまふ」ことは出來るものではない。だが近頃は、高等教育を受けた人が桝で量る程ゐる。否桝で量る程ロがなくて遊んでゐるのだ。そして、學校出必ずしも成功の所以にあらずと、一般が考へ出した。しかし、學校を出ないでもやれる實力者はいゝとして、普通のものでは學校で勉强したのと、學校へ行かないのと、世間が同列には考へてくれない。「學校出が遊んでゐるから」「學校へ行かずともいゝ、といふ事が一がいにいへたものであらうか。

しかし、頭もよくないし、學問もいやだといふものを無理に勉強させようとするのは、まるで水攻め火ぜめのかはりに、理論ぜめにする所の、いはゞ、知識の牢獄のお仕置きに齊しいから、止めろといふのもいゝかもしれない。けれども、この先生の云つた「家にかへつてブラ〳〵遊んでゐたらいゝぢやないか。」は、あまりに、ひどい導き方だ。

第一、ブラ〳〵遊んでゐるといふ事位、苦しい事はないのだ。隱居株の六十七十のぢいさんの

中には、ブラ〳〵遊んでゐる人もある。枯木のやうな恰好をして、所謂餘生を送つて、ブラ〳〵遊ぶといふ人はある。それにしても、そのぢいさん、なか〳〵ブラ〳〵してゐるものではない。孫のお守りをするとか、植木の手入をするとか、碁、謡、なか〳〵心も體も動いてゐる。まして廿歳にも充たぬ、元氣溌剌とした、エネルギーのやりばに困る若人が、ブラ〳〵遊んでゐられるものでない。

だけれども、世間の教師には、かういふ暢氣な人はあまりないと思ふ。否もつと眞劍な人が多いと私は信じたい。君達が、上の學校にはいる事に向つて努力してゐる間、恰も自分が受驗生であるやうな心持で、さかんに援助し指導する教師を諸君は多分に頂いてゐる筈だ。入學試驗に出た問題を渉獵し、之を謄寫版に刷つて、練習題となし、通常の授業に疲勞した體に鞭うつて、科外の時間にも熱心に教へ、生徒を歸したあとで、答案をしらべたり、翌日の準備をしたり、まるで奮鬪的な生活をしてゐる先生が諸君の學校にも多數居られる事と思ふ。

しかし、私の、先生方に望む事は、受驗準備に沒頭する教へ兒への指導の爲にのみ沒頭されたくないといふ事だ。生徒が受驗準備に沒頭する前に、まづ前途の進路への考察に沒頭すべきだと主張する私は、やはり先生方にも、生徒と共に、生徒の前途の爲に、もつと〳〵沒頭してもらひ

たいとの願があるのだ。世間なれない生徒が、前途を知るよしもなく、親も子供の自由にまかせる傾向のある當今に於て、一層教師の、「前途指導」「目的指導」を望まざるを得ない。——だが、それは無理だかもしれぬ。

といふのは、現代の學生の傾向が、何でもかまはず、上の學校にはいらう〳〵で一ぱいであり他をかへりみるひまのない傾向がまだ濃厚である所へ、一般の世人が學校の成績を判定するのに「あの學校では、高校へ何人はいれた」とか、「此の學校では、官立の學校へ卒業生の半數受けたが一人きり合格しなかつた」といふ、數量的な、皮相な批判をもつて、全部の批評としがちな現今、時流に超然としてゐるわけには行かないし、又、この競爭のはげしい受驗に對する準備を、完全にやらうとすれば、どうしても、之れだけに沒頭せざるを得まいと思はれるからだ。

さうして又「前途指導」をやるとすると、諸君が學校を出てから、する仕事にどんな事があるか、どんな方法でそれにはいるか、といふやうな調査もせねばならない。これは現下の中學校の先生方に對しては重荷の上に加へた重荷かとも思ふ。だから、やむを得ず、現在への沒頭に、師弟共に走らざるを得ないのだ。だが、運命の分岐點は、刻一刻、諸君の前途に迫りつゝある。この十字路に

於ける方向なしに、只スピードを出して、いざこの四つ辻に立つた時、諸君は何處に行かうとするか。危險なる哉、中學四五年生よ、私は諸君の前途に幸多かれと望むがまゝに、諸君の未來を諸君と共に展望したいと思ふのである。

二　僕の未來は

1. 實現と現實

受驗準備に沒頭する途中、過度の勉强で神經衰弱にかゝり、醫者のすゝめ、母の涙でやうやう海岸へ保養にと出かけながら、まだ、思ひきれなくて行李一ばいに準備の參考書をつめこんで來たあの青年は、その後もチヨク〳〵私の所へ遊びにやつて來た。そのたんびに、彼はだん〳〵暢氣になつて來た。暢氣になりながら、愼重になり、光明にかゞいて來たやうだつた。

「けふばかりが一日ぢやない、あすの日もある。」仕事に倦みつかれた時の口實に、よくかういふ事がいはれるけれども、今、受驗にあせりつゝある諸君に對して、殊に病弱だとか、境遇上不如意な點のある諸君に對して、私はこの言葉をさゝげたい。曰く「今年ばかりぢやない、來年もある。」と。何もコセ〳〵する事はない。一年早く一高の帽子をかぶる事が、一年早く專門學校には いる事が、一生涯の仕事にどれだけひゞくか。まして、前途未定で十字路の一つをあてもなくきめて途中でさまよふ人と、こゝで一ぷくやつて、十分いきを入れ、其道をたづねて、一氣に走り

出すチヤムピオンと、其の決勝點に於ける成績の如何にちがふかは自明の理ではないか。よろしく近眼鏡をはづすべきだ。遠眼鏡で見るがいゝ。——こんな話をよく彼に話したものだ。彼も毎夜よく眠れるやうになつていつた。

とにかく、體は一生使ふものだ。まだ中學を出るか出ないかの年頃では、金でいへばまア親もとから其月の學資が屆いて二三日といふ所、まだ使ひ出がある。爲替が來る、局で金にかへるなりすぐにバラ〳〵とつかつてしまふと、あとの廿餘日は窮乏みじめで、友人に借用もせねばならぬ。しかし、金なら少々は友人にもかりられるが「青年時代」を一時に消費したとなると、これはもう、友人にだつて誰にだつて、エネルギーの借用は出來つこないのだ。二度と若くはなり得ないのだ。エネルギーの全幅を傾倒して得た大學の銀時計が丁度彼の葬式の日に屆いたといふ優等生があつた。これなどは、全く、學費をもらつて其日につかつてしまふよりは惜しい事だ。毎月の學費は、やはり豫算をたて、使ふべきであるが、一生のエネルギーは、一つしか與へられない生命であり、自分にとつて、最高の貴さをもつものだから、より以上、豫算なしの消費をつゝしまねばならない。君達だれ一人として、學校を卒へてすぐにお陀佛になるつもりで、受驗に沒頭してゐる人はなからう。だが、一生の自己消費の豫算はきまつてゐるか。一生涯のプログラム

はきまつてゐるか。

そんな事は、雲をつかむやうなものだ。一寸先きは闇の世だ。只學校を出さへすればその先きは何とかなる「この秋は風か水かは知らねども、その日のわざに田草とるなり」だ。

樂天家はさういふかもしれない。だが百姓の「その日のわざに田草とる」のは、實は稻を作る方法がチヤンとたつてゐて、風とか水とかの不可抗力を樂觀し、とにかく不可抗的障害がないならば、稻の豐作あれかしといふので、稻の敵なる田の草をば、百度の炎天の下、湯の如き水田の中でとつてゐるのだ「學校を出さへすれば」は、稻の作り方をしらずに田の草だけとつてゐるやうなものではなからうか。

私にも經驗がある、十八九位の時代には、もう功名心で一ぱいで、今に俺は知事になる、俺は實業家になる、軍人として幾萬の貔貅を叱咤する、など皆考へたものだ。今の青年は世の中が世の中だから、さうした甘い空想ばかりは描くまい。しかし、青年時代に描く所謂理想は、單一である。考が地についてゐない。行政官になるといへば、ズツと高い所だけを考へ勝ちだ。自分の頭に去來するものは、下積みの腰辨ではなしに、大禮服に燦然たる雄姿である。軍人になるといふ理想の人の頭には、退役陸軍步兵少佐の五十歲頃の自分の姿はうつつてゐないだらう。——が

實生活を一歩一歩ふみしめて見ると、金ピカの大禮服はなか〳〵着られない。少將は愚か少佐になるのも容易なものではない。皆い〳〵かげんの所で往生してしまふのだ。いゝかげんの所で往生したくはないが上れないからしやうがないのだ。その凡群の中で、鶏群の一鶴たるべく、諸君の未來を祝福したい私は、こゝで、たれも通る所の一生の道を考へて見たいのだ。

2. 人生の試驗期

ブールンといふ人のことばに、

「人の一生を支配する理想は青年時代に養はれる。」とある。一生を支配する理想などといふものは、青年時代には、ありさうにも思はれないけれども、四十になり五十になりして見ると、さういふ事が、なるほどとうなづかれて來る。さうして其のうなづかれる時代になつて、その理想が立派なものであつたら、もう一度出なほしはらまことに結構だが、「これはまづかつた。」と思はれるやうな理想だつたら、もう出來ない。所がどうも、青年時代に描く理想を、たてとほす事は、實現する事は、よほど困難なものである。色々の障害によつて、歪められたり、ひねくられたりして、結局「思ふやうにはならぬ世の中」の歌の味がわかつて來る。でも、理想を描ける人はいゝ。が今の青年は沒理想者が多

いぢやないかといふ老人がある。諸君、本當だらうか。

學校を出たものでなければ、相手にされないと思ふから、遮二無二、校門への突進を企てゝ夜も日もこれ足らぬ受驗生には、生涯の理想は樹てにくからうとは、前の所に話した事だつた。そこへもつて來て、やつとの事で學校を卒へた人が口がなくて遊んでゐるといふのだから、校門突進の理想者も、その鋒先がにぶつてくるだらう。惱みが起るだらう。理想もたて難いだらう。さうして、今の世の中全體が、色々な惱みを惱んでゐる時なのだから、尙の事、理想とか行くべき道のたて方がむづかしいのだ。だから、まじめな青年はもだえる。考へなしの若人は、煙草くはへて、映畫ファンになり、カフエの常連になり、不良にまで徹底する。理想などあつたものではない。しかし、さうした中で、幾年かを經る中に、理想といふよりは寧ろ一種の思想的な型が出來る。一種のタイプの人間が出來あがる。之が一生を支配する事になるのだ。だから、どんな混亂の中を行くにしても、自分の行くべき道をたづねて、しつかりした足どりでグン〳〵と歩みとほさねばならない。

とにかく、諸君は今の年までは、すべてが親がかりで、細い事までも、親のいふ所によつて行動を處理する事が多かつたのだが、これからはだん〳〵自分の考で事をきめて行かうといふ心に

なる。さうして、學校もきめ、學業もをへて、何かの仕事をする事になる。時代でいふと、諸君は、少年期から青年期への變移時代に立つてゐるわけだ。これから、壯年期の初め廿五六で世の中に出ても、すぐに縱橫に手腕をふるふわけには行かぬ。下積みにされ、仕事の上では子供のやうに扱はれて、十年の辛棒が要る。三十歳をこす頃になつて、だん〳〵一方の仕事に責任をもち人を使ふやうになつて來る。諸君の一生で、まづ受驗時代を第一の受難とするならば、私は三十歳代を、第二の受難の時代だと思ふ。勿論その間にも、小さい受難はいくらもあるが。とにかく三十前後で、家庭をもち、やがて子をもち、一方に事業上の責任をもつ。試煉の方面が廣くなり高くなり、深刻になる。仕事をして行く間には、正義の觀念の冒瀆を感じて、立どころに辭表をたゝきつけたい事もあらう。しかし、やめては食へぬ、妻や子に食はされぬといふ事のために、涙をのんでこらへる事もあるだらうし、部下のものが不始末をしたために、やむなく失職する事もあるだらう。事業に手をやく事もあらうし、得意さに却つて油斷をして、臍をかむ失敗を招く事もないとはいへぬ。事業上の經驗として、まださう深いといへないこの時代を無難に通過する事は可也むづかしい事だ。このむづかしい時代が、しかし心も體も一番役にたつ働きざかりなのだ。この時代が、人生成敗の試驗時だ。三十代であとの幕は大體わかつてしまふ。正に能力發揮

のクライマックスはこの時代なのだ。

このあとになると、大抵もう趨勢で行く。三十代の事業上の手腕、識見、人格などが、目上の人に、世の中に認められる時、四十の坂をこす頃になると、大會社でいへば、支店長の椅子が我を迎へ、やがては、重役の地位も自分を待つ事になるのだが、クライマックスの幕が平凡だと、最後の幕は、見物人が見むきもしない。役者は悲哀の中に、人生の興行ををはらねばならぬ。

今日、地方官などを見ても、內務部長や警察部長など、部長級の人は皆四十代以上である。知事樣などには三十代では不可能になつてゐる。大臣級の人になると皆六十以上の老人が多い。大會社の重役なども然りである。諸君の理想とする地位の如きは、その實現が今日の世の中として考へると、どうしても五十歳以後だ。これから三十年もの後でなくては、さうした地位にはありつけない。三十年の後——口でいへば簡單だが、その間、不斷の試煉にあふのである。諸君の試驗は年に三度位だらうが、人生の試驗は時々刻々である。さうして事業的に優位をしめる事は、三十歳時代の手腕發揮にかゝり存する。

所が、三十歳頃に手腕を發揮させる地位には、だれでもがつけるかといふと、なか〳〵さういかぬ。「この人間ならやれるかどうか」を見てからでなくては與へられない。では、いつ、自分の

力が見られるか。下積みの時代に、多くの下積みの材料の中から、上役は、事業の殿堂をつくる技師のやうな眼で、良材をひきぬくのだ。その良材は、どうして出來るかといふと、つまり良材の成長時代の結果なのだ。木材は、其苗木の本來の性質や生ひ立つ周圍の事情や、手入などで良材にもなれる。が「人材」は、その外に「自己成長」といふ事がある。木材はその成長の爲に他のお世話が殆ど絶對に必要だが、人材は、自己成長が殆ど絶對に必要だ。良材たるべく、好個の人材たるべく諸君の事を考へると、諸君は今、良材への生長過程の最も大切な時期にあるといはねばならぬ。この時に於て、世界の偉人が果してどんな時に活躍したか、何年位働けたかを見る事は、多望な諸君の前途を如何に照らすであらうか。

3. 偉人の活躍期

ドールランド氏は歐米の諸種の偉人に就いて活動開始年齢と活動最盛年齢とを調べた。活動開始といふのは、既に生涯の仕事について確乎たる志を立て、相當の準備を整へて後、世の中を相手として仕事をはじめた事をいふのであり、活動最盛といふのは、恐らく自己の志す所が、七八分通り成就した狀態に相應するものであらう。氏の調べた偉人中實際的仕事に近い種類のものを

少し擧げて見ると左表の如くである。

偉人の活躍年齢表 「年齢は多數の人の平均」

種類	活動開始年齢	活動最盛年齢	事業停止年齢
劇作家	23	44	59
發明家	24	44	71
小說家	26	46	61
軍人	22	47	59
探檢家	26	47	61
俳優	18	48	60
音樂家	17	48	58
改革家	28	51	63
政治家	26	52	64
歷史家	26	57	69
法律家	22	58	66

ドールランドの調べた所によると、人間の活動が圓熟し、最も著しい仕事を遂行する年齢は諸種の業を通じての平均が五十歳になつてゐる。恐らく夫等の人々の念願が八九分通り成就した時であらう。最も若いのは物理化學者の四十一歳であり、最盛活動期の最も遲いのは博物學者の五十八歳である。前表の法律家の五十八歳は少い人數の平均だから餘り確かでない。事業停止の年齡といふのは、一生の念願の略ぼ實現した時で、夫れからあとは餘生として休息に入る時限に當つ

てゐる。諸偉人の事業停止年齢を見ても平均六十四歳になるが、最も早く停止するのは詩人音樂家の平均五十七八歳である。尤もテニスンやヤングは八十二歳を以て作詩を停止し、音樂家のリストは八十五歳迄作曲を續けた。停止年齢の最もおそいのは星學者、數學者の七十二歳であるがニユウトンは八十四歳で停止してゐる。ドールランドの統計では、銀行家、實業家、工業家などは含まれてゐないが、大差はなからうと思はれる。

右の表は、各方面の偉人の統計である事を忘れてはならぬ。非凡者の事業年數である事を注意せねばならぬ。も少しこの表をたどつて、活動開始から、停止までの年數即ち一番えらい人々が一體何年働けたかを見ようではないか。

一番年數の長いのが、右の表では發明家である。四十七年間、隨分長いものだ。發明といふ事自身にさういふ性質があるのだ。エヂソンの如きは昭和五年に於て八十三歳だが、これ迄に二千種の發明をやつてのけた。昨年は彼の發明した電燈の五十年祭が行はれた。電燈の發明一つでも、どの位世界を明るくした事か。しかもまだ丈夫で諸種の發明に日夜沒頭してゐるのである。次が法律家の四十四年、歷史家の四十三年、俳優の四十二年、音樂家の四十一年、あとは政治家、軍人、劇作家、小說家等の順で、最低が三十五年間である。次に活動開始期から、最盛活動期まで

の年數を見ると、一番早いのが、やはり發明家の二十年、小說家と同年である。次が劇作家、探檢家の二十一年、一番遲いのが、法律家の三十年間である。これだけについては、明瞭な判斷は出來ないけれども、偉人といはれる一流所(ごころ)の人ですら、活動開始の爲準備を整へてはじめても、念願の大體成就する迄には、少くも二十年の歲月を費してゐるのである。これだけの平均でも二十六年間になる。學校を出て一足とびに高位高官を夢みる事の如何に「夢」であるかがわかるではないか。それから、右の表に於ける偉人方の活動年數の平均が三十九ケ年である事は、人生の活動時間の非常に短い事を示して居るのである。しかもこれらの偉人は此僅少年數の中に、不朽の大事業をなし、不朽の名作を後世に殘してゐる。念願成就といふ事は、實際の年數でいふとどうしても二三十年かゝるけれども、本當に働く正味の時間は、人生七十年と見て、丁度其の五分の一にもたりないものだ。そして彼等は、その僅少な時間の中に、永久的名聲をもつ仕事をしたのである。しかもこれは、前にもいふ通り、非凡傑出の士の話である。平凡なる大衆は、事業開始の年がたとひ同じであつても、最盛活動期まで永くかゝり、停止期も早いと見ねばならぬ。殊に近頃のやうに、教育をうける年數がいよ〳〵長くなり、最高學府を出るのが、どうしても二十五六歳で、二三年は物にならぬと相場がきまり、還曆に至らずして、パサリ〳〵と首になるものが

多いとなると、活動年數はいよ〳〵少くなり、念願成就までの年數が長くかゝり、念願の達成の可能性が少くなり、達成の程度も小さくなるのだから、うつかりしてゐれば人後に落ちて、平凡な生活すら出來ないやうになつてしまふ。しつかりせねばならぬ。孔子樣は二千年の昔に於て「四十五十にして聞ゆる事が無いなら、其人は長るゝに足らず」と云つて居られるが、なか〳〵今の時代には聞ゆる事が難い時代になつてしまつた。

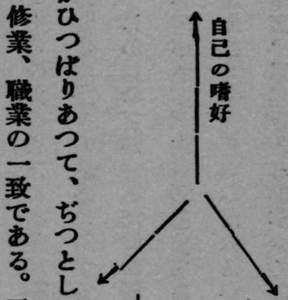
4 嗜好と修學と仕事

こゝで、我々がこれからの時代に向つて、念願をたて、之を成就する上に、右の表からして、こんな事が示唆される。

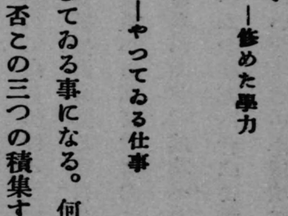
まづ確乎たる念願をたてる事だ。自分の能力や事情に對する考慮を十分に拂つてしつかりした念願をたてる事だ。

次には、事業開始年齡迄に、眞劍な準備をする事だ。「この人ならでは」の特長をつくる事に全力をそゝぐ事だ。この頃のやうに人が多くなると、「この人ならでも」で簡單にあしらはれてしまふ。「でも」にならず「では」主義で行かねばならぬ。

事業開始の準備をしたら、それにむく仕事につかねばならぬ。少し位條件がわるくてもいゝ。でもかゝる仕事の與へられぬ事がこの頃非常に多い。自分の性格にそぐはぬ學校にはいり、卒業してから、性格にもあはず、學校で習つた事も役にたゝぬ、方面ちがひの仕事をさせられてゐる人が可也多からう。これは丁度、力の發動からいふとこんな事になる。



これでは、三力がひつばりあつて、ちつとしてゐる事になる。何にもならぬ事になる。私が强張したいのは性格、修業、職業の一致である。否この三つの積集する事である。之を圖にかけば



ちつともむだがない。力は同一方面に進んでゐる。過去の悉くが活躍して加速度的効果を及ほし等比級數的能率をあげ得る要素をもつてゐる。所が、前の圖のやうならば、お互に邪魔をしあつ

て三力等しいとすれば、中心はゼロ。停滯である。とうてい成功どころの話ではない。

仕事が性格にも修學した事にもよくあふとしても、之で成功するか。いや決して然らずだ。偉人の表は平均廿六年間を以て、最盛活動期に達する事を示してゐる。い、仕事が見つかつたら、動かずに三十年の辛棒が必要である。努力の三十年をかけねばならぬ。活動期四十年、其の中の三十年は、努力して上るのだ。まさに事業に對して命をかけるだけの覺悟をもたねばならぬ。その間には、持久力が要る。諸々の誘惑に對する抵抗力も要る。目先も早きを要するだらうし、創意も必要であらう。しかし命をかけるだけの根柢があれば、努力は努力でなくなるものだ。

もう一つ云ひたい事がある。大目標をたてるもい、が、成功への道の各が成功でなくてはならぬ事だ。大目標の爲には、手段をえらばぬといふやり方は昔はよかつたかもしれぬ。がそれは、途中をさぐつて見れば、罪惡である事が少くない。さういふ成功には、惡評が伴ふ、惡罵も伴ふ否惡運があとから追つて行く。時には刑事も追つかけて行く。成功は、自他共悅でなければならない。自他共悅の刻々の成功は、つまり他日の大成功の建設である事を牢記せねばならぬ。刻々の成功は、刻々の活躍を土臺とする。諸君の今乘り出さうとする前途は實に刻々の活躍に終始せねばならぬのである。

三　變革の時

1. からだの過渡期

刻々の活躍による三十年の努力は、「偉人」の數稱を巨人におくつた。彼も人、我も人、奮發一番勇敢なスタートを切らうとする時、第一に見つめねばならぬのは、自己の起つ現在の狀態である。そして諸君の時代は、實に自己成長の維新の時期である。變革の時代である。歷史上の變革の多い時に、其の時代の社會も社會人も惱みが多く混亂も多いやうに、一個人の變革のある時も惱みが多いのである。だから、自己成長に向つて努力しようとする諸君に於ては、惱みながらも自己の伸び行くすがたに凝視せねばならぬ。

諸君は今や元氣橫溢せる青年にならうとしてゐる。其かはりめが卽變革の時代なのだ。聊少年から青年にうつる時といふのは、結局、體が子供から大人になる時であり、之につれて心も亦子供から大人になる時なのである。故に諸君自らの成長をはかるには、自分の身體の變化を知り、精神の變化を知つて、之にそなへ、之を伸長する事が　最も合理的なわけである。諸君の身體は、

此の頃めつきり變つて來たことだらう。

變つてくるわけだ。體の一番大きくなる十五六歳から、新しい細胞が出來てくる。之に基いて新しい生理的組織が生じ、新しい腺が發達し、又新しい內分泌といふ作用が加はつて、この土臺の爲に、心の方面殊に感情の方面に非常な變動が來るのである。だから青年期は體と心の發育上最大變動期なのだ。それに氣も止めないで勉強すると、神經衰弱になつたり、呼吸器を痛めたり、つまらない事に悲觀したり、行李をかついで海岸へ行くやうな事になつてしまふ。一命あつての物だね」の諺は古い。古いけど本當だ。體あつての成功ではないか。其成功の大もとたる體の一大變革點にたつ諸君が、之に無頓着でいゝ筈はない。一つまじめに考へようではないか。

青年期に於いて、體の變化の著しい方面の一つは、筋肉の發達である。博物學中の生理學で諸君が習ふ時、名の多いのに閉口した事だらう所の、あの全身三百二十餘程の筋肉の目方は、十五才以下の時だと體重の三三%以下だが、十六歳以上になると、めつきり太つて、四四%以上になる。その增加は主として大きな筋で、腰や肩、手頸や脊中にあるものである。指先や眼、口などにある小さい筋肉は、この時期に一時發達を中止して、筋肉の大物がウンと太り出すのである。だから相撲だの、柔劍道、テニス、ボート、遠足など、大筋肉の運動がすきになるわけだ。そし

て、小筋肉を使ふ動作は一般に下手になつて、何となくぶしつけになる。從つて、體つきがどつしりしてくると共に、體のこなしが、ドタリ〳〵、ノソリ〳〵で一見粗暴に見える事になる。汚い手拭腰に、朴歯の足駄カラコロと、高歌放聲の若人は、實にその標本なのだ。

心臟なんかも、青年時代の發育はめざましいものがある。其のめざましい發育は、つまり血液の循環を强盛にし、感情のあらはれがつよくなり、感情生活が旺盛になる。「血氣さかりの若者」とは奇しくもいはれたものである。情熱的、時には熱狂的になるのは青年時代の特色なのである が、これはハートの擴大充實といふ、生理的事實が土臺なのだ。

もう一つは、內分泌腺の作用である。之の中の一の作用は、男は一層男らしく、女は一層女らしく特色づけるはたらきをもつてゐて、此の青年期に於て、眞の作用がはじまるので、異性に對する引力的興味の發現の如きは、結局この腺の作用に根柢があるのである。

2. こゝろの變動期

かうした體の變化は、心にどんな變動を來すだらうか。年齡から見ても、十五六才以下が子供の時代であり、卅歳近くから壯年時代とすると、子供の時代は親がかりの時代であり、壯年時代

は親としての實質をそなへた時代である。子供から親になるその中間、丁度、親になる準備的時代が青年時代となるわけである。で、幼兒の頃は、何といつても母が自分の生活の中心をしめて居るが、八九才になると、理想の對象を父に見出し、青年初期頃になると、年長者又は上級者に對して、父と同樣の信賴の態度を示し、後には同級のものに向ふやうになる。其の一方に於て、思想的には古今の著名な人物を崇拜するやうになるものである。かうして中等學校四五年生位になると、青年期的變動の中心時代になつて來る。

もう中學の四五年生では、體の方は成人に接近し、獨立の地位に達するが、精神の方面でも、他にたより、之に信賴することを中止して、精神的獨立への準備をするやうになる。卽ち從來の從屬から獨立への進展といふ、エポツクメイキングな時期が、青年期に於ける精神的危機なのである。この時代の青年は、もはや他人の精神に屈伏したくない。自分自身の精神の上に、自分の生活を開展しようと焦燥する。しかも彼の心の底には、英雄に對する崇拜の念も、前ほどつよくなくなつてゐる。過去の偉大な人物に對しても、色々とアラが見えて來る。それでゐながら、自分の心に、理想の人物を構成するに十分な材料もないし、又それだけの精神的な力もない。卽ち古今の優れたる思想も絕對に肯定し得ないと共に、又自ら主張すべき自己のしつかりした思想も

持つてゐない。本當の意味の崇拜、獨立、權威、服從、責任等の考が缺けてゐるのは正に此の時期なので（今の社會が如何に酷似してゐる事よ）精神生活に一定のより所がない事になるから、ハタで見てゐる目上の人にとつては「危いなア」と思はれるし、「ちと脫線してるぜ。」といはれるのだ。

私たちも、その頃の自分の考としては、何もそんなに「危い」とも思はなかつたし、脫線してゐるなどとは考へなかつたが、「危いなあ」の時から十數年後の今、ふりかへつて見ると、やはり「子供だつたわい。」の感なきを得ない。殊に、自信といふものもなく、目上の人のいふ事がどうも本氣できけないやうな心持、中心を失つたやうな、妙に落ちつきのない氣分は、あり〳〵と思ひ返す事が出來る。行李に準備書をつめて、海岸へやつて來た、あの神經衰弱君なども、之には「本當です。全くです。」と內觀の瞳を上向けてゐた。

中心のない生活、太い柱といふものは、上に下に、右に左に、色々の力が引つ張つたり、抑へたりしてもビクともしない力があるから、大地のゆらぎにも堪へ得るのであるが、生活の體驗が、年かさから見て、まだ極めて不十分な時代に於ては、この柱が至つて細いし、至つて柔軟である。

でも、この細いながらの柱、柔軟な柱も、外部から引つばられ、おさへつける力が微弱ならいゝのだが、不幸な事には、此の細い柱に對して、とてもつよい力が、右からも左からも、押す、引く、搖がすで、其のたんびに柱はあつちへグラリ、こつちへノタリ。中には傾くものがあり、たうとう倒れてしまふものもあるが、しかし、自己の力を信じて、じつと其の力に抵抗しようといふ柱は、次第に抵抗力が增して來て、細い松柱の如きものが、遂には、樫や欅の如き堅い太柱となり、如何なる引力にも、如何なる壓力にも堂乎として微塵も動かぬ程のねばり强さが出來るのである。君方は、その太柱、どつしりとして何物にも動ぜぬ堅材を、大立者の中に、大黒柱に見出すだらう。何々會社の重役、大政黨の首領などいふ人々の風貌を見たまへ。その中には、悲風慘雨をくゞりぬけ、幾たびか倒れかけたのをふみしめ〳〵して來た彼の太い〳〵堅柱のおもかげが見えるではないか。諸君の未來もその太柱の樹立に向つて猛進されん事を望むや切である。いつたい此の細い柱が、外部から果してどんな力をもつて、引かれたり、押されたりするか。

3. 自己をゆり動かすもの

神經衰弱君も、私の所へ話しに來る間に、だん〳〵暢氣になつて、再びもとの快活な受驗生になつた。ある時——

「君、運動會などの時、トラックを走るスピードがだね、どうもあの婦人席の所へ行くと、特に猛烈になるんぢあないかね。」

と、私はきいて見た。

「先生、覺えがあると見えますね。」

と、逆襲するだけの餘裕が彼にも出來て來た。神經衰弱もなほつたと見える。

「覺えがあると見えますね——は御挨拶だが、すぐさういふ文句が出る所を見ると、君にもてつきり覺えがありますね。」

私は逆逆襲をやつたものである。好個のスポーツマンたる彼も、かうした問題には、まだチヤンピオンでない。ちと羞かむやうな氣持が見えた。

實際、婦人席の前では、ありつたけの力を出さないと、笑はれるといふ氣分なのださうだ。諸君には、そんな「覺えはあるまい」が、これは、前に云つた、內分泌腺の發達の爲めに、男が一層男らしさを增したせゐでもあるが、男らしさは女の人の前に出ると、一層つよくなるものだ。つよくなるといふ事の背後には、天地の妙合、神の撥理といつたやうなものがあるのだ。

人間には、自分の命を永續させようといふ本能がある。一つには、自分がどこまでも長く生命を維持したいといふ慾があり、一つには、自己といふものを、子孫といふ形に於いて永くつゞけようといふ慾がある。自分の體の永續的維持、これは、オギヤアと生れるが早いか、乳をのむ事から出發して、坊さんを賴むまで續くのだが、一方の、子孫をのこすといふ本能の方は、所謂年頃になつて、最も熾烈になる。內分泌腺の發育などいふのも、實は其の支度なのである。で、子孫を殘す爲には、どうしても異性を求めねばならぬ。こゝに異性への興味といふものが、だん〳〵はつきりして來て、はては、之が意識の中心を占める位になる。中心を占める時代はいつかといふと、それが、中學を出る頃からなのである。しかも、この事は、青年に於て然るが如く、處女に於ても然りなのだ。青年はなよ〳〵した女らしさの十分ある女性に特に興味をひかれ、女性は男性美を十分に發揮した男性がすきなものだ。——とかう云つて見ると、運動會の婦人席の前のスピードは、知らず〳〵男性美の發揮に、全力をそゝいでゐた事になる。かういふ能力があればこそ、一般生物も、人類も永く存續して來たのだ。だが、此の能力が、偶然の機會に發揚されると、英語も數學も受驗準備も、前途の光明も何もあつたものではない。一路驀進、魔道への躍進となつてしまふ。私は、異性に對する興味といふものは、丁度火のやうなものだと思ふ。火は我

々にとつて必要なものだけれども、亂用すれば忽ち消防の厄介になる事になる。でも、家は燒けたつて、又建てる事が出來る、「燒け太り」もあるが、異性への火の亂用された結果は、自己再建の不可能となる事が甚だ多いのである。しかも、青年時代には、かういふ意識の、かの細い柱をゆり動かす事が非常につよくなるのだ。諸君は善良な家庭に育ち、前途へのあこがれで一ぱいになつて居られるから、かういふ火は燃えて居まい。けれども、この火は、隙があると、パツと燃えつく性質がある。引火性のある揮發油や石油のやうな時代が、諸君のまはりを囘つてゐる事を警戒せねばならぬ。

細い柱をゆり動かす外部の力は、まだ此の外にも色々ある。心臟の急激なる擴大は、感情の激發を導き、とかく、後になつて見ると、つまらない事でも、其時に於ては、重大事に思はれて、喜怒哀樂がずつと誇張され、擴大されて考へられるので、その爲に思はぬ失策を招く事もある。野次性、ストライキ性などの爲に、大した問題でないものが、大した問題のやうに思はれるのもそれなのだ。それから、青年の野望は、自己を理想の天國に導くけれども、現實の狀態に接し、實現の困惑に直面する時、これも青年時代の特色たる、懷疑心のとりことなり、「此の世は何が爲に在るか。」「我等如何に生くべきか。」「人は何の爲に生くるか。」など、煩悶、悲觀に陷り、はて

は「大なる悲觀は大なる樂觀と一致する」やうな氣持になり、大きな瀉壺に魅惑されるやうな者もある。思へば多難である。

しかし、かうならべたてられると、ウンザリして、折角夢中になつて和文英譯に熱中し、二次方程式に沒頭してゐた諸君のあたまが、いまはしい雜念にかきみだされるかを怖れるのだが、諸君に最もいゝ事は、青年時代が「力の意識」の最も旺盛な事である。大筋肉の發達に基く戸外運動への愛好に於いて、「強さ」を發揮しようとするあの力の意識、上の學校への受驗に於て、他にヒケをとるまいとする力の意識、これが後々の事業に對する沒頭、事業に對する成功、難難征服の讃美の意識の下準備になるのだ。

つまり諸君の時代は、一面には、親になる爲の能力が、ボツ〳〵發現すると共に、事業王たるの能力の試煉となる力が次第に體の內に脈々たる發動性をもつて來る時期なのである。こゝに於てか、青年の危機は、正に危機突破のいゝチャンスを與へられた時代なのである。こゝに於てか危期は、元氣旺盛なる諸君にとつて、正に喜期であらねばならぬ。

四　現代の世相

1. 萬年不景氣

內憂外患——といふ言葉は、我が國史に於ては德川の末期、西洋史上でいへばローマ帝國の滅亡前などに用ひられたものであつた。內憂のある所、外患の起りやすく、つけこみ易いものである事は、歷史が敎へるばかりでない。一家の存亡も、一會社の興廢も、大抵、內憂があつて外患がこれにつけこみ、遂に潰滅、破產等のうき目にあふのである。さうして、諸君も今やまさに內憂外患の時期に頻してゐるといはねばならぬ。

前章に、私は、君達の時代は、內部的に、精神肉體兩方面の劃期的時期であつて、さま〴〵の內憂が起り易い時なのだとのべたが、現代といふものが、現代人全體にとつての外患であり危機であるが故に、現代人の一部として、殊に內部的に憂患をもつてゐる現代青年にとつては、現代の危機は、一層痛切な影響を與へ、一層痛烈なる「外患」となつて、諸君の內憂を一入深刻にすると同時に、內患外憂相呼應して、遂に諸君自身の全幅が、これが爲に征服されはしまいかと思

はれるほどの力をもつて來るのである。故に、私は、受驗害の一頁をよむ時間を殺いてなりと、「現代危機の凝視」「現代危機の突破」を諸君が熱心に考へられる事は、將來ある諸君にとつて、春秋に富む君方にとつて、極めて大切な事と思ふ。然らば現代の危機とは如何？

一口に曰へば、現代ほど「難」の字のゆたかな時代はない。曰く「入學難」。これが、中學には入る時諸君の直面して來たものであり、さうして今正に、上級學校入學難に直面してゐるのである。その次に、諸君に御目見えするのが「就職難」。そこをくぐりぬけると「結婚難」。次には「生活難」。共生活難が、此頃のひどい不景氣でいよ〳〵猛烈になつて來た。失業者續出、減俸さわぎでいよ〳〵生活の樂しさが減退した感がある。之が一時的な不況で、やがてはいゝ景氣になるのかといふと、實は萬年不景氣だらうといふ人がある。じつさい、日本は人口增加の割に國土狹少で天產が乏しく、食、衣、住の原料や之が栽培用の肥料、生產機械等を年額十億圓宛も輸入しなくてはならないのに、そのかはりとして外國へ賣るものは生糸である。それが近來ガタ落ちの安値である。日本では生活必需品を外國から買はねばやつていけないのに、贅澤品たる生糸をその代償にするより外はないのだから、とても苦しい立場にゐる。ところへ世界中が不景氣だから皆自分の國の利益ばかり計るやうになる。と、物の足りない日本のやうな國はいよ〳〵まゐつてし

まふ。萬年的永久的不景氣といふ話も根柢のない事ではないと思はれる。國家がかうして窮乏なるが故に、一家の生活もらくな筈がないのだ。それならば、もつとらくに生活の出來る國はないか。そこへ行つたらいゝではないかといふ事になる。人口少く國廣く仕事の多い所はどこにあるか。まづ人口密度の問題を見よう。

人口の密度については、地理の先生が、躍氣となつて教へてくれた事だらう。日本は內地一平方粁に一五六人だのに、アメリカは一二人、南米ブラジルは驚くなかれ四人だ。（昭四、帝國統計年鑑）狹い天地に跼蹐せんよりは、萬里の波濤をこえて南米に飛躍を試みよ、南米は諸君の如き活氣ある青年を待つてゐる、などと教へられはしなかつたか。政府でも盛んに移民奬勵の太鼓をたたいてゐるし、國內の生活難にたまらずに、出かけるものが多くなつたけれども、昭和三年一ケ年にブラジル行の旅券下附がザツと一萬二千人である。この中には視察してかへるものも含んでゐるから、定住移民はこの全部でない。全部とした所で、百萬近くふえる人口の百分の一。しかし、血氣に充ちた青年の中には、內地でアクセクするより、南米で大成功をと、志を立てる人も少くなからう。そして又、海外發展は現下の我國に最も必要な事なのだが、いざ行かうとする と、鎖國時代に生まれたお祖父さんお祖母さん、其息をふきかけられて育つた兩親が、「そんな三

月もかゝつてえたいの知れない土地へ行つて、もし病みわづらひがあつたらどうする。こつちから看病にも行けないぢやないか。親の死に目にもあへぬ。生きわかれなどせずと、このまゝ、どうにか一家が一緒に暮して行く方がいゝ。よせ〳〵。」で、島國根性の方が勝を占め、「人間到る處、青山なし」となる事が少くあるまい。そこで、國内は押すな〳〵の賑ひ。競爭もはげしくなり、共喰ひも行はれる。人情も紙の如く薄くなる。「難」の字がいよ〳〵ゆたかになるにつれて、國民生活はます〳〵乏しさを加へてくるのである。

2. 神經は疲れる

國民生活が、しかし、乏しさを增して來ても、實際に於ては金もちが澤山ある。諸君の如く中學校にはいれるし、更に高校から大學へと志し得る人々は、生活のひどい脅威を受けぬ家庭に育まれたわけで、全く幸福を感じて然るべしだが、しかし、今の人間は、世をあげて、よわつてゐるのだ。萬事が金の世の中、Money is almighty の現代で、金持ちだけは幸福だらうと思ふと、決してさうでない。

金を澤山もつてゐて、商賣をしてゐる企業家は、皆神經が昂奮してゐるのだ。一體今の實業家

は、大部分、無限的營利心によつて動かされつゝあるのだと學者はいふ。即ち無限に金を儲けようといふ欲求が現代企業家を支配してゐるから、利益のある事なら何でもする。昔の人が賤しんだ仕事でも、利益がありさへすれば大仕掛にやつて巨利を博しようとする。次第に、營利といふものが事業慾の形をとつて、事業の爲の事業といふ心持になり、大實業家といへば、數十の會社の重役となり專務となり社長となつて、年々數十萬の常收入がある人を第一に推すやうになつてゐる。だから、今日の企業家は、我が事業によつて世に貢獻し、之を以て己の天職とするといふやうな心持の人は甚だ稀で、多くは、千手觀音的に、三面六臂の地藏樣のやうに、あらゆる方面の事業に關係してゐるのだ。神經がつかれる筈である。

でも、三面六臂の手廣い事業により、三方六面からいつも巨利を得るなら、神經が疲れても我慢出來るが、今の大企業は、投機的な所が多い、即ちヤマをかけた仕事が多い。アイドルボーイの、苦しまぎれに試驗の際ヤマをかけるのも、往々にしてはづれる事が多く、むしろ、外れるのがあたりまへで、遂には、ヤマから、落第の谷へおとされる事があるやうに、企業に於ても、景氣の激變にあふとか、大銀行がつぶれるとか、經營が誤つてゐるとかの爲に、一朝にして破滅する事が少くない。昭和二年の春に於ける財界破綻で、大銀行が澤山つぶれた事などは、諸君も大

抵承知の事と思ふ。そこで、企業家は、三方六面から、巨利がめぐまれる時もあれば、四方八面からの巨損に蒼くなる事もある。不安なものである。不安を伴ひつゝ、働きすぎ、神經ばかりが昂奮する。其の結果は、神經疲勞となるのが當然であらう。

それから、この大企業家に使はれる人々、卽ち會社員、銀行員、技師などいふものから職工勞働者に至るまで、やはり此の大企業と運命を共にするのであり、——昭和二年の財界變動以來、ひどい不景氣で、如何に多くの會社員銀行員職工等が、首になつた事であらう——たとひ、企業が存續しても、使はれる身は、終生、首の心配がないとはいへない。不景氣だといつては人をへらし、重役がかはつたといつては、人の入れかへをし、産業合理化だといつては首。たえず不安がある。それに、一家の收入と一家の人口增加との不均衡からの生活難、其の苦しみ。少しでも收入を增さうといふ過度の活動による過勞。從つて氣苦勞がいや增してくるから、神經が衰弱する事になる。

プルジョアとプロレタリア。どつちも不安になり、神經をつかれかしてゐる。其の中間に、小規模の商工業をやる人々があり、智識階級中の自由職業者がある。之等はのんきかどうか。

小商工業者は、利も少いかはりに損も少いやうだが、こはい事には、大企業によつて壓迫され

（近頃デパートと小賣業者の間のやかましい對立を諸君は新聞で見てゐるか）いつ自分の商賣が臺なしになるかわからない不安がある。小さい工場は、大資本を擁し、立派な組織を有する大工場とはとても太刀打ちが出來ない。大企業家の三面六臂は、まる損といふ事よりは、一方が損でも一方が益といふ事もあるけれども、小規模のものでは、一業の興廢が一家の興廢となるので、よけい心配だともいへるわけだ。やはり不安はとり去れない。自由職業者としての、藝術家、辯護士、醫師なども、やはり、今の世の中を支配する大企業の支配外にたつ事は出來ぬ。この頃は無限的營利心が、この方面にも隨分甚だしいので、過勞に陷つてゐる。どの階級を見ても一樣に不安な氣持があり、一樣な過勞から一樣に神經が昂ぶつてゐる。この問題は、現代世界文化國の共通な現象なのだが、殊に、我國に於ては、歐洲大戰當時の好景氣に、贅澤の味をしめ、大震災で、手ひどくやられても、財界大恐慌に見まはれても、依然として、贅澤のくせはやまず、苦しがりつゝも、「文化生活」といふ「贅澤な貧乏」をくりかへしてゐるので、外の國よりも、神經昂奮がつよいやうである。從つて、其の結果は、世の中の變調子となつて現はれて來るのだ。次にはその方面を少しく眺めて見よう。

3. つよい刺戟物の横行

過勞や不安の爲に神經が衰弱すれば、通常の穩かな刺戟では頭にピンと來ない。强い刺戟でなくては滿足出來ない事になる。所が、つよい刺戟は一層神經を疲勞させるし、つよい刺戟でもくりかへしてゐる中には、刺戟力がにぶつて來るから、よりつよい刺戟をたえず求めなくてはゐられない。つまり、新しい强烈な刺戟に始終接してゐなくてはさびしくなるのである。從つて現代人は、强烈な、新刺戟の瞬間的滿足を要求する事になる。だから、さういふ現代人心理をねらつたものは、驚くべき勢で流行する。さういふ心理をあてこんだ商品は、飛ぶやうに賣れる。と、かうなると、無限的營利心でかたまつてゐる企業家は、この方面に、全力をあげて事業の擴張をやる。風敎道德などかまつたものでない。只儲かればいゝといふ主義の企業が盛になる。其の最もいゝ例が、私は、今日の映畫興行全盛に於いて見受けられると思ふ。映畫といふものゝ物理的性質が、すでに强烈な、瞬間的新刺戟の連續で、眼に新味を與へるものであるが、その中に、人間の命の斷末魔を多分にもりあげ、愛の場面を多分に織り込んで、とてもつよい刺戟になつて居り、之が毎週上映物をかへる。其の組合せも極めて强烈な刺戟を求める現代人

に適應させよう〳〵とあせつてゐるのだからたまらない。そして、其の中に出て來る男女スター說明界の人氣者などが、好奇心をそゝる爲に、或は常設館を挨拶にまはり、或はプロマイドや繪葉書にうつつて、津々浦々に其の人氣をあふつてゐるのだ。今日のシネマファンは、現代人の心理をよく代表するものといつてよからう。

現代人の不安といふ方面は、改造問題に出て來る。舊い傳說、古い制度など、いゝものも、惡いものも、十把一束に、古いが故に惡いといつたやうな感じで、只破壞する目的で、改造改革の聲が大きい。その心の發現は、しかし具體的には、あぶない事になる。「何とかしたい」の心持ちは皆の人の心の中に鬱屈してゐる。その場合、幕末の志士の決死の奮鬪、勤王佐幕の勇士が、生命を賭してたゝかふ時代映畫、所謂チャンバラものが非常にうけるのも尤な事である。

强烈な刺戟といふ事には、前にのべた生命永續の本能の二大部門、卽ち、生命の維持、子孫の繁殖、從つて異性への要求などの系統の事が、一番つよく心を打つ。チャンバラ物には、生命をたちきるシーンが多いから刺戟がつよく、又、愛を中心にした映畫は、異性間の問題にふれる事が多いから刺戟がつよい。刺戟がつよければ、觀る人は喜ぶ。滿員になる。利益がある。さういふ映畫を澤山つくる。ます〳〵利益がある。と共に、觀る人間はます〳〵神經が昂奮して行く。

曾に映畫ばかりでない。芝居にしても、この大衆の人氣に投じなくては、ソロバンがとれないから、何でも、つよい刺戟になるやうなものが上演される。文藝方面殊に大衆的な小說なども、映畫や劇と同じ行き方で、現代人の疲れた神經を、ピリ〳〵しびらせるやうな、はげしい事をかいたものが横行してゐるではないか。其他カフエが大震災後の東京に非常に殖えたといふ事、ダンス場が其筋から怒られながらもコツソリ賑つてゐるといふ事、モガ、モボといふ怪物が時を得顏に銀座街頭を濶歩するといふ事、ならべたてれば實際、現代はゆがんでしまつたやうだ。どうなる事かと危まれるやうだ。

諸君は、まじめに中學校に通ひ、向上の心に鞭つて、もつぱら勉强に沒頭して居られるであらうから、現代人の强烈な刺戟を追うてあくせくする事や、金儲けに狂奔する有樣は見えまいけれども、一步、書齋から街頭に出て見たまへ。世の中には、さうしたなまぐさいやうな風がふいてゐるのだ。諸君の父兄は、「活動」にいかん方がいゝとか、小說などなるべくよまぬ方がいゝとか、注意をされると思ふ。其れはつまり、こんないやな風にいとし子をさらしたくないからだと思ふが、しかし、前章でも云つたやうに、諸君の時代は、服從が困難な時期であり、新しい刺戟を求めたい時なのだから、私は、世の中のアラをぶちまけすぎたけれども、大體、今の世の中はこ

んなに危いのだといふ事を、其の一班をあげて話したわけだ。

で、私は何も、活動に行くなとか小說をよむなとかいふやうな理由のみで、かうした話をしたのではない。實に、前途ある諸君に、この現代の危機を突破されん事をのぞむ爲なのだ。

自分の成長發達の途中、最もグラつき易い青年時代に於いて、諸君を圍繞する現代社會がグラ〳〵してゐるといふ事は、諸君にどんな感じを抱かしめるか。

裡に眠々たる向上心があり、鬱勃たる精力が體內にはちきれさうな諸君は、この危機をはらんだ現代に生活して、ます〳〵自己といふものに、堂乎として拔くべからざる底の抵抗力をつけねばならないのだ。どんな誘惑をも、誘惑と見ぬいて——實は見ぬけないものだ。誘惑の女神はきれいなものが多いから——之を勇敢に擊退し、一路自己の大殿堂の建設に向つて努力精進する勇猛心を發揮してほしいものである。自分の力を試すには、諸君、世の中が鏡の如き湖面のやうな時がいゝのか、風浪さかまく怒濤のやうな時がいゝのか。私は、諸君の內部的統御力を信じたい勇往邁進の偉力を信じたい。

五　極めて愼重

1. 職業といふもの

強烈なる功名心に燃える時代に、自己の力量を思ふ存分、一生の念願にうちこんで、事業への活躍時代の四十年を、めざましいばかりに奮闘して行かうとする意気が、諸君の胸を高鳴りさせて居る事であらう。たとひ自分が今心身の劃期的變革時代に起ち、又變轉常なき現代に生きてゐても、偉人の活躍の歴程に範をとり、自己を顧み時代相を察して、自己傾倒に一路邁進しようといふ熱が、諸君の體内に湧立つてゐる事と思ふ。だが、君は、くりかへして自分に問うて見たまへ、既に我が行く處はきまつて居るか。我が走るべきトラックははつきりしてゐるかと。人生競技場のトラックには、太くて白い條線が引いてない。けれども、自分が途中までかけ出して、外のコースにはいらうとしても、なか〳〵他の人が走つてゐて、入れる事をこばむものだ。しかも自分の走るべく定められたコースでも、自分一人のみが走るのでない。前にも後にも多くの競爭者が、ヘビイをかけてゐるので、よろけても、つまづいても、すぐに他の者に追ひ越される。し

つかり足もとをふみしめねばならぬ。足もとをふみしめる爲には、まづ自分の向ふべきトラックのどれにすべきかを定めねばならぬ。きめるに先きだつて研究せねばならぬ。つまり自分はどんな仕事を以て、大念願を成就すべきかを研究することだ。が、その前に、一體自分の一生なすべき仕事、職業といふものは、どんな性質をもつてゐるかを、一般的に大觀しておかねばならぬ。

君達が、職業といふ事について、教室で得た智識の一つには「貴賤なし」といふ事があるだらう。本當に職業には貴賤がないか？常識は、大臣でも、便所掃除屋（大都會によくある）でも、各々が皆世の中の仕事の一部を分擔してゐるのだから、貴賤はないと思はせる。が感情は決して承知しない。やつぱり、世の中の仕事には、いゝのと悪いのとがありさうな氣もする。どつちが本當か、それはどつちも本當だと答へねばならぬ。なるほど、どんな仕事も皆もちよつてこそ世の中全體が保つて行く。職業の分擔性あるが故である。その意味で貴賤はない。けれども、其仕事の發揮するねうちには、等級がある。學者の學術上の大發見と、立ん坊の車のあとおしとが同一價値であつてはたまらない。等級のある事は、くだいて見ると、其が他に對する影響のちがひがあるといふ事、從事者に特別の能力を要するや否やといふこと。なほ外にも要素はあるだらうが、とにかく高級と見なされる仕事には、從事者にいゝあたまが要り、

且つ従事するまでにもとがかゝり、其の仕事からにじみ出る所の力の影響が、大きいのである。學者は、職業の貴さからわけて、支配的、文化的、經濟的の三分類として居る。權力とか、富とかの大きなバックを負うて居るが故に人を多く使つて其上にたつ支配的職業は貴い。文化的職業主として心の方面に從事する仕事、たとへば、學問、藝術、宗教、教育の仕事は、精神的能力に於て常人よりも優秀なるを要するが故に、價値が高い。ローマの學者は、奴隷から出たものであるが、他の奴隷よりも、一歩高い待遇をうけ、より貴いものとされてゐた。この二者に比して、一般民衆の職業たる經濟的職業のみは何等格段なる力を意味しない。從來、社會の職業の中最も職業的力の少いもので、下層にたつものとされて居た。

近頃の心理學では、一般の職業者の能力を分析して見て、所謂一般知能と職業との關係を求め得た（この事は第一三章に詳說する）人智の差等を大きく、最上智能、上知能、普通知能上、普通知能、普通知能下、下知能及最下知能の七段にわけるが、中等學校を終へ得る能力は、少くも普通知能上卽上からいへば、三番目のものでなくてはならぬ。從つて、職業方面でも、最上知能でなくては出來ぬものとされるのは、創造的能力、統率的能力に適する知能及高級專門的職業であつて、大學專門學校教授、法律家、外交官、陸海軍將官、大會社幹部等であり、第二位の上知能

では行政的事業的指導的努力に適し得るもので、大學や專門學校で普通成績を得る力のあるを要し、職業でいへば、行政官司法官、醫師中等教員等である。第三位の普通知能上では、小規模の行政的指導的位置に適する知能及抽象的能力を要する高等熟練機械作業をなす優秀なる能力あり、となし、諸事務員、書記、技手、藥劑師等が擧げられる。中學校以上の學校を出たものは、これら以上の能力の仕事に從事出來る能力があるわけだから、これ以下でも出來る仕事に從ふ事は人物經濟の上から、不得策であるし、自己の欲する所でもないであらう。實際の仕事の成績から云つても、最上知能の人が、普通知能だけで十分な仕事をすると、たとへば、大學教授だけの頭の人が巡査をやるとなればずつと能率が上りさうなものだが、事實は反對で、不平不滿がおきたり周圍の同僚との折合がわるかつたりして工合がよくない。之と反對に普通知能者が、高級の仕事に從ふ時は、八割を以て、十割の場をふさがねばならないやうなものだから、苦しいのも苦しいし、務まるものではない。そこで、能力に應じた仕事をせねばならぬといふ事が、こゝから出て來る。從つて、能力に應じた學校を選ぶべきだといふ事もわかつて來る。此問題は極めて重要な事だから、後にくはしくのべたいと思ふ。所が近頃も尙、猫も杓子も的に、大學へ大學へと、「僕も行きたいですねえ」式志望者が多いので、どうにか出る事は出ても、相當な仕事が見つからず

能力以下の仕事に下降する傾向がある。卒業生の供給過剰になればなるほど、この傾向は一層つよくなるであらう。

以上は、職業貴賤の問題と、分擔性と、知能性とをのべたのであるが、職業には、持續性といふものが、ある程度迄存在する。永久的に持續すべき仕事もない事はないが、永い眼で見ると變轉常なきものが可也多い。例へば、昔のかごかきが人力車にしてやられ、汽車電車の爲に人力車が不要度を增し、自動車の普及によつて、殆ど車夫は失業に頻せんとしてゐる。自動車もやがて乘用航空機の發達によつて脅威を受ける日が來るかもしれぬ。しかし、一の職業は、さう二月や半年で衰滅するものでない。社會的必要の存在する限りは、滅びないものである。この意味で職業には持續性がある。たとひ持續性があつても從事者が轉々するならば、職業者には持續性がない事になるが、大體に於て、職業者自身、或期間は之に持續的努力をなすのが通例である。かくして、每日同一事業に從事するといふ事が、信用の基礎となり、地位向上の要素となり、職業そのものも之によつて發展して行くのである。かゝる間に、職業各部門には各特有の雰圍氣を生じ教員には先生らしさが出來、實業家には實業家肌も出來る。私が生涯のトラックを定めるといつたのは、つまり、職業の分擔性持續性に於ける一部門の決定を指したものである。念願の成就も

このトラックの疾走によるのである。このコースの走り具合によるのである。

今云つた特有の雰圍氣といふのは、つまり職業性ともいふべきもので、各職業によつて皆性質を異にするものである。そして、之は從事者が入り込む以前に於て、かゝる特有の性質が出來てゐるのであるから、入門者は、まづ之に適當するやうに行動せねばならぬ。順應せねばならぬ。順應がうまく出來ねば、はぢき出されてしまふのである。從つて、或る職業を目標にしようとならば、其の職業性能を知り、之に順應出來るや否やの自己の性質の反省をせねばならぬ。卽ち職業の分析と自己の分析とによつて、より多くの合致點を見出した仕事に、トラックをきめる事が念願達成の第一要素だといはねばならぬ。

かくして、職業を營む結果が、社會的貢獻性をもつて來るのである。前に職業には尊卑の別なしといふ理屈を話したが、社會的に或る部門の職業が貢獻する見地からして、尊卑がないので、職業の結果はつまり社會的貢獻性乃至利他性となつて表はれるのである。

かくの如く社會に貢獻するが故に、職業には有償性といふものがある。一口にいへば、職業による貢獻に對する社會からの報償である。これは、物質的には俸給となり賃銀となつて提供されると共に、精神的には、其の職業にくつついた名譽、聲價といふものにあらはれる。社會的貢獻

が大であれば、物質的にも報いられ、精神的にもむくいられる。成功とか、念願達成とかいふ事は、つまり社會的報償の獲得であるといつてもよいのである。殊に近代の成功が自他共悦であるべきだといふ事は、社會的報償の精神的方面に重點を置いての謂ひである。殊に、職業場裡に於ける活動は、自己のエネルギイの放散の場所であつて、人間としての活動慾は、殆ど全く職業界に於て滿足されるといふ事迄考へると、職業のもつ特質は、我々の生命の全體を支配する程の重要性をもつてゐるのである。

2. 米廿石の學士

そこで、かゝる重要性をもつ職業の一つ、つまり生涯のトラックを定めるといふ事は、偶然や雷同を排撃せねば到底うまくいくものでない。どこまでも眞摯な態度で進まねばならぬ。しかし明治時代の中葉頃だと、學校さへ出れば、類の少い事から、ずゐぶん珍重がられたものであつた。

明治廿一年一月發行の學士會月報第一號にこんな記事がある。

○東京近縣ノ或ル新聞ニテ文學士或ハ法學士一人編輯長トシテ入用ナリ月俸ハ百圓以下八十圓位ナリ望ノ者ハ祕書ニテ委員ヘ問合スヘシ

○或ル縣ノ中學校ニテ月給百圓位ニテ文學士ヲ教員ニ招聘シタキヨシ委細ハ委員ニ問フヘシ

百圓だの八十圓だのといふ、絶對價格は、今日でいへば何でもないが、當時の物價と今日のそれと比較して見ると、實に隔世の感がある。明治二十一年の米相場は一石四圓九十八錢、まづ五圓といふ所だ。そして酒が一升十四錢だ。だから、百圓のサラリーなら米が二十石買へる。酒ならば、七石一斗四升かへる。之を昭和三年の米一石四十四圓十三錢（混砂三等米小賣相場）で換算して見ると、二十石の代は八百八十二圓六十錢、酒の方は昭和四年に東京市卸賣相場で一石百三十七圓六十二錢だから、かりに七石としても九百六十三圓三十四錢になる。其の當時として、百圓といふ俸給が如何に高祿だつたかは、これでもわからう。何しろ同月報の右の記事の次の頁には　文學士阪谷芳郎君ハ近々結婚サルヽトノ噂アリ芽出度事ニコソ他ノ文學士中獨身家ハ宜シク此ノ例ニ倣フベシ」とある。當時の文學士阪谷芳郎氏は法學博士前東京市長、前大藏大臣阪谷芳郎翁なのだから、古い事も古いが、學校を出てすぐにも米の廿石もかへるやうな俸給でロがどうだ。官廳や會社あたりでは七十五圓か八十圓。米が二石しかかへない。明治二十一年頃のサラリーの一割だ。それもなか〳〵ロがないと來てゐる。二三名採用の會社員に對し、三四百名の

志望者が殺到するといふ世の中だ。その三四名の人々は、何れも高等な學校の試驗を幾度も突破した、金のかゝつた人々なのだ。

試みに、明治二十年の當時、帝大の學生は幾人かと統計書をめくつて見ると、學生生徒合せて八百六十三人。これが昭和二年になると、一萬七千九百五十二人。丁度二十倍以上だから、俸給が十分の一になるのも無理はない。昔の大學生は、米が廿石かへる所からダートを切つた。いきなり高い所の地位に据ゑられた。が今の學生は、米二石かふ所にやつとありついても、月俸で米廿石かへる地位になるなど殆ど不可能になつてしまつたのだ。まして、かけ出し八十圓もとれる人はいゝが、中學を出ただけで奉職するのだと一石もかひかねる。せちがらくなつたものだ。

人口から云つても、その頃（明治二十年現在）はザット四千萬人で年々の增加も四十萬位だつたが、今日では、帝國人口、八千萬、年々增加は八十萬から百萬の間を上下してゐるのだから、何處を見ても、人口は倍、ふえる事も倍になつてゐる。苦しいわけである。しつかりしなくてはならぬわけだ。彌次馬的な、雷同的な受驗生ではいけないといふ事は數字的にもわかるだらう。

3. 世の求むる人

もう一度、この問題——雷同的ではいけないといふ事を別の方面から見る。

我々は日常色々な道具を使つてゐる。家屋、机、本箱、椅子、其の構成の種々の材料などから食、衣の方面にさま〴〵の道具を使つてゐる。その各を見ると、それ〴〵道具の構成材料には、專門的な定まりがある。机の材料は、楢とか桧とか、いゝもので紫檀とかを用ひるが、洋机には杉材などは用ひない。家の柱などもに、松を用ふる事はない。建築や器具のそれ相當の場所には、それにむく所の材料が用ひてある。そして、其材料のよしあし、出來具合のよしあしによつて、價格が或程度まで定められる。人間はどうだらう。否學生はどうだらう。

學生は、學校を出てから、大抵勤勞を提供して一定の收入を得るといふのが直接の目的になつてゐる。提供される方の側からいふと、なるべく、いゝ材料で、安くて、いつまでも使へるものを頼みたいのだ。この點は、品物を買ふ場合と同じである。商品では、品の良否、値段の高下は比較的にわかり易いけれども、人間の評價は、とてもむづかしい。殊に、人間の製造場所としての今日の學校といふものが、材料蒐集といふ事に、さほどの注意を拂つてゐないので、玉石混淆の材料を同一の製造過程を經て市場に出すといふ事になつてゐる。だから、商品の大量生産のやうに、方法が同一過程でも、元々材料の選擇が不徹底だから、出來あがつた商品としての卒業生

は、やはり玉石混清である。それでも、明治廿年頃のやうに、學校出といふものが、供給不足の時代ならば、ねうちがあつた。品不足が何よりねうちを高めるから。だが、この頃のやうに、供給過剰で、生産品が毎年半分以上ストックとして殘される時代では、玉石の中から「玉」だけをえらぶのも隨分大へんな事になる。

もつとたまらないことは、選ばれる人間である。折角玉石中の「玉」を以て自任して、選ばれようとしても、よりよい玉が數限りなくある場合、或は又、自分の「玉」よりは、より適當な玉のある場合、自分は失格しなくてはならぬ。それはとても不安なわけだ。

だが、こゝに商品の製造過程と、人間の製造過程との間に、根本的な相違のある事を見のがしてはならぬ。といふのは、商品がもし玉石混清的な材料で製造されると、惡いものは、出來あがりも當然わるい。否、出來あがらない中に、粗惡な材料は大てい取除かれるやうになつてゐるが人間のそれになると、材料自身に、自己製造、自己研磨の作用がある。前に云つた言葉でいへば自己成長作用がある。だから、材料の性質が同一であつても、生産中に於ける自己研磨の如何によつては、粗惡な材料必ずしも粗惡な品とはならぬと同時に、優良な材料必ずしも優秀な品ともならない事がある。そこに、人間製造のつきせぬ興味があり、徹底しきれ

ぬ惱みもある。自己製造の張合もあり、自己研磨の惱みもある。

今までの學校は、どちらかといふと、自己研磨よりは、十把一束的製造過程をふみ、レッテル——卒業證書といふ——をはつて市場に出しさへすれば、相當賣れたものである。それだけ、學校といふ人間製造工場には、絶大な信用があつた。けれども、この頃では、又將來はいよ〳〵さうなると思ふが、レッテル中心では玉あり石ありといふ事がわかつて來た。需要者側では、玉だけをひきぬくにももてあましの有樣である。從つて自己研磨といふ事がよほど重要になつて來たわけである。しかし、まだ、實際の狀況を見ると、學校にはいる人々は、何といつても、信用のあつた人間製造工場のレッテルを欲してそこにあつまる狀況であり、需要者もレッテルによつてかなりなけじめをつけてゐることは事實だ。けれども、世の中が、レッテルだけで信用した時代は過ぎたといふ事も本當である。全く現代は實質の十分こもつた人間を起用するといふ事になつて來たのである。自己研磨の十分出來た人、そしてどこまでも、自己研磨をつゞけようとする人を、世の中は要求して來たのだ。

所が、商品にも、衣食住其他の社會各方面に於ける需要部門があるやうに、人間の奉仕にもさま〴〵あり、そして、所謂ムキヒキによつて製造過程もちがひ、從つて、自己研磨の方法も同一

でなくなるわけだから、人間の需要上のムキといふ事を考へねばならぬ。もう一つは、自己の素材としての性質に、個別相のある事だ。本來、動作も頭のはたらきも敏速でない人間が、生き馬の目をぬく程の猛烈な活動を要する方面に向つて、自己研磨を企てても、それは非常な不經濟、不得策といはねばならぬ。從つて、自己を玉にするための研磨をはじめるには、先づ第一に、自己の性質を考へねばならぬ。そして又自己の需要方面をも同時に想定せねばならぬ。希望の職業を定めて、之に適當する學校を定め、之に必要な準備をするといふ、前述の進み方は、自己研磨の最良方法であるが、「皆が大學に行けば、私も行きたいですねえ」といふのは、レッテル本位にも及ばぬ、自己研磨をすら考へない學生であつて、彼はすでに、卒業後の高等遊民をその時に於て、表明してゐるものである。

考へて見れば、諸君の時代は、身體精神の方面に於いて、大變化の起る時であり、且つ諸君を圍繞する現代は、不安の多い時代であつた。そして、目前の問題として、すぐにも前途の方針を決定すべき時に際會してゐるのだ。で、大多數の諸君の希望する上級學校も、卒業後に於て從來のやうな「卒業」といふ事にだけの權威が薄くなつたとすると、こゝで諸君は、愼重の上にも愼重にかまへて、自己研磨の方法に向つて滿身の勢力を傾倒し、全速力でスタートをきらねばなら

ぬ。十字路にたつ諸君は、こゝにしばらく、腰をすゑて、憩ひの氣持になり、十分に落ちついて十分にいきを入れ、ハイエストスピードのエネルギイを蓄へてほしいものである。

4 我が態度

さていよ〳〵君の態度をしつかりときめて貰はねばならぬ。疾うに決定してゐると思つてゐるかも知れない。だが其決定が、ともすれば浮動性を帶びて、不動の態度が出來難いものである。

一番いけないのは、人の眞似である。友人が高工へ行く、では僕も。兄が高校へはいつた、だから僕だつて——といつたやうなのが最も前途を誤る基だ。友人や兄と、何から何まで同一に出來あがつてゐれば、そして、其友人や兄が本當の道を步いてゐるとすれば、その眞似もよからうが、もし、其友人や兄が、しつかりした步み方をしてゐないなら、其眞似をする人だつて、同一の過をくりかへすに過ぎまいではないか。試みに、君の同級生を見たまへ。一年二年の先輩を見たまへ。果して、先輩や同級生の中に、之等、眞似キンボーイが、如何に多いか少いかを。

その次は、家の事情や、父兄の强硬な意見の爲に、之に服從して、其云ひなりになるものも相當ある。自分は作家になりたいのだが、オヤヂが承知しない。そんなものぢあめしが食へないか

ら、實業家になれといふ。自分はペコ〳〵頭をさげて、五厘一錢を爭ふ金儲けなどは、嫌なんだが、どうにも仕方がないから、云ふ通りにしておかう。かういふ事で煩悶したり、親子爭議を出來したりする者も可也あるやうだ。

最後に、自分が好きだから、かういふ職業をやる——といふ者。之は一番いゝ。好きこそ上手といふ事は、科學的にも說明出來る事だからこの考なら見上げたものだ。

けれどもである。若い時代の好きなもの、興味の中心は、割合に固定しないもので、一時的な場合がすくなくない。偶然の機會に、飛行機に乘つて見て、愉快だつた面白かつたといふ事から、その方の研究をやり出し、そして、之に將來をきめたとか、ラヂオが流行して、自分でセットを作つてから、夢中になつて電氣學の本をよみ、研究して、今迄の文藝趣味はどこかへ飛んで行つた底の人が、ラヂオを職業にしようと思ふやうに、興味の變遷があるから、注意を要する事だ。苟くも、一生命をかけて、自分の存在が、世の爲に必要かくべからざる程の業績をあげるには一時的な興味に誘惑されてはならぬ。併し、名士先輩も、大抵は自分の性格に適した仕事をやれといはれるから、この「興味」を動機とした生涯への態度は、力强いものがある。だが、今云ふ通り、興味が浮動性を持ち「性格に適した職業」というても、其「性格」なるものが、實は怪

物なのである。よし怪物ならぬ性格がよく自分にわかつても、職業そのものについて、殆ど知らないときは、「自己の興味ある職業をやる」「自分の性格に適した仕事に從事する」といふ事が、ずゐぶんあやしいものになつてしまふ。

所が學者のいふ成功要件は、第一に、能力の有無、性格の適否、興味の多寡であるとし、經濟的社會的に職業が適合して居る事もあげて居るけれども、それでは、能力や性格、興味などは學問的に正確に研究が出來てゐるかといふと、近頃大分盛んにはなつて來たものゝ、まだ初期を脫し得ない。職業方面の研究にしても、非常に範圍の廣いものだけに、之を系統づけるのは今のところまだ前途遼遠である。かうなると、自分の考できめようとしても、アヤフヤな感があり、さりとて、學問の力を以てしても、絕對の信用を措く段階になつて居ないわけである。それでは、しつかりした我が態度をきめろといふ事が土臺無理な注文ではないかといひたくならう。尤もである。そんならいつその事、自分のすきなと思ふ事を、始めにかへつて、その通りやつたがいゝではないかともいひたくなる。

そこである。そこが最も大事なところである。中學を出ようとする頃の、諸君の頭の中は、上級學校入學準備で一ぱいになつてゐる。外の學校に進まないものは、一種のあきらめで、積極的

に前途への雄々しい出發を考へる力が薄い。そこへ、出て行く先きの仕事に何も知らず、自分の性格もよくわからず、只足のむくまゝに行かうといふ態度は、果して褒めた態度であらうか。

「かゝる學問が、よし十分研究出來てゐないにしても、自分のきり開いて行く前途に對しては、飽く迄自分が矢おもてに立たねばならないのだから、出來る限り、學問上の力を借りると共に、又、出來るだけ自分の性格其他についての研究をすると共に、向ふべき職業そのものをも、及ぶ限り調査して、之が一番自分の生涯を賭して活躍する天地だといふ確信をもつて、潔いスタートを切るのが、諸君の最も賢明なやり方ではあるまいか。最も確乎たる態度ではあるまいか。

殊に、現代は學校を出たものでなければ一人前でないといふ考が一方にあると同時に、學校を出たものが、就職口に困り、よし口にありついても、實際の役にはなか〳〵たゝないといはれ、就職してゐる者は、下らないと思はれる仕事をいつまでもさせられ、なか〳〵學窓時代に夢想したやうな地位には三年や四年の中にはありつけさうにもなく、ともすれば首の脊威にばかり襲はれるといふ時代なのだ。

それも、年數を要しないならまだいゝのだが、之から、君が大學を出るとして、幾度試驗の難關をくゞるのか、そして又何程の費用をつかふのかを考へると、よほど愼重に前途を考へねばな

欠

MISSING

第二篇　活躍舞臺展望

六　技術の學校を出て

1. やりがひのある學問

此のごろ、學校を出たからと云つて必ずしも立身出世は出來ないからそんなに學校へばかり志望せぬがいゝといつたやうな考が、大分世人の頭をめぐつてゐるやうだ。じつさい、法科經濟方面の學校を出て、會社や銀行にはいつたとしても、學校で習つた事が、すぐに役にたつ事は至つて少い。殊に、法律學科で英法だ獨法だと、三年もかゝり、民法や商法を二三年も勉強したつて大きな會社には大抵法律顧問として、專門の辯護士がかゝへてあるので、大學出の新しい人にすぐ法文規約の立案を頼む必要はない。暫くは封筒書き、表作り、お札の勘定、算盤のはじき方。之では六法全書首つ引の三年間が何になる、といひたくもならう。だが一概に法、經の學問無用を唱へるのはあまりに馬鹿げてゐるが、たしかに、卽時役にたつといふ部分の少い事は實際だと思ふ。そこへ行くと、技術の方面はまるで違ふ。

例へば、われわれが家をたてようとする。どうやら平面の間取だけは素人の自分にも出來るけれども、さてそれから、外觀をどんな格構にしようか、ちよつと書いて見ようにも、いつたい、どこから手をつけるか、てんで寸法がわからない。ところで隣の息子が高工の建築科の二年だ、一つたのめ、——出來ましたといつて持つて來たのを見ると、成程、思つた通りを、手ぎはよく書きあらはした上、色彩もはでやかに、庭の植木や泉水まであしらつて、調和のいゝ「住宅」を目前に髣髴(ほうふつ)させてくれる「矢つ張り何つてつても、學校ですなア」といひたくなる。復興帝都のあの大きなビルデイングを見ても、立派な橋を見ても、公園に植ゑられた花壇の草花の巧みな取あはせを見ても、技術といふものゝ、眼に見えた力がはつきりとわかるではないか。技術の方はいかにも素人(アマチユア)と玄人(エキスパート)との區別がはつきりしてゐると思ふのだ。もちろん、法律の知識でも、商業上の才能でも、素人玄人の區別はつくにはつくけれども、目に見えての差異の程度は、やはり技術方面であると思ふ。

だが、技術家は、今日の世の中では、會社でも工場でも、役所でも、一番上の支配者的地位にたつ人が多くない。大抵は法經方面の人の下風にたつものが多いやうだ。其點、はでな政治家外交官のやうなところはない。人を動かす支配的行政的な仕事よりは地味といへば地味だが、しか

し、人を動かすもの、否、人の生活の革命を起したものは、實は技術家なのである。

十九世紀に於て英國に起つた產業革命は、其源を蒸氣機關の發明に發し、動力の革命は、汽車汽船となつて、交通機關を一變し、家內工業を大規模な工場工業にひきなほした。其結果は、今日の進歩した機械文明を建設し得たと同時に、人間の生活樣式に大きな革命を來さしめた。今日行くに自動車、飛行機があり、話すに電信電話ラヂオがあり、其他、トーキイといひ、テレビジヨンといひ、所謂文化の尖端を行くところの機械の何れ一つとして、技術家の手にならぬものがあらうか。スピード時代を現出せしめたものは、實に偉大な發明家と、其業績を存續して、之を完成させ普及させた技術家の力なのである。

ところで今日の進んだ時代に、產業界を見渡すと、食、衣、住の三要素の外、物の生產に於て地の中から掘り出す鑛產物、地上地下に栽培する農產物林產物、水の中からの諸產物、何れの原始產物も、其儘では間に合はぬ。一定の學理を應用して、掘出すにも栽培するにも、漁獲するにも、又之を加工するにも、工業的技術と機械とを、用ひないものは殆どない。運搬に於ても、更に消費に於て迄も、あらゆる技術の恩澤によつて、高度の進歩した物の供給を受け得るのである。

然るに、日本の現狀はどうかといへば、前にも云つた通り、人多く、場所狹く、資源乏しく人

動かず、國内共喰ひでます〳〵人氣が荒くなり、いよ〳〵住み心地が悪くなつて行く。さりとて國外に出れば排日が待ちかまへ、一戰爭やつて領土を擴げようとすれば國際聯盟が網を張つてゐる。此の時に於て、眞に國難打開の道は、全く技術の進歩發展と、發明發見の力にまつより外はない。嬉しい事に、最近世界的な發明として日本の誇となり得るものも段々出て來たが、中で京都の島津源藏氏發明の蓄電池原料製造機の如きは、之によつて出來る蓄電池が世界獨歩の優秀品で、米國のU・S・L會社が之を傳聞して米國の特許權を百萬圓で讓渡を申込むやら、英國武官がコツソリ入洛して右工場を參觀後、雲の如く消え去つたといふ位の偉大な發明なのである。又丹羽保次郎博士の寫眞傳送裝置の如きは、英佛兩國に二臺賣れ、此八月に又二臺。一臺の價二萬五千圓。尖端的發明品が歐米の優秀品と覇を爭ふに至つたのは愉快至極だ。それから、古くより世界的眞珠王として年額四百萬圓を越える產額をもつ御木本幸吉翁は、倫敦巴里紐育等に支店をもち、日本發明界の爲に萬丈の氣焰を吐いてゐる。近くは早大の川原田教授のテレビジョンなどは、歐米品も匹敵せぬ立派な發明だといふ。此外東洋のエヂソン御法川翁の製絲機、豐田佐吉氏の機織機等、日本の發明も世界的になつて來た。此勢を助長して、金のうなつてゐる米國あたりから、巨額の金を得る事が國力振張の第一だ。そして其の土臺は學校である。

けれども其方面の學校は、明治以來、最も進歩のおそいものだつた。日本の學校は、初期は役人養成に主力がそゝがれた。軍人に秀才が集つた。明治末葉からは商業畑へ人が殺到した。かくて法、經、商の學校が林立し、行政官や會社員が學生の第一標的で、技術家は野暮だとさへ思はれた。「技術屋」の敬稱を奉られて、工場内で日の眼も見えぬ仕事をして、中々頭角を事業上にあらはし得なかつた。しかし此頃は、商業畑に人が堆積し、就職率が最も低下した現在、わりにロのある技術方面には、まださほどの力がはいつてゐない。學生は、しかし、不景氣の際、少しでも就職のチャンスのより高い方へと流動して行つて、競爭がはげしくなりつゝある。現に先達ても、各地高工、鑛山專門學校の東京に於ける試驗場の側を通つた時、私は、私立大學の法經の學生が澤山受驗に來てゐるのを見て、これある哉と思つた事である。

○2. 新時代の技術家

何故わたしが「之ある哉」と思つたのか。法律をやつて司法官か辯護士にならうとし、又經濟商業の學校にはいつて、實業界に雄飛しようとして一旦入學した彼等が、就職難率の最も高いの

に愛想をつかして、比較的口にありつける、パンへの可能性のありさうな學校へ殺到するといふそのスマートなやり口、正に「之あるかな」である。けれども私は、「之あるかな」といつて、彼等乘換學生に感心したのではなくて、實は寒心したのである。

スマートとは、米國あたりでは脫け目がないといふ意味に使つてゐるといふ事だが、實は大きな脫け目がある事を彼等乘換學生に見るのだ。卽ち、彼等はさうして技術の學校に入學してから、「しまつた！」といふ事はないか。

殊に、法經方面の、頭の判斷だけで仕事をするタイプの人にとつては、技術家の精確、綿密な倦まず弛まざる仕事によく堪へ得るかどうか。その邊の檢討が十分なのか。前途に對する見當がついてゐるのか。檢討なしの見當は、見て當るものではない。「之あるかな」と寒心するのはこれなるが故である。

私は技術家といふ名目の下に、甚だ廣い範圍を一括して考へて見る。原料的生產方面としての農、林、水產、鑛業方面から、機械動力方面の電氣、機械、土木、建築、造船等、更に製造工業として化學工業、纖維工業の方面までに亙つて、其の職業の中心は、やはり技術だと信ずるのである。しかして、其一般共通的な、必要性能をあげてから、部分的に、學校の特色、卒業後の將

來を展望したいと思ふ。

職業の中には、日々刻々の活動が、すぐさま金錢的影響をもち來すものと、否らさるものとがある。產業上の生產や分配（商業）に關係した仕事では、物の分量を過つても、出來あがりが惡いとか、全く物にならぬとか（例へば三尺幅の机の板の寸法を三分少く切る、すると、他の材料とのくひちがひが生ずる如き）又物の云ひ方一つで得意を取つたり喪つたりする場合が少く無い。之に反して、思想藝術方面の仕事になると、其結果がすぐさま他に對して直接利害的影響を生ずるといふ程度が少い。この點に於て、產業從事者は手と頭の働きが、利害に直面してゐるといふわけで、從つて、なまじつかな不徹底主義では、繁榮がのぞまれないのである。以下少しく、技術家としての必要性能をのべて見よう。

前にあげた工業系統の職業の中、機械、建築、土木の方面は、高等數學や物理等を根柢としたものであり、製造工業などは主として化學物理學の應用である。又農林水產鑛業は、多くは博物學中にふくまれた應用科學といへる。で何れにしても、自然科學數學の頭の要る事は云ふ迄もない。此方面の學科の得意である事、又此の方面の學科の實驗、研究に嗜好をもつたものが適當である。要するに、纖密な、科學的頭腦でなければならぬ。

次に、近代の産業は、工業化が著しくなつて來た。農、林、鑛、漁の各般に亘つて、機械、動力の應用が盛なので、工業的素質が必要になり、從つて機械の構造や操作などを、手早くのみこみ得る所の觀察力、想像力が要求されるわけである。殊に、觀察も、長さや重さを一目見て比較的正確にあてるほどの知覺力をもち、之を直ちに圖面にかき得るだけの、器用さがなければならぬ。機械工業方面の學生は製圖で可なりいぢめられるので、手のさきの無器用なものでは、苦しさがひどいわけだ。

第三に大事な事は、倦まざる努力家といふ事である。技術家の仕事は、緻密な面倒な仕事をコツ〳〵やるものが多い。辛抱強くなくてはやりきれぬ。殊に工場などに奉職すると、職工と伍して働くので、勞務時間も長く、休む日も少い。工業と勤勉とが共に Industry といふのも面白いインダストリアルな仕事には、インダストリアスでなければならぬ。そしてインダストリアスの根據は健康である。技術家の中には農業や土木の方面の如き戸外で働く者もあるけれども、大體は工場や鑛山など、衞生上から見て健康的でない場所が營生の仕事場である。そして、自分が仕事の一方を指導する立場にある以上、病欠の連續では到底仕事は進行しない。職工たちは、筋肉を働かせ、之を導く技術家は頭をつかひ體を勞するのだから、特に頑健な人でなければならぬ。

殊に技術の學校では、文科方面のそれと違つて、實習實驗などになか〳〵多忙であり、學科の方も、理化數學の應用科學で、勉強も猛烈だから、健康は成業の第一要素である。

かくの如く、理科數學の頭が秀で、物を觀て之を表出する力がすぐれ、頑健勤勉な人である事は少くも技術家としての最低必要性であるが、更に大切な事は、創造性にとむといふ事である。發明發見の獨創力をもつといふ事である。前に云つた大發明家も結局は此の獨創力の異常にすぐれた人々なのである。たとひ、かくの如き大發明大發見でなくても、日常の生産や生活に必要な色々の機械器具、生産方法上の新機軸の考案は、從來技術家の大いに努力した所で、業界に一躍雄飛し得るのは、實に此の能力である。史上に名を殘すのも此の能力である。

一方、研究室にとぢこもつて發明發見に沒頭する、純技術的學者的生活に適した人があると共に、工場などの現場に立つて、多數の從業員を指揮指導する仕事にむく人がある。どちらかといふと現場にたつ技術家が大部分と見ていゝ。そこで、技術家であると共に、職工等から見ると丁度教師と生徒の關係になり、或は親分乾兒の關係になる。こゝに必要なのは、統御經營の才能である。殊に學校の如く、ツブの揃つた學生に教へるとはちがひ、食ふ爲に働く、賃銀の爲に、時間的に筋肉勞働を賣るんだと考へてゐる勞働者を相手にして、不揃ひな、能力もまち〳〵なら、品

性だつて高級でない人たちをあやつつて、仕事の能率をあげねばならない。そこには、信頼される或ものが必要であり、ストライキやサボタージュを未然にふせぐだけの人間味がなくてはならぬ。「技術屋は野暮」の言が若し本當だとしたならば、この場合考へなければならぬ問題である。

技術家の仕事は、正確緻密が絶對必要で、一々寸法や目方に於てキチンとしたやり方になれてゐるので、自然性格としても、生活としても、ルーズな所がないやうに思はれる。從つてそこにゆとりといふものがほしくなる。杓子定規以外の領域が必要になる。それは手下の職工などを使つて能率をあげて行く場合、殊に必要なものなのだ。總括的にいへば「人間味」ゆたかな人でありたい。人間味とは何か。之は流行語ではあるが、はつきりした定義は見當らず、かなり思ひ〳〵に使はれてゐる言葉だが、少くとも、人間として他に對する氣持の上に、相手を尊重する、相手を寛容に見る、自分として、相當な文化人的な素養をもち、藝術の理解もある等々の要素を含むものと思ふ。「うちのおやぢときたら、杓子定規の融通きかず、話せない事夥しい」といふ批評を部下からあびる人と、「タイシヤウなか〳〵話せるぜ」といふ、プロレタリア的信任をかち得る人とでは、單に作業成績がちがふばかりでなく、自己の生活、部下の生活の幸福感がどれだけちがふであらう。畢竟、統御の才能は、彼の親分性であり、人間味である。「話せる」的性格である。

さうして、統御の才能は一方に經營の才能として活躍されねばならぬ。若い時から獨創考案で鍛えあげ、地位ものぼつて、一方の長となれば、部下の獨創工夫を抱容して、新進の機械を入れ新式の組織を樹立して、「日進月歩」をリードするだけの、頭の新らしさを具現して行かねばならぬ。

3. 技術者養成の道

一口に技術家といつても、とても方面が廣いので、まづ工業方面から始めて、農、林の方に及ぶ事にする。その大部分は、夫々實業專門學校があり、大學に於ても、工鑛業は工學部に、農林方面は農學部に置かれてゐる。其學校の程度、卽ち大學か專門學校かの問題は、色々の他の關係も錯綜するから、あとで一括する事にして、個々の問題にはいつて行かう。

第一 工業方面

工業はとても細かく分化されてゐて、學校に於ける專攻學科も非常に細分されてゐるが、私は大體之を四つにわけて見た。

（1） 機械工學。機械、電氣 附 採鑛、冶金

（2）製造工學。化學工業、應用化學、電氣化學、纖維工業　窯業、醸造
（3）建設工學。土木、建築、造船
（4）美術工學。精密機械、工藝彫刻、金屬・木材・印刷工藝等

○（1）機械工學方面

○（イ）機　械　科

今日、高工及之に準ずる工業專門學校で、二三校を除いて殆ど皆機械科を置いて居るのは、需要がそれだけ高い事を物語るといつてよからう。事實、今日の文明は機械の文明だといはれて居る通り、どんな方面にも機械が用ひられない生産運輸はないのだ。そして前に力說した發明の如きも、大部分は機械の發明なので、前途洋々たる將來があり、我國の興隆に對して最も責任ある又最も尊重さるべき地位を占める工業である。

東京工業大學教授で機械工學の權威、關口八重吉博士の話によると、機械科志望者は數學物理等の學科に優秀である事はいふ迄もないが、用器畫なども單に形式だけでなく、理論を頭に入れておかねばならぬ。語學の必要はむろんの事、技術家として手細工を巧にやる職工とはちがひ、學理を實地に應用し、獨創的な仕事をするのだから、歷史の趣味を有し、發明家の傳記、其苦心

のあとに敬意を拂ふ事が望ましい。殊に、昨今のやうに勞働問題のやかましい際には、技術者が只の技術ばかりでなく人格によつて解決すべき問題が屢々あるので、修身で教はる事を實地に行ふ、つまり人格修養が必要だといふやうな事を云つて居られる。

卒業生は、工業會社にはいるものが一番多いやうだ。で大抵は入社後暫くの間職工と一緒になつて機械の實習をやり、後に監督者の地位になるが、長い間には其進路が二つにわかれて、一は純技術方面に、他は經營方面に向く。前者は、在學中の成績にムラがあるけれども、後者の方は平均の成績をとるものが多い。純技術者の優秀なものは、發明考案で幾つかのパテントをとるものがあり、經營者的タイプのものは、實業家としての未來がある。兩々相備へたものは、獨立しても成功率が高からうと思ふ。

○（ロ）電　氣　科

文化の尖端を行くラヂオ、トーキー、テレビジョン、かういふものは、皆電氣の應用である。電氣が、生產の動力として、又生活上の利器として如何に多く用ひられて居るかは、諸君の家庭交通、通信等の方面を見てもよくわかる事であらう。まことに、機械工學と共に、社會への貢獻の重要部門を背負つて立つ仕事である。從つて、技術者の需要も廣く、工業專門學校としても、

機械科について、各校に設置してあり、入學志望者も甚だ多く、入學難も猛烈である。

電氣工業に似たやうに見えるものに、電氣化學がある。しかし方面の大分ちがつてゐる事は、官立工業專門學校に於ける學科を見てもわかる。

電氣工學科——數學、物理、應用力學、材料强弱學、機械製作法、熱力學及熱力原動機、水力學及水力原動機、電氣磁氣學、交流理論、直流電機、電燈及電車、電力輸送及配電、發電所論、電信及電話、電氣材料、電氣器具構造、電氣化學、冶金學、工業化學、設計製圖等。

電氣化學科——語學、數學、物理、化學（有機無機）應用物理化學、電氣化學總論、機械、鑛物、冶金、電氣磁氣、應用化學（燃料、燃燒裝置、酸アルカリ、石炭瓦斯、ゴム）電氣工學、電鍍電鑄電解、工業電氣冶金、電氣爐、窒素肥料、分析、製圖、實習、其他。

ならべて見ると、電氣工學は、電氣機械工學といつた方がはつきりするし、電氣化學は、要するに、電氣應用化學なのである。

從つて、電氣工學出の人は、多くは電力電燈會社、電氣機具製造會社、電氣鐵道等に就職するが、鐵道電化の今日、鐵道省電氣局等も多く、電氣試驗所放送局等にも需要がある。

電氣化學の方の就職方面を序でに述べると電氣工業、電氣化學工業、電球製造、人造肥料、鑄

銅所、各種官廳試驗所等が主なるものである。

（八）採鑛、冶金

日本は農業中心から工業中心に進まねばならぬといふ事が、大分叫ばれてゐるけれども、そこに大きな惱みがある。といふのは、如何に機械や電氣の技術が進歩しても、其材料たる鐵が少いし、之を工業的に生産すべき燃料たる石炭が十分でない。又近代の文化の利器であり、國防の重要武器たる航空機、交通界の覇權を奪つた自動車等を動かす基の石油が足りないときてゐるロンドン軍縮會議で列國が採み合ふ氣持は、えて軍擴會議のやうでもあり、そして列國の實力、産業の根柢原料たる鐵石炭石油なども米、英の如き日本と比較にならぬ資源をもつてゐる時、「列强」といふいゝ顏で、懐のさびしい旦那——日本はどうするのか。

領土が嚴然ときまつて居り、地下の埋藏物は運命的にきまつてゐて、之を掘出しきれば、それ以上どうする事も出來ない時に、問題はむづかしくなる。大島義清博士は、近頃、一番惡い石炭から石油をとる事を發明された。どうしてもかういふ方面で行く外はない。國の爲に、働くべき使命は、工業中でも原本的である。

專門學校で鑛業關係の學科のあるのは、秋田鑛山、明治專門兩校の外、熊本、京城、南滿工業

で、大學としては、東京、京都、九州、北海道に採鑛、冶金學科がある。

（2）製造工學方面

（イ）應用化●學

受驗準備で氣が張つてる時は朝の眼覺めもきまつて早い。まづ齒を磨き石鹸で顏をあらひ朝食の卓につき、味噌汁に香の物。登校前に英譯のペンを走らせる——我々は此の間に、化學工業で出來たものを刻々使つてゐるのだ。まづ齒磨、石鹸、香の物の醬油、インク、紙。米のめしの基の肥料。飯を焚くコンロの石油。風呂の石炭、風呂場の煉瓦。化粧部屋に行くとさま〴〵の化粧品等々、何れ一として化學工業の厄介にならぬものとてはない。而して應用化學は實に化學工業の基礎學なのである。そして其化學工業なるものは、常に日常の家庭に用ひられる前記のやうな小物を製造するに止まらない。もつと大きな領分がある　卽ち、工業藥品、人造肥料、染料、醫藥、セルロイド等のごときもの。中でも工業藥品中、硫酸などは、過燐酸石灰、硫安、石油の精製に用ひられ、前二者は農業肥料の土臺となり、後者石油は自動車、航空機の動力の根源になつてゐる。蓋し化學工業の主要目的は、自然的產出の限られたものの代用品を、どこでも、いつでも出來るやうにするにある。地理で諸君のならつた窒素肥料の基なる智利硝石も、空中窒素をとる事が發明されてから非常に需要の激減を見た。藍の如きも今は人造藍といふものがある。自然天然の產出物の要素を研究して、之を人爲的に造りあげる所に、化學工業の面白味があり、貢獻の偉大さがある。一生をこの道に傾倒するのも、諸君にとつて極めて有意義な事だと思ふ。

專門家にいはせると、應用化學をやるのだから、化學だけの成績がよければといふ事は決してないさうだ。やはり、數學物理の方もよくなければいけないといふのは、尤だ。もちろん、其外に、前に技術家の素質としてあげたやうな色々の要性がなくてはならぬ。

卒業生の口は非常に多方面である。現在の狀況では製造會社へ六割、官廳學校方面が凡そ四割前者の主なるものは、藥品、化粧品、人絹、釀造方面、建築材料としてのセメント、煉瓦、諸種の硝子製造、燃料、肥料の製造方面其他へ、後者では商工省及其工業試驗所、府縣の工業試驗所、燃料研究所、陸海軍の研究所、地方廳の技術官、專門學校、中等學校の理化學教師等である。

（ロ）纖維工業

昔から生活を三つにわけて衣、食、住といふが、此頃では、食ふ事第一で食、衣、住といふものが多くなつた。しかし何といつても、一番、各人の興味關心の中心は、「衣」にある。そして、國民の二重生活費の王座を占めるものも、「衣」である。和服一揃、洋服一揃、贅澤なモガと來る

と支那服迄、和漢洋服が要る。あまりカン服しない事だ。殊に、和服の主要原料の棉も、モスリンや洋服の原料羊毛も、大部分國産ではないのだからやりきれない。此の方面に、生涯の力闘をお願するのが纖維工業である。中に、色染科と紡織科がわかれてゐるが、色染は、應用化學と紡織との中間に立つもので紡織方面のみでなく、一般の染料研究をやる。色染科出の人は、紡織科出身者と共に、織物會社、染料會社、呉服商等へもはいるし、官廳の試驗所に入るものもある。

學科として優秀なるを要するものは、色染科では化學と語學、紡織科では數學、物理、化學、語學だといふ。色染科などは獨逸が世界第一に進んで居り、紡織と共に、流行の尖端を行く仕事なので、どうしても語學の力が豊富で、外國の雜誌、サムプル等をドシ〳〵よむだけの力が要るわけである。

(3) 建設工學方面

土木建築請負業の看板は、よく我々の見かける所、清水組、大林組、大倉組などいふ斯界の大立者になると、土木や鐵道、港灣から、鐵筋の大ビルデイング迄、すばらしい大仕事をやつてのける。土木と建築とは密接な關係があるけれども、學校で習ふ所は大變違ふ。

土木工學科——測量、應用力學、道路・鐵道、橋梁、水力學及水路、河海工學、衞生工學（給水工・下水工）
鐵筋混凝土（コンクリート）工其他

建築學科——建築材料、建築構造、鐵骨鐵筋混凝土構法、和洋建築史、自在畫其他

土木工學の方が、どちらかといふと仕事が大袈裟（おほげさ）である、鐵道、運河、築港、河川堤防工事などは何年も要するものが多く、影響する所、貢献する所も大衆的であるが、建築の方は、住宅、商店、工場、學校等の建築で、個々の對象が中心であり、土木に比してより美術的でもあり、又各種の建築物に從つて、其用途に應ぜねばならぬ事から、世情に通じてゐる必要がある。例へば住宅にしても、上流中流下流の各社會階級層によつて、其設備がちがひ、調度なども違ふし、各人の好みも同一でないし、又職業によつて、建築構造が皆ちがふ。劇場、浴場、料理屋など、各々其の性質に順應した構造と體裁とが具はらねばならぬ。

建築の方では、だから、基礎として數學が優秀なるを要し、美的表現として圖畫に重きをおかれ、建築様式研究の必要から歴史の頭が要る。土木の方は、物理、數學、地理地質方面が勝つ。何れも卒業後は、大請負會社に入つて現場監督をやるとか、官廳、會社の土木建築技師になるものもあるが、後には獨立して工務所を經營するものが多い。之は應用化學や機械電氣などに比し

て、わりに獨立の可能性のあるものといつてよからう。

（4）美術工學方面

之まで逸べて來た工業は、大體に於て科學を根柢とした基礎的工業即科學工業であるが、近頃だん〳〵頭角をあらはして來たものに美術工業がある。科學工業は、機械、電氣、化學工業、紡績業の如く、生産の方法、製品の改良、發明等、科學の應用に基き、美術といふ事は殆ど問題としてゐない。之に反して美術工業は加工的工業であつて、科學工業に於て研究された材料、機械動力を利用し美術的な意匠と製作の技巧により、文化生活に直接必要な日用品、裝飾品の産出を目的として居る。建築、色染、織物　金工、木工、漆工、陶工、寫眞、印刷等の加工業及び其基礎をなす彫刻、圖案は皆此の範圍に屬する。概して、從來は科學工業の方に、國家としても力がはいつて、工藝方面は、さほどに努力されなかつたので、學校としても、科學工業方面が大部分であるが、近頃は、美術の隆盛と科學の發達とによつて、共進歩が促進されて、美的價値ある優良品の多量が、迅速安價に製作し得るやうになり、生産過剩の部分は海外に輸出されるやうになつたので、一躍して國際的商品の重要な地位を占めるやうになつた。列國は擧つて工藝の發達に力め、特に獨逸の如きは極力之を奬勵し、其製品は世界の到る處に雄飛してゐる程である。所が

我國では、かういふ方面が依然家内工業的であつて、高級品は美術家の少數の手にゆだねられ、到底列國と其覇を爭ふ程に至つて居なかつた。美術工學は、實に此の機運に乘じて起ち、美術と經濟と科學との方面から、産業的工藝の助長發達をなさうとするものである。今此の方面の學校としては、わづかに東京京都の高等工藝二校のみである。後者には場所柄として色染、機織、圖案、陶磁器の四科があるが、前者、東京高藝は、殆ど他の高工にないやうな學科ばかりおいてあるので、此の方面を紹介して見よう。

こゝには工藝圖案科（工藝彫刻部を含む）金屬工藝科、精密機械科、木材工藝科、印刷工藝科（寫眞部を含む）の五つの專攻部門がある。

工藝圖案科では一般工藝圖案、室内裝飾、裝飾繪畫に關する圖案家を養成し、此の科に屬する工藝彫刻部は、石膏型、電氣鑄造型、練型、縮彫機型其他原型による設備で實際的技術を授け、更に金屬及木材工藝科其他の諸科と連絡して各種工藝品に應用すべき彫刻工藝の完成を期せんとしてゐる。卒業後の進路も圖案科の方は、百貨店の意匠部や諸會社の廣告部に、彫刻部の方は、製陶窯業の會社等である。

金屬工藝科。此科の仕事は甚多方面である。裝身具、各種携帯品の如き身邊用具から、双物、

飲食器、喫煙具、文房具、化粧具、照明器具、暖房具、各種裝飾物の如き室內用具、其他臺所用具、醫療器具、建築金具、金屬玩具、理化學實驗器具等々で、之を板金、鑄金、貴金屬の三部にわけてゐる。

精密機械科は測量器、計器、理化學器械、寫眞機、醫療器械等、學術、工業、軍事等に用ひる精密機械の工作、審査試驗、材料試驗等に從事する技術者養成が目的である。卽ち時計の如きは此科で內部を作り、外部の裝飾は金屬工藝科でやるやうなものである。卒業生は、金屬工藝科と共に光學器械製造會社、計量器、時計、電氣、自動車等の會社に行くものもあり、陸海軍諸工廠特許局、理化學研究所等、官界に出るものもある。

木材工藝科。文化生活といふ事の一つの大きな部分は、其調度の美的な所にあり、其重要部分は、家具である。此科は其家具製作を中心に、建具室內裝飾を、學理と實際に亘つて研究する。木工家具製造會社、建築會社等が卒業生の主なはけ口。

印刷工藝科。この二三年來、圓本の洪水の頃から、活字による文化の普及は實にすばらしいものだが、これは一に印刷術のおかげである。併し、少しこみいつた印刷、凸版凹版など製版技術になると、歐米とは迚も比肩出來ないので、學術的基礎の上に實技をたゝきこみ、本邦印刷界に

優秀な技術者を送らうとするのが此の科の目的である。寫眞部は此の科に屬し、科學的、工業的營業的の寫眞術を教授し、軍事、學術、工業、教育、商業、美術、文藝、教育、社會教化等、應用の廣くなつた方面に技術者を送り出すのが、此の部のねらひ所。映畫、トーキイ　デレビジョンのめまぐるしい發達を見せてゐる當今、此部の前途は洋々たるものがある。

印刷科は、高藝出身者の中では、此不景氣でも一番實口がいゝといふ。大抵は寫眞部と共に印刷工場か新聞社、陸軍の測量部等に行く。

此の高等工藝では、まだ數回の卒業生しか出てないけれども、新方面の開拓で、先輩の手引のないかはり、さきがつかへて動きのとれぬ事もないし、實の山がはげ山になつてゐる事もない。未開拓の曠野で腕をふるふ張合がある。雇はれてもいゝし、自營も可能である。だから卒業生名簿を見ても、自營といふのがかなりある。入學者の素質について、高藝の安田校長の言では、科學の頭の上に美術的素質が必要だけれども、科によつては、必ずしも美的要素を要しないと云つて居られる。

第二　農業方面

農業方面には今や轉換期が襲うて來た。從來、「百姓では飯が食へない。」といつて、飯の素(もと)たる

米を作つた農民が、田を賣拂つて大都市に出て職工になり、頭のいゝのは、此不景氣に爭議の先鋒になり、首きられて再び鄕黨にかへり、都で覺えた戰法で正直な農民をつゝいて、小作爭議をおこす。食へない〳〵の叫びの上に爭ひのつのる農村。これでどうなり行くかと危ぶまれたが、今や農村は、白黑をわけねばならぬ時が來た。

元來農民は土を相手に、作物を子供とし、昔からすみなれた村に、生れて以來同一の人と交際して、變化なく土にうづもれた生活をしてゐるので、大都市の生き馬の眼をぬくやうな中の生活者から見ると、非常に保守的であり、新しい事などになか〳〵寄つて來ない。依然たる傳統因襲のとりまく中の、陰氣な生活でいゝ氣になつてゐた。かういふ生活にたへられぬ農村のきけ者が都會へ都會へと出かけるのも尤もであるし、農學校を出たものが、野良着姿よりも背廣姿を好むのも無理はなかつた。かくして、農村には人材が地を拂ふかに見えた。

「ひやくしやうでは食へない」農民は、從來の百姓から小商人に轉向し出した。父祖傳來の田畑を抵當に、若干の資本を作つて、天晴實業家氣取になつたはいゝが、なれぬ仕事は、士族の商法以上に失敗が多く、忽ち元も子もすつてしまつたものが非常に多い。一方、政略的鐵道の敷設、自動車の普及等々によつて、田舍も便利がましてくると、金の出る事は多くなるに反して、收入

は其割にへつてゐる。しかも、生活改良、改革などいふ事は、保守退嬰の農民の氣づかぬ所、若い者が改造意見を出しても、年寄連が頭をおさへていふ事をきかぬ。農民生活は彌が上にも苦しくなつて行く。

しかも、農民の手に成る食料は、年々の人口增加に伴はず、我國唯一の國際商品たる生絲が最大不景氣で、製絲家擁護の、絲價補償法といふものが出ても蠶絲業の前途がどうなるかと氣にかかる。どうしても、農村に知識を取入れる必要がある。農業の知識階級をリーダーにせねばならぬ。

ところが、昭和二年卒業の農業專門學校出を翌年三月現在で文部省が調べた所によると、

官公吏	三〇七	實業學校職員	一四一
銀行會社員	六九	兵役其他	一二二
		合計	八〇一

といふ數字だつた。實業についてゐるのは二割弱で、六割は役人、先生、會社員である。尤も實業の中、どれだけが農業經營をやつてゐるかも不明だし、六割のサラリーメンの中には、農事試驗場技手、農學校の先生など、直接間接に農村の爲に働く人もあるだらうが、野良着よりも背廣といふ傾向はわかると思ふ。

實行はどうかといふと、需要比率からいへば農業土木、製絲、蠶種、栽桑等、農林蠶各學校の中で、總體から見て類の少いものに需要も多いが、絕對數は、つぶしのきく農學科方面が多い。入學試驗の競爭のはげしいのも、農學科で、次は農業土木、園藝、絹絲紡績、農藝化學、製絲、養蠶といふ順序。競爭難易を學校別で見渡しても、一定してゐない。波をうつてゐる。鳥取高農の如き、大正一四年度は、難第一位、翌年は第十一位（ビリ）昭和二年度第八位といふが如くでなるたけ樂な學校へ、受かりさへすればといふやうすが見える。そして、卒業すると、大部分は宮仕へである。要するに、らくにパンにありつかうとしてゐるのだ。らくにパンをつくるべき學校を出た人がである——もう一つ要するに、百姓は泣いてゐて、之をリードすべき知識人がかくの如くであり、米はたりず、着る物はたりず、生絲は賣れぬといふのが、現下の狀勢である。行きづまつたのが目今の狀勢である。そして遂に轉換期が來たのだ。

農民は元來保守的だ。米は反當り一石八斗が普通收穫だつたのが、富民協會といふ勸農團體が昭和二年に大阪に出來、其指揮の下に、昭和三年に滋賀縣の或農民は一段で七石五勺をとり、翌四年、島根縣では八石四斗を實收した。四俵半から一躍して二十一俵どりに增加したのである。同協會は、反十石を百パアセント收穫の理想標的として、全國的に懸賞で競作をやらせてゐる。

一たい何が故に四倍半以上の收穫に大轉向をしたか。大いに興味ある問題ではないか。

日本は面積の一割六分しか耕地がない。そこへもつて來て、日本人はどこへ行つても、米がなくては居られない國民だ。いや、もつと惡い癖は、日本內地米でなくてはいやがる國民だ。食糧の國粹保存は足りない場合には贅澤な事になる。かういふ際に、三倍四倍の多收穫ならずとも、二割の增收があれば食ふには困らなくなる。嬉しいではないか。富民協會のやり口は、狹くて尊い土地を、從來の廣耕主義の反對に、深耕主義をとつた爲に、かほどの增收があつたといふ。方法の改良だけでも、かういふ結果が覿面に現れるのだ。今や、「百姓が一番呑氣だ」つた時代から「百姓が一番苦しい」時代をへて、「百姓ほどやりがひのある、面白い仕事はない」時代に向はうかと思はれる。一石八斗から八石四斗への飛躍は、正に神ごとのやうだが、只間斷なき科學的注意と拔目のない實驗的な施爲からこゝに至つたのだ。

米は、かくして四倍半に大增收をなし得た。一割六分の耕地は、もう擴げる余地はないか、改良する餘地はないか。米の外、小麥（之も富民協會では多收穫競爭をやるといふ）大麥、蔬菜、果樹、養畜、養蠶、更に林產水產に至る迄、改良、研究の曠野は、とても廣く開けてゐるのだ。さうして、土地の改良、栽培、飼育、漁獲の改良等より一步さきに、まづ之に從事するもの丶頭

の改良が第一であり、從つて、頭の改良に率先する農業知識人の養成が第一だといふ事になる。卒業生の六割がらくにパンをえようとしてゐる當今、もつとらくにパンを作る方法を、農民に教へる人は出ないものだらうか。

學生の志望は、之まで大抵目前の景氣に押され勝だつたので、大體、秀才の集るのは、法經商か工の方に多く、農業方面は其傾きが低かつたやうである「百姓はのんきだ」といふ俗念がしみこんで居ると共に、兄弟中皆秀才なのに、一人頭のよくないのがゐると、「農學校でも卒業させて鷄でも飼はせよう」などいふ父兄があつたものだ。頭の惡い生徒に入られる農學校も迷惑なら、飼はれる鷄だつて、いゝ聲では啼けまいではないか。しかし、今いふ通り、農業は大轉換期にたち、優秀な頭腦をまつてゐる。新進の知識人を待望してゐるのだ。

なるほど、近頃のやうに、失業者續出、就職困難の時代には、「らくにパン主義」に傾くのは、無理のない所だが、さりとはあまりに淺理想ではないか。無知な人間と區別されたいインテリゲンチヤとしての矜持があるならば、有意義な道に勇敢に進むだけの、意氣と理想とがほしいではないか。主要食物の米の系統、主要輸出品の生絲の系統、世界的大漁業國たる水產の系統、何れ一として國家を背負はぬものはない。工業技術が如何に備はり、其組織が如何に全しというても

土に生育する原料の方面を等閑にするならば、到底完全なる發達は出來ぬ。此意味に於て、生產の第一線にたつのは農林水產の方面である。

此方面は性質上動物植物の利用が中心であり、之が加工又は改良方面として、鑛物物理化學、數學の知識が要るわけで、專攻學科の相違により、得意とすべき學科もちがふけれども、大體に於て其リーダーとしては、博物、物理化學、數學の頭腦を要する事は無論である。殊に卒業後、農事の經營をやるものは勿論、試驗場に學校に奉職するものも、多くは農民に接觸して、之を指導誘掖する地位につくのだから、工場內の技師とは又ちがつた性質がある。工場の職工は筋肉を提供して、一定組織下のきまつた勞働に從ふのみであるが、農民は、リーダーから知識を得て、自ら農事を經營し、其結果はすぐに農民の利害を左右するのだから、張合はより以上であると同時に、工場內の統制はわりに易い點があるに反し、一村の農民は、工場の職工ほどの、强制力に從ふ義務がない所から、力を以て壓服は出來ない。

多年學窓で實驗研究にきたへた土壤、肥料、養畜養蠶等に於ける最近の學說や最新の方法を隣人に授け、商事的知識によつて、村內の生產品、米麥生繭や肥料などの賣買を共同にし、自治にも敎化にも中心となつて活動し、高ぶらぬ先覺者として、尖端を行く農人としての生活、土にみ

のる作物、小屋に肥え太る家畜、進取的に轉向した隣人農夫にあらはれた努力、かういふものにつきせぬ悦楽を見出すところの農村のリーダー、之こそ今の日本の最も熱望するところである。

七　これからの醫者

1. 醫學博士

わたしは大正十四年頃、中學の二年生百人許りに對して、職業志望の調査をしたところ、醫者になりたいといふものが四割以上で、最高位をしめてゐたのに驚いた事がある。最近、中學の四年五年兩級に亘つての志望調査（二三五頁參照）でも、やはり同樣に、志望職業の上位をしめて居た。なぜであらうか。

醫者になるにも、元は病院に長らくつとめて開業試驗を受ければ、別に學校を出なくてもよかつたものだが、今日では、醫師、齒科醫、藥劑師、すべてが三年以上の專門學校を出ねばならぬ事になつてゐる。殊に普通の醫師は、學校の年限が長く、在學中の月謝も高く、實習費も要し、卒業してからも助手の名目で數年研究して、やつと一本立になるので、大學なら十年、醫專で七年位かゝるといふのに、醫者になりたいといふ學生が多いのは何故だらうか。

世上の經驗のせまい中は、自分の眼界の範圍で理想とする者になりたいと思ふものだ。子供の

頃から、田舎などでも先生といはれるものに、學校教師と醫者がある。就中、醫者は風采から住宅などを體裁よくして、押出しがいゝのを普通としてゐるし、病氣をなほすありがたい仕事——時にはなほさずに殺してにくまれる事もあるが——だん／＼大きくなつて、何か前途を考へる時、毎日のやうに「博士」になるのが醫者であり、食ふに困らぬどころか、「この町へ來て五六年に、萬を以て數へるほど金を殘した」などの噂をきくと、「おれも醫者になるんだ。」

君たちの中にも、醫者志望の人は多からう。未來の醫博にあこがれてゐる人も多からう。しかし、さうした世間流行で事をきめるものは、賢明な諸君にはなからうと思ふが、まあ何商賣でも、やつて見ればさうすべてがいゝものではない。

あらゆる科學の進歩に後れを取つてゐる我國で、醫學だけは「世界の何れの國にもまけぬ」といはれ、本家本元のドイツに比べて、優るとも劣らぬといはれる迄に、最近四五十年間に異常な進歩をとげたものである。何しろ一日一人以上の割で醫學博士が出來、莊麗なる官公私立の大病院の建築、世界最新を誇る醫療設備たしかに進歩のあとが見られる。學校もメキ／＼ふえて、各帝大の六學部、醫科五大學、私立の四大學、其他醫專を加へて卅校にも及び、何れもが、學生殺到の有樣であり、就職難率も最も低いので、學生のこの門に蝟集する當然性を多分にもつてゐる。

かくの如く、醫者といふものは至つて景氣がいゝやうであり、學生の志望も「博士」や「富」ないし、首の心配がないといふところにあるやうだが、「博士」も「富」も、さういつまでも有りがたいものではなくなり、さう簡單には得られなくなつてきたやうすを知らねばならぬ。

「醫博濫造」は屢〻新聞や雜誌で叩かれる所だが、醫者にきいて見ると、外の學問に比して、博士論文のタネが澤山あるんだ、研究すべき分野が廣いのだといつてゐるが、しかし、其增加ぶりを見るとかうである。

			舊制位令	新學位令
明治	44	41	19	162
		42	17	182
		43	20	207
		44	13	278
大正	元		27	343
	2		28	507
	3		37	398
	4		48	540
	5		27	447
	6		58	
	7		46	
	8		51	
	9		31	
	10		64	
	11			
	12			
	13			
	14			
昭和	15			
	2			
	3			
	4			

外の博士にくらべて見ると——

博士數（昭和四年三月末計）

一般的に見ると、大正九年に學位令がかはつて、從來文部省で授與したものが、論文提出の大學に授與權が移り、各官公私立大學の昇格によつて、授與される場所がふえ、大學の權威を高める必要も加はり、聊か競爭の形で各大學から博士が出るから、現在數だけで、新舊兩令下の數を見ると、大正十年から九年間のそれと、大正九年以前明治二十一年以降の總計（死亡者は兩方除いて）を比べても、法、文、林、獸の外は皆、新令十年間の生産數の方が勝つてゐる。とりわけ、醫博ときては、三・四倍、昭和四年に於ては、日に一・一四人づゝ出て來るわけで、濫造のきらひは免れない。さ、そこである。少い中こそねうちもあれ、學力に於て腕に於て、相齊しい場合に、醫博が天下に百人といふ頃と、三千餘人といふ時代、しかも日に日にふえて　何等珍らしくない時と比べては、ねうち——世間的の——を同一に見るわけに行かぬ。でも、醫師、醫專醫學

	計	新	舊
法	190	28	162
醫	3,182	2,459	723
藥	49	27	22
工	414	114	300
文	162	30	132
理	271	132	139
農	181	90	91
林	38	5	33
獸	23	5	18
經	14	14	—
商	4	4	—
政	1	1	—
	4,529	2,909	1,620

士、醫學士、醫學博士、この等級が、殊に博士といふ特別な位が診療費の等級を決定するので、學位をとらねば損だと云つてゐる醫學士もある。それは、一般國民からいつても、十分研究した博士が豊富で生命とりとめが澤山出來れば有りがたいのだが、それだけの力があるかどうかを、世間は用心して來だした。博士だといつても、必ずしも醫療に「博い士」だとはいへぬ事を幾多の實例から知り得た民衆は、さほどに博士を信用しない。事實、博士號は基礎醫學のほんの一部分の研究でとりながら、方面の廣い診療醫學の「博士」が多いから、博士の中には、へたな開業醫にも及ばない實力の持主がゐるといふ。或博士は、腦貧血患者をだきこまれ、手當の方法がわからず、友人なる學士號もない、但しうでのいゝ開業醫に、電話であわてつゝ賴んだといふ滑稽談をきいた事がある。診察料が高くてへたなら、安くて上手な、無肩書の醫者の方へはしるのは當然である。もはや、醫博の魅力は、昔ほどでなくなつた事を知らねばならぬ。もちろん、博士の中に、いや大部分だらうが、立派な學識、立派なうでの人はあらうが、博士論文のための研究と、醫療上（臨床上）のそれとは、直接關係がないものが大部分だといふ事を知るならば、腹の中の事を鏡にかけて見る人、死者の息をもふきかへす力を信ずる方がどうかしてゐるのだ。

2. 醫者の生活

次は、醫者の富。醫者の生活。

此の問題は結局、本人の力倆聲望で決定される事だが、一方に又醫師の數の多少が大なる關係をもつ。醫師の數は昭和二年末に、四萬七千百八人、齒科醫一萬三千七百三十一人。全國的に見て、人口一萬に對し醫師七・六八人、齒科醫二・二四人の割であり、醫師一人で人口が千三百二人といふ事になつてゐるから、千三百人が醫師一人にとつての收入の素といふ勘定になる。しかし之だけの數の人が皆病氣になり、又其の度毎に醫師の門をくぐればいゝけれども、衞生思想も科學の常識も十分に普及しない現代では、皆が皆、診療を賴むといふわけでなく、そのまゝに放任してなほるのをまつ。當じて死んだら其時の運命だと思ふ連中が多く、之はあぶないとなつたら、加持祈禱、神樣へのお百度參りなどでいゝ氣になつてゐる人がまだ澤山ある。そして、收入の見地からすると、農村漁村などではいゝ客は少いわけで、その點何といつても都會である。所が大都市になると、人口一萬に對して醫師の數が著しく多くなる。まづ十萬以上の都市で見ると、岡山市の二八・六八人を筆頭に福岡二一・九四人、金澤市二一・七九人、新潟市二〇・〇九人、東京一九・

一二人、京都一八・〇四人等々で大阪の九・六四人、横濱の九・二四人等が最も少い方である。だから、醫師一人についての人口は、岡山市の如き二四九人といふ事になり、大阪あたりで千三十七人である。もはや大都市には醫者が多すぎるといはれ出したのだ。まだかけ出しの開業醫だと、さう收入も多くない、東京市などでは、往診に自動車で行くだけの力は勿論なし、抱へ車夫をおく力もない人だと、自轉車で行くといふ。しかも年々二千六七百名の卒業生が出るのだから、君たち之から修業をつんで、開業までまづ早くて十年と見ても、その間には大都市での成功可能度が大分低下すると見なければならぬ。從つて、メスや聽診器によつて富をかち得るといふ事は、目的外におく方がいゝと思ふ。之と同時に、修業や肩書の力もだん〳〵うすらぐであらうといふ事は、現今の醫師の學歷から見てもいへる事である。四萬七千餘(昭和二年末)の醫師の中、醫專出が二萬三千餘、試驗及第が一萬三千、醫學士が七千八百だから、今日の醫師のレベルは醫專出といふ所にあり、醫學士ないし、大學卒業者は約六分の一である。つまり、之からは、人一倍修業をつんでも、人一倍の收入を適確に得るといふ事は困難になつてきたわけである。東京日々新聞の角笛欄で一田舍醫者の叫ぶところは、醫家の苦痛をよくあらはしてゐるを思ふ。

「小生は、片田舍の一藪醫者だが、小生達の立場から見ると、醫者が暴利を貪るといふことは、

文字通りに皮相の見としか思はれない。藥價はとも角、疾病を治癒にまで至らしめる醫者の心勞は、金錢では評價の出來ない事であります。

それに醫者には義務がある。深夜でも大暴風雨の時でも、理由なしに求めに應ぜぬ時は、法は鋭利な刃で私達の首をねらつてゐます。而も往診料は取れるやら取れないやら皆目わからない。この邊は『醫は仁術』といふ事が出來ませう。

都會地はすべて報酬は現金らしいが、田舍は年二期の支拂が慣例になつてゐる。しかもその報酬は都會地より少額である。且近來農村の疲弊深刻を極め、年二期の支拂に際しても、全額の半分も納入するのはいゝ方で、二年三年と支拂のおくれるものが少くない。

それに近來、一般の趨勢は『醫者はぼつてゐる、支拂は半額にても可なり』位に考へてゐるものが多く、全額回收は考ふべくも愚であります。勿論、法に訴へてその回收を求める時は、すぐ評判が惡くなつて、患者を失ふ事は火を見るより明かであります。

要するに年中無休（都會地は然らざるものあり）で、他の職業に比し二倍乃至三倍の精神的肉體的の勞力を拂つてしかも前述の通りであつたら、醫者の前途は闇々たるものがあります。これは一部吾々のみの經驗するものでなくて、多數のもの〻味はふ苦い經驗であります。

要するに、博士だの金だのといふ事を目標とした醫學志望は、健全なものでない。なる程最近數十年に於て、醫學はドイツにまけない進歩はしたといふけれども、それは、學校や學者の腦裡、病院、研究所内の進歩であつて、其進歩が國民一般に普及したとは斷然いへないのだ。死亡原因前から世界列國と肩をならべて見ると、身長のちひさい日本人は、統計表（國際聯盟統計年報、大正一〇（一九二一）年分）では最も巨人（ジヤイアント）の仲間である。卽ち、結核は智利が世界第一、日本は第二等（死者十萬に付二〇六人）氣管支炎肺炎は、智利西班牙についで第四位（同じく二七六人）下痢、腹炎はスペインのつぎで第二位　日本は病氣にかけては三流四流以下の國と肩をならべた「世界列弱」の一なのである。醫術について日本がまけないといふ獨逸は、結核第七位（死者十萬の中百三十）氣管支肺炎第六位（同じく一六五人）下痢腹炎第六位（日本人は死者十萬で二六三人、獨乙人は五七人）こんなものは、ビリの方がいゝわけである。歐米では學生に示すべき臟チブス、コレラ、癩病等の標本たるべき患者がなくて困つてゐる。醫科大學では歐米では傳染病が激減して、今日既に結核の如きは數百萬の女性會員を有し、一年數千マークの會費を集めて活動してゐるといふし、紐育市などで電車の床に痰をはかうものの宣告を與へられたものと思つてゐる。獨乙結核豫防協會の如きは數百萬の女性會員を有し、一年數千マークの會費を集めて活動してゐるといふし、紐育市などで電車の床に痰をはかうものな

ら、五百弗の罰金と一年間の禁獄を課せられる。然るに、大都市でも場末に行くと、道に砂塵がたつて、商品がよごれるとばかりに、どぶ水をかひ出して道にまいてゐる。病菌普及をやつて平氣でゐて、五百弗の罰金にもならぬ。この邊に、醫師の開拓の餘地があるのだ。從來の醫師は、病氣になつたものをなほすのが本業だつた。講骨にいへば、病人が多い程醫者は繁昌するわけである。併しそれは、社會の幸福から見れば、豫防藥一オンスは、治療藥一ポンドにまさる（An ounce of preventive is worth a pound of cure.）のだから、國民保健への道程を走るのが、今後の醫師の使命であらう。此の點では大都市でもまだ〳〵仕事は殘つてゐるが殊に交通不便な田舍では、治療專門の醫師が一村一人にも屆かない所がいくらもある。山間僻地や、北海道、樺太などは、或は公費で補助し、或は住宅、土地を與へて醫師の來住をまつてゐるが、そこに棺桶をかついで行く人は少く、よし行つたとしても、數年の間に多少金がたまると、與へられた土地住宅をたゝき賣つて、都會に出てしまふものが可也あるといふ。金儲け本位の醫者の存在は、だん〳〵拒まれて來たのだ。

これから醫師にならうとする人は、すつと學者でたつ少數の人、軍醫、官廳等の保健、衞生の技師、學校醫、鐵道醫、船醫など、又は、病院付等、サラリーマンとなるか、開業醫として、支那

南洋、シベリア、南米等に向ふか、內地に居るにしても、兎に角、營利本位から救世濟民主義に轉向せねばならない。吸錢、災民、主義では、社會的に死せねばならぬ。

3. 醫者になるなら

それでも、君の決心は動かないか。尙こゝで目前の問題を考へねばならぬ。此の頃、職業の爲に高等な學校へ行く事については、可也消極的な考が識者先覺の間に漲つてゐるやうだが、醫者の職業ばかりは、規則で學校を出ねばならぬ事になつてるのだから、どうしても學校入學を第一にしなければならぬ。所が今日一番競爭の激しいのは醫學校なのだ。

昭和二年からの醫大豫科、醫專の競爭率を左に表示する。

	慶應醫大豫科	滿洲醫大豫科	京都醫大豫科	日本醫大豫科	東京慈大豫科
昭和二年	17.6	12.4	11.5	9.0	9.1
三年	17.3	9.3	14.4	14.9	18.1
四年	15.9	14.5	11.2	18.9	23.1
昭和二年	13.3				
三年	19.4				
四年	15.3				

		昭和二年	三年	四年
東京醫專		9.0	9.3	9.6
大阪醫專		7.0	5.9	10.7
日大醫專		9.9	12.9	14.0
昭和醫專	二年	—	11.7	12.6
九州醫專	三年	—	9.0	8.7
岩手醫專	四年	—	6.4	7.1
京城醫專	二年	6.4		
台北醫專	三年	6.2		
	四年	8.5		

此頃は不景氣風が強い爲に、官公費の學校では廿人卅人に一人などいふ猛烈な競爭率だが、此他では高等學校を除いて、十人以上に一人の合格などいふ學校は醫學校だけである。信用ある學校、古い學校としいへば何れの學校も、何れの年度も、表で見らるゝ通り、十人以上に一人といふ競爭である。もちろん、志願者が少くても、實力たつぷりが揃つてゐる場合と、多くても、ドングリや、山かん連が蝟集する場合とでは著しくちがふので、この率だけで入學難易は決定出來ないが、とにかく、他の種類の學校よりも入學難だといへる。所が齒科になると十人に一人などといふ事は殆どなく、藥學も同樣である。そこで醫大豫科や醫專へ受驗しようには、まづ第一に成績がいゝといふ事が必要だ。

どんな學科の成績がよければ——といふ事は、常識でもわかる通り、理科方面だが、人間の身體精神を扱ふ仕事たる以上、動植物、物理化學がよく出來ねばならぬ事はわかるが、專門家の話では、醫學の基礎を自然科學の上におき、嚴密な分析と精緻なる論理とを最大要素とするから、尙この上に、數學が得意でなければならぬといふ。

次に語學、醫者の語學は殆ど獨逸語だから、英語の得意のもの必ずしも獨逸語がいゝとはいへないけれども、語學の才能があれば、外の語學だつて苦しくもなからう。だが醫專の獨逸語は、第一學年で一週十一時間、二年から四年迄は三時間といふ規定になつてゐて、其外、原書をよまされるばかりか、治病上の語はすべて獨逸語でかき、臨床にたちあふ醫師の間の會話は獨乙語を用ひる場合が多いのだから、慣れる事もなれるが、不得意だつたら苦しい事夥しい。要するに、人間を一の動物ないし「物」として考へる場合、之を扱ふ醫師には、理科數學語學が出來ればいいわけだが、決してこれだけで足れりとはしない。常識でもわかる通り、病人を扱ふ醫師は、最も冷靜でなければならぬ。瀕死の人を手がける場合もあり、まかり間違へば助からぬといふやうな大手術を短時間にやつてのけねばならぬ事がある。どんな事があつても冷靜沈着をかいてはならぬ。かつて、千葉市の某病院長は大手術の眞最中に、院内から火事が起つた。しかし今手術を

中止してはならぬとあつて、火焔の中で手術を續けたといふ事だつた。かうなると、もはや冷靜沈着などといふ段でない。實に命がけの仕事なのだ。たとひ、かういふ特別な場合でないにしても、患者の命を預る以上、眞劍な、身命を賭してかゝるだけの覺悟がなくてはならぬ。醫師に對する惡評を放つものは、えてかういふ苦心の側面を忘れたがるものだ。尙又病人を扱ふ點から、殊に開業醫の立場からすると、靈的存在たる人間を扱ふだけの、精神的信賴を得る人格が高くなければならぬ。病は氣からといふ事は或程度まで眞理なので、從つて、病人にとつて、「信賴出來る醫者」と思はれるか否かで、治病上の效果に大きな差を生ずるのだ。だから、醫者として頭があり、診察も適確、手術も巧み、投藥もよく効を奏するといふ事のあるべきはもちろんだが、特に人に親切であり、むしろ仁俠的な心持が必要である。此頃とかく醫者が不評判なのは、中に物質本位で、親切な程度が金高できまるやうなものがあるからである。或は貧乏な人が夜中に急病人だといつて醫院の門を叩く事八軒、何れも急に頭痛だ風邪だといつて見てくれなかつたとか、輕症を重症だといつて、うんと金を貪つたとか、何れも不誠意からの攻擊が多いやうだ。今や醫者としては、肩書萬能でなくなり、開業醫なら食ふには困らぬ時代も過ぎた時に方つて、「はやる醫者」となるには、どうしても昔からの「仁術」に迄ひきもどして深切第一で行かねばならぬ。

從つて、人間としてのえらさがほしくなる。

更に、人間の生活は、體の丈夫といふ事が最も必要である。病氣は時と場所を選ばぬ。どこでも、いつでも發生する。だから、正月の元旦だとて、往診に行かねばならぬ事もあり、夜中の熟睡を中斷される事も珍らしくない。本當にのんびりする日といふものは、先づないといつていゝ。尤も、內科外科の外、眼科などになると、さほどの事もないが。忙しい位はやらねば、商賣として面白くないわけだ。この點、官吏や學校教師の如く、一定の時間動務のあとは、讀書に娛樂にわりに自由なのとはよほど違ふ。とりわけ、醫者は病人をなほすのが主たる本務だから、傳染病を患者から引受けて、職に仆れる事など珍らしくない。體の頑健を要する事言をまたぬ。たとひ傳染病にたふれずとも、年中蒲柳の質でねる事が多い醫者だと「急病だからすぐどうぞ」『今、こつちも病氣でねてゐますから」では、患家の方で「あてにならない」といふ評判をたて、結局如何に腕がよくても、賴み手がなくなるわけだ。

最後に、金の問題。

長く修業を要する事醫者の如きは少い。前いふ通り學校出でなければならぬ。醫專は四年、大學だと高校又は豫科を合せて七年、あとの二三年は附屬病院の助手をやり、その間に、內科、外

科、小兒科、産婦人科など、專門をわけて研究し、實際の職業につくが、自分で開業するのは尙二三年間、尙大きな病院で數年つとめてからのものが多いので、一本立になるのはなか〳〵大變である。學費も外の學科よりよけいに要り、長くかゝるし、いざ開業となつても、所謂「醫師の玄關」で家の外觀もよくする必要があるし、みなりなども患者を信賴させるには貧弱では困る。貧弱な家で、代診もおないし、看護婦も居ない、設備も惡いといふ事では人がよりつかぬ。同業者が多くなると、よけいにかういふ施設もよくしなければ、患者をとれない。「賴まれもせぬのに俥で毎日出かける」とか「玄關に、下駄や草履を揃へて、はやるふりをする」など、馬鹿氣たまねはもはや今日はなからうが、病人の方では自分の生命を托し、我子の一命の休戚にかゝる場合選りきらひが生ずるのは當然だから、腕と深切と健康との外に、資力といふ事が、修業から開業後までつきまとふのである。

4. 齒科醫と藥劑師

或小學校で兒童の齒を調べて見た所、齒磨を使ふ兒に一番齲齒が多く次は鹽で磨く兒。そして水で口をすゝぐ兒が一番疾患率の低い結果を得たといふ。一見不思議な現象のやうだが、之は齒

磨を兒童につかはせ得る家庭と、水で口すゝぎをさせるそれの家庭とでは、生活程度に高低があり、上流の家庭のものほど齒痛を生じ易い食物をとつてゐるといふ事と、上流の家庭の兒童ほど遺傳的に體質がわるいといふ事の爲だらうといふ理由がついた。つまり文化程度の高くなるにつれて、齒の病は增して行く。砂糖の消費量と齒の病氣とは、文化の尺度になるといはれてゐる通りである。實際、歐米先進國では、文化の進んだ國ほど「齒がたゝぬ」率を高く示してゐるのだ。英國の如き九五%米九四%獨九二%、日本も內地だけなら九二%　植民地を合せて八五%。然るに野蠻人たとへばエスキモーなどになると、纔に三%。して見ると、むし齒をもつ事は文化人の一資格かのやうである。此點、齒科醫師志望者にとつて有望だともいへるわけである。

齒科の方は普通醫に比して、全國的にまだ數も少いけれども、都市に於てはやはり過剩で困つてゐる。といふのが、一般の醫師に比して、病氣の頻發度が少いので、一度、患部をなほしてしまふと、幾年かの間はもつし、次の齒が惡くならぬ限り、其人は再び來ないわけだ。そこで普通の醫師ほどの數が必要でなくなる。今日、齒科醫專志望者は、普通の醫專よりも競爭率の少い點から見ても、より少いと見ていゝが、漸次增加の模樣である。開業醫なども、今は局面轉回を劃して、もつと分業的によりせまく專門醫的に、ならねばやりきれぬと云つてゐるし、村などに開

業したものも、都市の醫師の方が腕がよからうといふ患者の舊來の因襲から、さうらく〳〵とやつて居られぬとこぼしてゐる。之からこの方面に志す人にとつてはよくもよく實際の人にきいて見る必要があると思ふ。

必要な性能、資力など大體醫師と同一だが、患部が、齒といふ一部に限られてゐるので、宅診が主で往診などは先づしないやうであるし、傳染病でたふれるといふ事も少いわけだ。だが、設備の如きは、かへつて小規模の普通醫師よりかゝるのだ。藥品、治療器具の外、金、銀、義齒等を入れる技工方面の設備が要るからである。

藥學專門學校出は、病院の藥局に行くか、自分で開業するのが大部分だが、これも今日、藥劑師で仕事のないものが多數だといふ。獨力開業となれば、醫藥の外に化粧品文具など色々商ふ一種の商人だから、その方の才能も必要である。

八　法・經・商出の進路

1.　就職難率の見方

毎年三四月頃になると、近頃きまつたやうに新聞や雜誌が、「大學專門學校出身者の就職難」なる見出しで、其難率を掲げるやうである。其中でどの科が最も惡いかといふと、毎年之もきまつたやうに、法經商方面であり、しかも年々就職のチヤンスは少くなつて行く。嘗ては、學士が米廿石を買ひ得るだけの月給、今の値段にひきなほして七百圓餘の待遇で飛ぶやうに賣れた明治中葉から四十年後の今日では、年收七百圓の口すら、中々見つからぬ時代になつてしまつた。まづ其「難率」を他の專攻學科と比較して見る。

	大正十五	昭二	昭三	昭四
法經文	五二・〇	六・五七	四六・三	三八・一
理工	七九・〇	七六・二	七三・三	七六・〇
農林	六二・九	六〇・七	四九・五	五八・六

之で見ると、教育理工醫藥の方面が一番いいやうだし法經文が最も困つてゐるやうだでも「文」は學校といふ牙城があるけれども、法經の方は、資格や專攻學科が、凡百（ぼんぴやく）

醫	藥	五九・〇	七三・一	六九・二	七〇・五	
高	師	八〇・〇	八九・五	八六・〇	七〇・九	

がかういふ就職率の表には、實數がはいつてゐないのを注意せねばならぬ。今、昭和三年三月卒業の大學專門學校就職者數を見ると、

	法	經	文	理	工	農	林	醫	藥	高師
卒業生	七、一六五		二、七一八	一、七二三		二、三五九		二二一		
就職者	三、三二二		一、九九三	八五三		一、六三三		一九〇		
未就職者	二、三三九		四六五	四一〇		一八七		一二		

一番遊んでゐるのが多いのも法經文なら、一番多數に就職してゐるのも亦法經文である。さうして、官廳の調査する統計は、多くは大學の事務室、職業紹介所、大會社での調査に基くもので之以外の不明な分は、「遊んでる」事になるのだが、皆が皆遊んではゐないものだ。小さいけれども親爺の銀行にはいるとか、田舍だけれども伯父の工場に出るとか、先輩、知己の世話で、あまり大きな顏も出來ないお手當ながら、兎に角何かにありついてゐるといふものが可也多い。卒業生名簿を見ても、三菱銀行、安田保善社、何縣事務官などと堂々と揭げられないものは、姓名の

上に○がついてゐる。「遊んでゐるな」と思ふと、其實何かしらやつてゐる。遊んでゐるのは、○持ちののんきな息子さんである。さう一概に悲觀したものでもない。

理工醫藥農林などの方面は、なるほど法經文に比して就職率は高いけれども、使つてくれる方面が極めて局限されてゐる。それに、一會社で使用する人數も法經に比べて少いと來てゐるから只「難率」が低いからといつて、前に述べたやうに、法經の私立大學の角帽がむやみに、自分の資性を考へず、高工などへ鞍替へするものが多くなつた曉には、こつちの方こそ就職難が深刻になりはしないだらうか。それはとにかく、法經方面は、需要部門も廣いかはりに、供給數が猛烈なのだから、よほど覺悟をきめてかゝらないと、いい目は出ない。

それでは、法經（文）方面の人は、就職先に於てどんな數字を見せてゐるか、他の科との比較表を揭げて見よう。

——昭和三年三月卒業者——

	官公吏	學校	會社銀行	新聞雜誌	個人事業	其他
法	四〇八	四七〇	一、八四八	一〇三	二三七	九四
經	文					
理	六二二	一一七	九九二	一	四七	一七
工						
農	四七二		一七三	一	三一	一五
林						

醫　藥　一八六　二八七

法經は會社銀行を雄とし官吏を其次とする。會社銀行と一口に云つても、銀行の外、保險、商事の諸會社を除いては、大抵製造工業又は請負事業等が多く、從つて理工農等の技術者と伍して仕事をする事が多い。官吏の方も、司法官、外交官の如きを除いて、內閣各省や地方廳に於ては技術者と一緒の仕事が可也ある。そこで、近頃は、法經方面の人に對し、技術者側から抗議が出て來た　といふのは、官界に於ても實業界に於ても、法經出身者が、技術者の上にたち、支配的地位を占めて居るが、實際の技術の事は、畑が違ふので頭がない。經營上の事に當り、生產に直面するものは、技術者自身であるのに其等が大抵法經出身者の下風にたつのが不服なのである。之は如何にも尤な事だが、中々この空氣を一掃するのはむづかしからう。何しろ明治以來、國政を料理し、又今日の世界的地位に日本をひき上げたのは、武官と文官の力が大きく、殊に明治維新以來の政治の衝に當つたものは、法律をやり、政治を學んだ人々だし、產業の統制に從事したのは經濟商業の學校出なので、今日の大官といひ、大實業家といふものは、大部分が法經出身者で

かためて居るのである。從つて、部下配下が或は其學校の後輩であり、其後輩は又後輩をする、其間には、閨閥といつて、結婚關係なども網の目のやうになつて居る。一口に、支配階級といへば今迄法經方面の占めるところだつたのだから、技術の知識がないからとて、六法全書や算盤だけで育つた人間を、急に排擊しても俄かに舊勢力をどうとも出來るものではない。

それに、技術者は前にもいふ通り、「技術屋」で技術一ぺんに馳せ、人間味、統御力、經營の才などいふ事は、どうしても六法全書黨に勝味を讓らねばならなかつた。凡そ技術の結果は、生產であり、生產の結果は販賣である。製造以後の問題は人との折衝であり、取引であり、契約であるから、どうしても法律的あたまの領域になる。かういふ方面にまで、技術者の才能がのびてゐるものも、多くの中にはあるけれども、大部分、技術家は依然技術家だつた。從つて、定規の方が、六法全書の下風にたつのやむを得ない事になつたのである。

併し、近代人の氣持として、單に技術者なるが故に下風にたつといふ理由は毫もない。否かへつて、實地生產に從事するものが尙ばるべきだ。だから、文官任用令を改正し、技術者でも、高文資格なくして、高位に上り得るやう、提議は夙にされたのだが、なか〳〵實現されない。禿頭の技術者が、高給はとりつゝも、若手の法學士の下で使はれるといふ事は、官廳に於て普通であり

會社などでも見受ける所である。曾に技術者ばかりでなく他の專門家でも、高文資格がなければ共有資格者の下風にたつ事になつてゐるのが通例である。そして、法科方面出身の、高等文官試驗をとほつた高等官は、地方行政官にでもなると、警察方面から、學務部に行き、又は產業方面にかはり、色々の部門の課長や部長になるので、どの方面にも通じてゐるといふわけに行かない。勢ひ官判を押す決裁者、文字通りの事務官、交際官になるきらひがある。

實際上の仕事は、技術官や其他の專門家がやるから、法學士課長は、只之を指揮し統轄して善處して行けばいゝといへば言へやうが、專門の方面に何もわからないとすると、其善處もあやしくならざるを得ない。で私は理想としては、法經方面の人でも、今よりもつと技術的專門的方面の知識をもつべきであると共に、技術者の方にも、もつと法律ないし、經理統御方面の知識や腕があるべきだと思ふ。近頃はあまり分業が高度に行きすぎて、各部門の間の連絡、協同がうまくいかなくなつてゐるので、從つて、制度としても、溝の出來てゐる所が少くないから、兩方が歩みよる事によつて本當の領解が行はれ、協調が出來、能率もあがると思ふ。しかし、制度は一朝一夕には改變出來ぬものだから、この中に入込まうとする人に於て、自己の立場を知り、必要知識に對し、あくまで研究的態度をとるといふ事が望ましいわけである。

さて、法經商出の人々はどこへ行く。

數からいつたら、實業界が第一、次は官吏であるが、其中でも、司法官外交官行政官にわかれ、內閣各省の畑で將來の方面がきまるのだ。一部は、辯護士になるとか、新聞雜誌記者、敎諭、敎授等學校方面にのびて行く人もある。順序としてまづ實業方面からはじめよう。

2. 實業界を目指して

法經商の學校を出て實業界に進む。之は從來から學生大部分の志望するところ。して又一番口にありつけない部門である。おまけに、近來は實業界では倒產、閉店等が多い上に、大會社なども產業合理化運動が盛で、なるべく人數をへらさうとし、操業短縮というて、事業の範圍や勞務時間をへらすなどゝいふ事からして今までよりも人が要らなくなる大勢である。之と反對に求職者側たる法經商方面の學校出は逐年其數がふえて行く。何しろ明治以來、學校を出る事自身がねうちをもち、同じ學校なら、法科の方が肩身が廣いといふ氣持は、今でもなか〳〵とりきれず、之をめがけて「入學難救濟」の名の下に官公立の學校が增し、學生收容數が增した上に、わりに「もと」のかゝらないこの方面の私立學校がとても澤山出來、晝間部も夜間部もある私立法經の

大學や專門學校がすばらしい勢で激增したので、法經方面の口は、需要供給が逆になつて行つたわけである。そして、實業界では、かういふやうに、人多く、口少き時代には、「いゝものを安く」といふ經濟原則當然の結果として、採用するなら當座に間にあふ中等程度の學校出を中心とし、上級學校出のものは最少限にといふ事になつてゐるので、いよ〳〵就職のチャンスは少くなる。現に昭和五年三月東大法經兩學部卒業生九二四名の內、銀行會社方面の就職者は一八五名でたつた二割（官廳方面は八五名だから一割にも足りない。）四五年前迄は、保險會社なんて御免だ勸誘をやらされるからと、てんで見向きもしなかつたのが、今年の經濟學部就職者では、生命保險が筆頭である。ワラでもつかむ時代が來たのだ。大正七八年頃、大學入學と同時に口がきまつた頃とは、正に隔世の感がある。

かういふ競爭激甚の中へ、諸君はふみこんで行くのか。それも、卒業までには幾多の難關がある。入學試驗を突破し、在學中の勉學、卒業試驗をきりぬけて、就職の試驗をうけて、其二割のお仲間に入る。之までの勞力、費用を考へたら大したものであるが、世間はそれほどに自己を高く見てくれない。そして、やれ「掃き溜め學問」だの「兵卒を養ふに將校教育を以つてするのがまちがひだ」のと、いひたいことをいはれ、やう〳〵ありついた一脚の椅子では、給仕と同じ仕

事を先づさせられる。實際考へなければならない時代である。

明治時代に學校を出て、會社や銀行で相當の地位と財力を占めた先輩は、今日の學生が徒らに會社銀行に奉職する事のみを考へて、少しも獨立しようといふ考がないといふ攻擊をする。一應尤である。依賴心は若人として感心は出來ない。しかし、法經の學校を出てすぐ獨立で何か商賣が出來るだらうか。專門學校を出た人で夜店の露店商人になつてゐる人もあり、「大學出のシャツ屋さん」等々の體驗記も雜誌に見えるけれども、之等は、何れも一旦は就職し、事情があつてやめた人とか、何年かの經驗や手引などがあつて後はじめたものが多く、學校を出るなり、すぐにも出來る商賣など、このセチ辛い世の中にころがつてゐるものではない。資本も要る事だし、無經驗ですぐトン〳〵拍子にうまくいくとは考へられない。殊に永年其道で苦しんだ人すら、不景氣でまゐるものが多い現今、又デパートの進出によつて、小賣商人が靑息吐息の現今、親の脛の味だけを知つて、試驗の苦しみ以外知らずに通つて來た書生肌の人に、食つて行ける獨立的な仕事が、やたらあらう筈がない。只、其位の氣慨、意氣は必要だけれども、誰も彼もといふ事は、まづ可能性がないと思ふ。

そこで實業界めがけて進む人を境遇上からわけて見る。第一に、父兄緣故者がやつてゐる事業

に確實にはいる見込のある人。次に事業經營主腦者に手引のある人。其三は緣故も何もないものの三樣になるであらう。そして、第一は、暢氣なもの、少くも就職難に對しては、樂觀出來る美しい境遇の人々だが、之は全體から見て少數で、大部分は第二第三の部類。どこへ行くのかわからない連中である。

殊に法經方面の人は、他の職業に比して、將來を確實に定め難い事情にある。といふのは、技術家や醫師などは、就職場所は官廳あり會社あり商店ありであるが、手にするものは多くは自分の習つた技術や知識である。所が、法經商方面では、銀行か、會社か、會社の中でも、保險か、貿易か、製造工業か、交通運輸方面か、口があつての勝負である。同じ三井でも、銀行、信託、船舶、造船、保險、倉庫等があり、傍系の會社が又とても多方面になつてゐる。或人は、三井系の緣故があつた紡績會社に行く考で、かなり其方面を研究してゐたけれども、事情ゆるさず入社が出來ないで、炭鑛會社に入り、入社早々石炭の種類產地特長などの勉强によわつてゐた。醫學校なども、一般醫學をやり、卒業して助手になつてから專門方面を專攻して、然る後奉職するのだが、法經では奉職先によつてきめられる。そして我國では、あまり方面ちがひの會社や銀行を轉々すればする程、履歷が信用を低くする。畢竟どこへでも向く人間になつて居る事が必要にな

る。融通がきく人、順應性のある人たる事が肝心である。そこで、實業界ではどういふ事を要求するか、又どんな事を嫌ふかを今から考へておかねばならぬ。

考へて見ると、じつさい就職戰線突破は大へんである。しかし、實業界では現在使つてゐる人が年々に年とつて行く、重役だつて其中、業界から引退する時期も來るし、惜しい時に他界したりする。新陳代謝はつきものである。そこで、下のものが番のまはつて來るのを待つてるわけだが今使つてゐる若い人たちを、上役は皆感心なものと考へてゐるかといふと、決して皆が皆立派な若い社員ばかりではない、否むしろ人材難だといへる點も少くない。秀吉が黒田如水に、世の中で一番多いものは何だときいた答に「人でありまする」「一番少いものは何か」「人に御座りまする」といつた通り、多いのも人、少いのも人。實に、立派な人は少い。平凡人は掃でもはかりきれぬ。殊に、此頃は學校出の平凡人が蝟集するので、其中での競爭にかつには「人材」たるべく、「少い人」たるべく、少しでも早くから、準備せねばならぬ。其爲には、將來、大をなす人物としての必要條件を知り、それまでの徑路をたづね、其徑路を辿るべき方法を索め、現在に於て如何にすればいゝかといふ所まで、未來から現在への道をたてる。さうして、其未來の目標に向つて、現在から一步一步堅實な步みをつゞけねばならぬ。けれども、現在の學生は、極めて眼前の

事しか考へない。在學三年としてまづ就職問題に頭を使ひ出すのは、來年卒業といふ時の秋頃からである。初めの一二年は上の空である。もはや卒業試験がすむ頃になつて、「就職の祕訣」「面談の心得」などゝいふ書物や雜誌を虎の卷として、一夜漬をやつても、もうおそい。恰も、君方が專門學校受驗を急に思ひ立つて、受驗期の半年前からさわぎ出すと同樣である。競爭がはげしければ、はげしいほど、準備年限に長きを要する。だから今日、受驗といふ事には、中學の二年頃から心がける人が少くない。然るに、一生を支配する就職といふ事になると、不定といふ事もあるからではあるが、間際に狂奔する。學校入學なら、一年まつ事も出來、入學後に末の事をきめても、とにかく食ふ問題に支障はないが、一生の問題、一生の準備としての難關突破に對してはそんな事では輕卒の至りである。一生の問題こそは、永い〳〵準備があつて然るべきだ。しかしその點は、小學校から中學、專門學校ないし高校、大學といふものが、一生の準備だともいへるだらう。けれども、其學生時代は、殆ど、卒業證書を目標の進み方で、世の中での數十年のプログラムを豫定して進んでゐないやうな今迄の大勢では、之だけを一生の準備だとはどうしてもいへないのである。此れは單に、實業家志望者に止まらず、どんな仕事に向ふ人でも同樣だが、殊に、學校の出口で一生の問題のきまり、そのまへには、不定性の强い法經方面の人々にとつては

餘計に此問題が痛切なのだから、賢明な諸君は、前々から、不定なるが故に一層目標模索の必要を痛感すべきだと思ふ。

そこでこゝには、實業界を目指す人の、一般的に要求さるべき資性を考へて見る。

前にもちよつとふれておいたが、職業の中には、日々の一擧一動とか、刻々の判斷や應對が何等金錢的結果を持來さぬものがあるけれども、實業の方は、金錢に關係を皆もつて居り、競爭は將に商戰といはれる通り、一種の戰であるし、其戰は、結局「判斷」の戰だともいへる。判斷の良否が、忽ちに損益に影響するのだ。だから、お役所とか學校のやうにきまりきつた仕事を、きまつた時間だけやつて居ればいゝといふものでなく、「眞劍」といふ事が必須なものになる。得意先、取引先にやる一本の手紙でも、書きやうによつては、相手の心をいゝ方に動かして、取引を圓滑にもするし、惡い方に動かして、得意を失ふ事だつて珍らしくない。應對ぶり、商品の荷造りの仕方、世間はさうした末梢的な事で、去就を決定する。從つて、かういふ業界に打つて出ようといふものは、骨惜しみや大ざつぱは禁物である。忠實勤勉にして、思慮綢密といふ事が緊要な資格である。

殊に、實業界では、數を扱ふ事が多い。損得の比較計量を、對談中にも執務裡にも、瞬間にや

つてのけて、取引せねばならぬ事が屢々である。その結果は、一圓の取引の一分は百圓である事を知らねばならぬ。日に一圓づゝの利得は、年に三百六十五圓、之が利子五分に當るとすれば、元金が七千三百圓あるのと同一のねうちだと考へると、五厘一錢たりとも、決してをろそかには出來ぬ。殊に此頃のやうに銀行、信託、保險、運送等金融事業が發達し、各商業が何れも之等信用機關を利用する時代に於ては、數理的打算に於ける綿密といふ事は、商界活動者の緊要な要性である。業界に雄飛する人々の學校出に對する不滿は、小事を忽せにするといふ事であり、細心を缺くといふ事である。も一つ大事な事は、けん高ではない困るといふ事である。相手に對して自讓謙遜の必要な事である。商賣人は相手に對する横柄が最も禁物、感じのいゝのが何より勝利の基である。殊に賣買に於ける相手は、買手たる特權からして無理をいふ。一々其言葉尻を氣にして顏色をかへては商客は逃げてしまふ。要は、骨を折ると共に腰を折る修練が必要である。

斯くの如く忠實、緻密は、少くも商界の一兵卒としても重要であるが、更に他日の大をなすもとは、見識といふ事にある。近頃テンポが早いとか、スピード時代だとか云つて、世の文物の變化推轉のはげしい事を云つてゐるが、文物の變轉の現象には必ず產業上の變化が伴ひ、從つて商

業上にも變化が刻々に行はれてゐる事、近頃の如くはげしきはない。競爭のはげしい所には必ず變化もめまぐるしいものがある。何がさう變化させるかといへば、其は人である。人の獨創である。そして、商品の如きは、多くは商人から製造所への注文によつて、新型が出來るのだから、商人は時代の大勢と、顧客の要求傾向とを知つて、次に來るべき商品の如何なるものかを洞察し逸早く之を生產させ、普及傳播させるだけの炯眼と機敏なる活動力がなくてはならぬ。更にこの獨創ないし工夫力は、品物の發明的生產促進のみでなく、ちよつとした事から、利益をあげる事が頗る多い。私の昵懇な人は、今東海道の某港回漕業者の支配人をやつてゐるが、港に着いた巨船から艀で石炭の陸揚をするに際し、舟と人との配置に少しのあき時間や、むだのないやうに計畫し、之を實行しただけで年額五十萬圓の利益を得たといふ如きは、一人の頭の判斷工夫が如何に金錢的に大なる結果を齎すかの好適例であらう。

忠實緻密で見識があるならば、小さい獨立の店をもつても、相當な仕事は出來るが、仕事が大きくなつて來ると、對他關係に於ける己の「人間」性がえらい資本になる。事業內部としては、「人間」は統御の力をもち、外部に對しては信用を擴大する。殊に事業が大きくなり使用人が多くなると、一枚の封筒でも、一枚の紙でも、部下の心の緊張程度によつて、使ふ道に活き死にが

あり、それが又事業精神の健全か否かを物語るものであるから、上にたつもの、壓力、ないし信服力は、どうしても經營上になくてはならぬものである。「たいしやう」がなまくらだと、部下にいゝ人は出ない。「勇將の下に弱卒なし」は「弱將の下に強卒なし」ともいへるわけで、畢竟、腹のしつかりした、人格の人が業界の內外に信用をかち得るといふ事になる。

實業家としての注文はまだ色々ある。が結局自分が今法經の學校にはいり、將來實業界に出ようとしての場合、如上の事が自分の性格に合ふかどうか、之は皆が皆あふとはいくまいし、わからない點が多からう。が、こゝに、某誌に出た「能率をあげて長上に認められるゝ執務の要諦廿五ケ條」といふのがある。此の中には諸君の現在の勉強ぶりを顧みても、「やれるかな」と思ふ點が多いと思ふので、項目だけを轉錄して見る。

○一、仕事のプログラムを作れ
○二、仕事の輕重を計れ
○三、仕事を速へ
○四、仕事の手順を研究せよ
○五、明日の仕事は今夜の中に獻立をなせ
○六、仕事は一つ宛片付けて行け
○七、叱言に感謝せよ
○八、欠伸と居眠の傳染力
○九、毎朝時計の正確を正せ
一〇、失敗の報告は特に急げ
一一、同一の失敗を繰返す勿れ
一二、部下をして功を立てしめよ

欠

MISSING

業。豫備試驗は、論文と外國語（英、佛、獨の中一つ）で、一度通れば永久有効である。專門學校を出たものなら豫備試驗も不要だ。高等試驗令第八條に「高等學校高等科を卒り叉は大學豫科を修了したる者又は文部大臣の定むる所により之と同等以上の學力を有すと認むるものは豫備試驗を免ず、豫備試驗に合格したる者は、爾後豫備試驗合格者（高資パツス後の合格者も含んで）とが、いよ〳〵本試驗の三方面に馬力をかけるのだ。

そこで、專門學校以上の出身者と、豫備試驗

本試驗には筆記と口述二つをパツスせねばならぬ。毎年七月に筆記、九月に口述がある。從來は九月一日から筆記、十一月に口述があつたので、三伏の炎熱に一萬頁の法律書を三四へんくりかへす高文準備といふものは、努力中の最大努力だつたが、昭和四年から改正されて受驗期が七月になつたので、炎暑と戰ふ事も緩和された。殊に科目に於て、從來の法律萬能だつたのが非常に方面の廣い中から、選擇が出來る事と、口述試驗が三つ乃至四つにへらされ、其中二科目に筆記の方で受けた中のすきなのを受驗者が選擇するといふ事になつたので、受驗者の得意とする所の科目がある程度迄うけられるし、人材を廣くもとめられて、今迄の法科萬能がよほど緩和される事になる。しかしまだ、昭和四年の試驗などは、改正の前からの準備者が多かつたせゐか、法

律方面の科目の選定者が多かつたやうだ。

そこで、三科の科目を次に——。

必須科目

行政科(四)憲法　民法　經濟學　行政法

外交科(四)憲法　國際公法　經濟學　外國語(英獨佛支露の一)

司法科(五)憲法　民法　商法　刑法、民訴又は刑訴

選擇科目(何れも三つを超よ)

(1)三科共通のもの

哲學概論、倫理學、論理學、心理學、社會學、國文及漢文、國史

(2)二科共通のもの

イ、行政外交兩科共通

政治學、政治史、經濟史、商法、刑法、財政學、商業政策

ロ、行政司法兩科共通

國際公法、社會政策、民事訴訟法、刑事訴訟法、(司法科では必須科目で選擇しなかつた方)

ハ、外交司法兩科共通

行政法、國際私法

(3)三科獨特の科目

行政科　農業政策、工業政策

外交科　外交史、民法(他の二科では必須)商業學

司法科　破產法、刑事政策

口述の方では、行政科は行政法、外交科は外國語と國際公法、司法科は民法又は刑法だけはどうしても受けねばならぬが、その外の二科目は、筆記試驗で受けた科目の中、すきな二つを選べばいゝ事になつてゐる。

新聞によく發表されるのは、この三科試驗の中二科を一度にパツスしたものゝある事だ。行政科と外交科、又は行政科と司法科を兩方合格といふ榮譽で志望者の羨望する所。之は試驗令第十八條に「一の科の本試驗に合格したる者にして他の科の本試驗を受けんとする者に付ては受驗者の願によりその既に受驗したる科目の試驗を免ず」とある事から、ダブつてるのは受けずにすむのだ。しかし行政科では行政法、外交科では國際公法、司法科では民刑法の一は、試驗を免ぜら

れない。だから、例へば行政科で選擇科目の中から國際公法を選んで受けても、更に外交科を受ける場合には、國際公法は受けないわけにいかぬ事になる。とにかく共通科目ははぶけるから、時には三科一ぺんに合格する人もある。

さて、どれを受けるかといふ事は結局行政官になるか、國際外交の舞臺に飛躍するか、ないしは法官辯護士となつて司直の道に進むかの三叉路に立つ事になるわけである。(尤も實業方面に行く人でも、自分の頭に對する國家的信用狀を授けて貰ふ爲に受ける人もかなりあるが)齊しく法律經濟を學んでも、此三者はお役人でもよほど將來の道がちがひ、生活樣式も異なるので、高等試驗を目標にする前にまづ自分はどれに行くかを考へねばならぬ。そこで行政官から初めて、外交官、司法官、辯護士の方面まで、概略を說く事にしよう。

A 行政官の畑

此頃私は某縣の片田舍をドライヴした時、田舍道を田舍の自動車が疾走するので、あふられて大事な頭をうつてはといふ用意をした所が、道は坦々として少しも上下動がない。まことにいゝきもちのドライヴだつた。聞いて見ると、數年前の知事が、道路知事といはれた位、道路改修に

熱心だつた痕跡が此通りだといふ事をきいて、やつぱり人間はどんな方面に向つても、大きな仕事を殘す事だ、大きな足あとを殘す事だと思つたのである。今日行政官としいへば、內務畑のものをおもに指す程に、內務系統の各府縣の方面に人がむいて行く。何しろ府縣會議員をうまく操縱して或は土木に或は教育に、或は又產業に、二三年の任期中に於て一府縣民にあと〳〵までありがたがられるお土產をのこして行く。正に男子の本懷である。この點五厘一錢から積富を目標とする人とは又違つた領域がある。役人の面白いところである。

前に述べた高等試驗三科の中、行政科志望者が他の二科に比して群をぬく多數であるのは、一面に於て活動舞臺の廣い理由もあらう。外交司法方面の人は任官から退官迄略同一の仕事をするのだが、行政畑だと、大きかな事務であり、相當の地位になると、指圖本位の仕事になり、交際的手腕で行く。警視が事務官になつて土木課長となり、やがて書記官になつて學務部長をやり、內務部長に轉ずるといふやうな事が多く、農林畑の水產局で漁業發展に腕をふるつてゐるかと思ふと、いつにか營林局で山の仕事をやるといふ如く、變化があるので、何か一仕事創めようといふタイプの人には面白い。しかし齊しく高文をパツスしても任官の當初大體將來の道はきまる。內務畑、大藏畑、商工、農林、鐵道等の各省で採用されると、內務畑ならまづ本省や府縣の屬を

ふり出しに事務官書記官をへて知事に進んで行く。大藏省なら屬官から地方の稅務署長等をやり、稅關や專賣局、稅務監督局等をまはつて局長になる。他の各省も大體同樣に地方まはりを一度はさせられる。やがて本省づめになつてトン〳〵拍子に登る人もあるし、地方まはりに終始する人もある。どの省が所謂高等官の數を多くもつか。（昭和二年末現在）

	內閣	外務	內務	大藏	司法	文部	農林	商工	鐵道	遞信	府縣
勅任	一五	五九	三五	三四	一九	五四九	一七	三六	三一	二九	四六
奏任	四八	三七	三七八	五五七	二、一六	二、九九三	四二九	四〇〇	九二六	三二九	一、三一四

一番多いのは文部と司法だが、前者は直轄學校の教授を含み、後者は司法官をふくむので、之を除いては他省と大差はない。すると鐵道省は最も多くなるが、之も技術官が多い關係である。やはり內務畑として本省及府縣を合せると隨一になる。勅任官の多いのも一番。だが知事になるのも容易でない。任官後二十年では此頃は早い方になつた。まして、各省共、役人としては局長まで行けばいゝ方で、それ以上は、政黨にはいつて代議士にでもならないと、だめだとされるし其間にもクビの脅威がある。殊に內務畑では、部長級以上になると、內閣のかはる毎に、浪人に、なる人が少くない。大藏、商工、鐵道等の高官が、銀行會社、私設鐵道會社等の重役になるもの

もある。之は役所時代の上下關係があるから、會社や銀行等と役所との折衝などには、元の高官であつた重役がゐると、役所時代に下に使つてゐたもので樞要の地位にゐる人が多い事から、通りがいゝといふ便宜があるといふ譯で、從來かなりその方面へ轉向したものがあつた。しかし之も其人の手腕次第であつて、中には、元高官であつた地位を會社が利用してしまふとお拂箱になるといふ重役もある。一般に今の世の中では、前に述べた通り、トラックがきまつてゐるので、途中からの侵入のチヤンスがなくなつて來た。腕があつて、どの方面にもむく人はツブシもきかうが、まづ方向をきめたらまつしぐらに一路精進で行く事だ。

そこで行政官にはどんな性質が必要かといふ問題だが、之は前述の通り、變化多き職能を渡りあるく性質が多く、一つの椅子に十年もゐるといふ人は少く、轉々二三年の間に、手腕力量を見せねばならぬものが多いのだから、問題は正にそこである。計畫の基礎は大抵下僚がやる。之を判斷して實行の裁斷を下すところに、行政官のうでが要る。で手にするものは、二三年毎にかはるのだとすると、どうしてものみこみの早い人、研究的な人、そして世才にたけた人でありたい殊に官吏は法令の範圍內で仕事をするものであり、服從義務もあるので、思ふ事を頑固に徹すといふタイプでは官界游泳がむづかしい。才子肌、やり手の方が游泳が上手である。殊に今迄のお

役人は武士が町人百姓に對するやうな態度であつたが、近頃は一般民人の地位があがり、自覺が増して來てゐるので、役人だからとて威張るものは受けがわるい。才子肌、やり手の奥そこには民衆の親としての人間味がなくてはならぬ。

B　はなやかな外交官

貧乏一等國日本！食糧不足、衣料不足、米材家屋流行、生産の原料機械輸入等々、生活になくてならぬものを外國に仰ぐ事年々十億、其代りとして贅澤品生糸八億を外國に買つてもらつてやつとの事、年數十萬づゝ增加する八千萬の同胞を養つて行かねばならぬ一等國日本！かういふ苦しい國を背景に、富の國アメリカをはじめ歐洲先進國を向ふにまはし、足下を見てはつけあがりたがる支那を相手にして、八千萬國民の爲に外交の第一戰にたつ外交官の使命こそはまづ其生活のはなやかさの前に、いかにも御苦勞な事であるといはねばならぬ。新聞などは、とかく筆を下せば「霞ケ關の軟弱外交」をこきおろすやうだが、懐のさびしい紳士が、文化的にケタのちがつたブルジョア紳士と肩をならべ、彼の國産のおあまりを頂戴し、さしてなくも間にあふものを買つてもらふ必要のある場合、腰のつよい外交は至難の事だ。それにつけても、外交官たる人の影

響波及の如何に大きいかを考へると、男子一生の命をかける仕事としては、まことに痛快であり本懐であるところの活躍舞臺たるを失はない。

しかし、國際舞臺は國交親善のみが演ぜられるものではない。日本の地位として、內幕としてもかくの如くだとすれば、なか〳〵要領が要るわけだ。だから正義人道を表看板にして、實は權謀術數主義の時代もあつた。「大使とは自國の利益の爲に嘘言を吐くべく外國に送られたる正直な人なり」などいふ警句がある位。だが今日は外交も正義と誠實に向つて進化しつゝあるので、「大使とは自國、任國、世界の三者の利益の爲に、眞實を吐くべく外國に送られたる正直なる人なり」の時代が來る事であらう。何はともあれ、大使までにこぎつければ、男子一生のほまれである。がそれまでに進むについては、まづ色々な用意が要る。其諸要素を考へねばならぬ。

小村侯爵の言によると、外交官として第一に必要なのは冷靜沈着といふ事である。國家又は民衆の生活に重大なる影響を及ぼすやうな事件は殆ど時々刻々に接觸する仕事だから、其度毎に心がグラ〳〵するやうでは滿足な仕事は出來ない。どつしりと構へて國家人民への奉仕に對する强い信念をもたねばならぬ。第二は、日本の國情に通ずる事である。本國を代表し、本國の利害休戚の爲に奔走する外交官が自國の事を知らないですむものかといふ事は、議論の餘地のない話だ

が、實際は從來どうも本國の內情がわかつてゐない。よし知つてるにしても一面的に偏してゐるといふ非難があつた。苟くも今日の外交は民衆生活の一體現である以上、かゝる非難は其使命から云つて正に致命的である。第三には知識の普遍といふ事である。近頃は國際聯盟が出來てから重大なる外交上の案件は、列國の代表者が出かけて行つて定めるやうになつた。年々開かれる聯盟總會、屢々行はれた軍縮會議等で大きな協定が出來、外交官は通信機關によつて之等協定事項の實行其他を、本國の指令にまつやうになつたので、從來ほど獨立的手腕の發揮の部面は廣くはなくなつたけれども、外交の根柢として、本國任國の事情を知悉し、其間に立つて兩國の圓滑を期しようといふのには、一方的專門的知識よりも、博識でなければならぬ。第四には心身の鍛鍊である。外交官は世界を舞臺として、氣候風土生活樣式のちがふ各地をめぐる仕事である。且、咄嗟の出來事に處し、短時間に重大事件を決斷實行するやうな場合、どうしても身體の丈夫といふ事が大切になるわけだ。最後に語學。之は各國轉々の生活に於て、其任國の言葉にすべて通曉する事はむづかしいと思ふが、外交語としてのフランス語、世界語たるの觀ある英語等に通じ、又其他の國語についても得意になれる所の特徵がほしい。外交上に外國語の出來ない位困る事はない。歐米漫遊者の中には、「噬の旅行」式に、何も話せぬ人もあるが、苟くも、外交の重大使命

を帶びる外交官にして、語學に不得意ならば、其收穫や甚だ少いといはねばならぬ。殊に外交上の條約などでは、一文一語と雖も重大な問題をおこす事が珍らしくない。かつて米國との條約文に、Grave Consequences といふ文句があつて米國側の誤解を生じ、一九二八年の不戰條約文中 in the names of peoples が「人民の名に於て」では日本の憲法に反するといふので日本國內の大問題になつたやうに、なか〳〵むづかしいものである。

さて外交官にはどんなものがあるかといふと、先づ本省では大臣、政務事務兩次官參與官の外に亞細亞、歐米、通商、條約の四局長、情報部長同次長、書記官、事務官、理事官、翻譯官、電信官、技師等であるが、在外公館の方では、外交官として、大、公使、大使館商務參事官、辨理公使、大公使館一、二、三等書記官、同理事官及外交官補。領事官補、外務書記生等がある。領事官として總領事、領事、副領事、

內地勤務卽本省詰の外、在外の外交官、領事官、外務書記生の俸給は「本俸、在勤俸及加俸の三種とする」事になつて居り、本俸は大體他の文官と同樣であるが、在勤俸が可也澤山頂ける。在勤國によつて違ふが、大使であると米四萬五千圓、英、佛は四萬圓、ドイツ三萬五千。支那の二萬六千圓が最低。かけ出しの外交官補でも、本俸は千六百圓だが、アメリカ在勤なら六千圓、

英佛五千八百圓、支那で二千四百圓といふ所である。加俸の一つに「交際加俸」がある。同一の官で同じ公館に五ケ年以上續いて勤務し、功績ある領事官は、在勤俸の六割に當る交際加俸がもらへる。もう一つは妻加俸。之は在勤俸と交際加俸の十分の四又は十分の三。だから、總領事であると年本俸五、二〇〇圓、米國在勤ならば在勤俸一萬五千圓、之に交際加俸が在勤俸の六割つくと九千圓、妻加俸は在勤、交際兩俸の十分の四だから二萬四千圓の四割即九千六百圓、御夫婦では皆で三萬八千八百圓也。カホー者とは此の事かと思はれる。併し、物價と金との比率でさう一概に「いゝなあ」とばかりは云へない。何しろはでな仕事で、外人相手の代表の地位だ。外國にゐる中にためこんで歸る人があるなら、それは彼の地で活躍しなかつた證據だ。」と某外交官のいつたのが、よく事實を物語つてゐる。

さていよ〳〵外交官になる段取だが、之は前に云ふ通り、原則として高等試驗外交科合格者が外交官、領事官になる事になつてゐる。卽ち試驗合格後、本省で事務見習を數ケ月やり、外交官補となつて外國公館に行き、約一年殆ど留學的に語學や事務、政策の研究をしていよ〳〵本官になるわけだ。もう一つは特別任用の方で、外務書記生にして滿五年以上在外公館に勤め、三級俸以上の俸給を受ける者の中から、高等試驗委員の詮衡によつて之を領事官に任用する事が出來る

初任は副領事又は貿易事務官だが漸次領事總領事にすゝむ事が出來る。此の系統を行く人も少くない。法令上では特別任用の領事官が外交官にもなれるけれども、實例は殆どないさうだ。して見ると、外交官にはどうしても外交科試驗をパツスせねばならぬ事になる。尤も本省高等官になつて一年たつと外交官たるの資格が得られるから、行政科合格者も外交官への道がない事はないが、外務省で使つてくれなければ問題にならないわけだ。

次に外務書記生の試驗は毎年外務省でやるが、今年などは一四八名中合格十二名。第一次には作文と語學（英、佛、獨、露、スペイン語又は支那語の中一）をやり、第二次には歷史（國史と外國近世史）地理（本邦及外國）算術の筆記試驗と法學通論と經濟學大意の口述をパスせねばならぬ。資格は中學卒業者。合格者は成績のいゝのから採用され、數ケ月事務練習の上で外國公館へ派遣されて、三ケ年は歸朝まかりならぬ事になつてゐる。

此外に外務省留學生がある。之は專ら特殊國語の通用を必要とする在外公館の職員（主として外務書記生又は通信生たるべき者）を養成する目的で、外務省留學生試驗に合格したものの中から採用する。留學期は滿三ケ年で、募集語の種類は、ロシア、シナ、オランダ、イタリイ、スペイン、ポルトガル、スイッツル、シヤム、蒙古等である。英、佛、獨等は殆どない。試驗は第一次は

書記生と同一であり、第二次は法學通論、經濟學大意、國際公法大意、十九世紀以降世界歷史(之一科だけは口述)。留學がすむと、書記生又は通譯生になる。通譯生から通譯官となり更に領事官外交官へも進む道はついてゐる。

本俸、在勤俸、色々な加俸の貰へる外交官、金の事ではいゝやうだし、國際場裡の活躍でいかにも愉快のやうだが、其道にはいつて見ると何でも樂でない點があるものである。

若い中の外國在勤はいゝけれども、それでも自分や妻が風土病にかゝる事もあり、支那のやうな暴動の多い國では、領事夫人などでずゐぶん危い目にあつた人があるといふ。彼の尼港(ニコライエフスク)事件で領事館職員家族が皆やられた事など、まだ世間の記憶から去らぬものである。こんな事は特殊な場合としても、子供をもつやうになると、諸外國の轉動では其教育に困るので、大抵は自分だけ行つて妻子を國に殘すとか、子供だけ殘すとかが普通である。中には家庭教師をやとつて一家族が世界各國をまはる人もあるやうだが、それも中等程度以上の學校に入れる時期になると、さういかなくなる。子供は何といつても、兩親の膝下で教養したいとなると、外交官はむづかしくなる。とにかく一つの惱みになつてゐるのだ。

も一つ、各國をまはるについて困るのは言葉の問題である。日本人はどういふものか外國人に

比して語學に不得手だそうだが、殊に壯齡を過ぎてからの語學は修得がらくでない。やう〳〵物になりかけた頃に轉任にでもなると又新しく別な語學と云つた具合に、一生語學で苦勞する。おまけに、外交官は、やれ晩餐會だ舞踏會だといふ場合には、招待されても、招待しても、いつも夫婦一緒であるから、各國轉々による語學の苦しみは、妻君も同樣なのだ。いかに交際上手の才能をもつてゐても、言葉が通じなくては、どうにもならぬね。さういふ夫妻が主人側となつて、晩餐會を催し、各國外交官や其地の名士夫妻をよぶ。ひや汗の場面もあるといふ事だ。

C. 司法官と辯護士

人間の世界は慾の世界である。慾の世界は思慮反省を缺く場合、得て惡の世界になる。近頃諸君の記憶にまだ新しい所の大げさな疑獄事件の如き、貰ひ兒殺し事件の如き、如何にも此の事を證據だてるものがある。殊に文化が進めば進むほど、人間は利口になり、惡から善に向ひさうなものだが、惡い事は文化と比例的に增加しつゝある。近頃の日本のやうに、人多く仕事小く、人氣がわるくなり、思想が惡化し、生きるか死ぬかの生活苦のドン底にあえぐ失業者の大群が、世を嘲り、社會を呪ふ時代に於ては、思慮反省の力よりも目前の生きる爲の「糧(かて)」の奪ひあひに一

切を忘れるといふやうな事がとても多くなる。曾にドタン場に苦しむ徒輩ばかりでなく、各人が近來皆我慾中心に徹底するやうな傾向の著しい時代では、どうしても義務を忘れて權利のみを主張するやうになり、そこには見にくい事がおこつて來る。かうした事が結局は皆法の裁きの前に立つ事になるのである。收賄事件、共產黨事件、殺人强盜、風俗犯罪から、離婚訴訟、財產爭の訴訟、貸金取立、家屋明渡の訴訟等々、とても裁判所は忙しくなつて來た。刑法上の有罪人員數を見ると、明治四十年には六九、〇九二人が、大正十年には一〇七、四五〇人、昭和三年には被告人十六萬八千四百五十八人。廿年の中に二倍半になつたわけ。よこせ、やらぬの民事訴訟の方はどうかといふと、明治二十四年、卽四十年前には、第一審訴訟件數十五萬六千。四十四年には廿萬八千、昭和三年には四十二萬八千といふ增加ぶりである。之も四十年間に三倍。「出る所へ出て白黑をわけなきや承知が出來ん」といきりたつのを、「まあ〳〵」で和解したのが、昭和二年度では一萬件もある。其他、破產だの强制執行だの、借地、借家、商事の調停等々、なか〳〵慾からの喧嘩も多事多端である。じつさい、人間に、やりたいまゝにやらせたら、慾の向ふところ、惡の跳梁にまかせて、民衆は一日たりとも安堵が出來ないわけである。かうした時に峻嚴なる法廷で「天皇ノ名ニ於テ」法の裁きにより、世の不正不義を是正し、社會の秩序維持を双肩になふ

ものが、實に司法官なのである。

司法官も人を扱ふ點に於て民政教育宗教ないし社會事業に類してゐるけれども、其扱ふ人その者が、刑事事件では罪の人であり、民事事件では慾のかたまりである。一度び刑務所の門をくゞらんか、彼は其後の一生を棒にふるものもある。一度び訴訟に敗れんか、其相手の訴訟費までもたされ、損害は勿論、爾後の反目の種になる。どつちにしても法廷で扱ふ人間は眞劍な場面に立つてゐる事が多いのだ。海山千年、司法官をナメてかゝる重罪犯人があり、强盜殺人、あらゆる犯行の限をつくして平氣な奴もある。或は善良な人間がふとした誘惑から思はぬ大罪を犯して悔悟するものもある。訴訟事件では原告も被告も自分に都合の惡い事はいはずに、自己の主張をどこ迄もつつぱる。之等のものに對し、犯罪や當事者の爲、社會の安寧と戒の爲に、法規に照らし條理に訴へて、妥當な裁きをせねばならぬ。

而して、犯罪數は二十年に倍以上になり、訴訟事件は四十年間に三倍にもなりながら、司法官の數は其割に增加してゐない。明治四十年に判事一、一一七人、檢事三六九人が、昭和二年に判事一、二二八人、檢事五八六人だから、擔當人員は大して增してゐないわけで、仕事は此數字から見ると倍加したとも見られるのだ。

そこでかういふ重責を負ひ、多忙な職責をもつ司法官はどんな人間でなければならぬか。一に明澄なる判斷力、二に冷靜沈着、三に果斷、四に人格、五に公平、六に健康、何れも必要、擧げる所に輕重はつけられない。

事件の複雜、人の雜多、其の間から事實の糸をくり出して公正なる判決を下さうには、實に明澄なる判斷力の必要な事は贅するまでもない。しかも被告を前に訊問する時、或は剛情不屈手にをへぬものもあらうし、そゝろに同情の涙で心が動くやうな場合もあらう。被告と喧嘩腰になつてもいかず、高飛車で相手を萎縮させても困る。情にほだされて妥當な裁きを欠いてもならぬ。冷靜に沈着に。相手の心の熱を冷し、我執をすてゝ法の嚴肅さに虛僞の餘地なからしめねばならぬ。さて、いよ〳〵審理もすみ公判もすんで判決文をかくといふ時、犯人をどの位の罪にしたものか。量刑の問題は實に重大問題である。時には死刑、無期懲役など、其人間の一生を處斷する場合もある。人一人を殺す判決文をかく場合、平氣でゐられるだらうか。犯行は重いけれども同情すべき點もある。檢事の論告は重刑を要求してゐるけれども、之を出來るだけ輕くしてやらうか、重くすれば犯人が控訴するだらうし、輕くすれば檢事がだまつてゐないかもしれぬ。果斷！只熟慮深省の上の斷の一字！それでその犯人が活殺されるのだ。

頑強に自白せぬものに、「恐れ入りました」を云はせる場合の機智。之も以前は行はれたものださうだ。往年淺草の貰子殺し鬼夫婦の强情に閉口した豫審判事は、被告夫婦のあがめてゐた觀音樣の像を、家宅搜索の橫收品からとり出し、之を審問室に安置して訊問した所、遂に自白したといふ話もあり、留置場での大强盜の訊問に、彼の盜んだ贓品を其愛兒に負はせて來て、父子を對面させ、遂にドロをはかせたといふ話もある。次に人格の問題は、どんな仕事にもどうでもいゝものは一つもないけれども、其使命から見て此の位人格の云々されるものは恐らくなからう。富貴も淫する能はず、威武も屈する能はずといふ孟子の言は實に司法官の信條である。人を裁く其人が利益に眩惑し、權門に阿諛するやうな事で人格的に疑ある人物ならば、到底法治國の存在はつづけられない。人格高潔、清廉潔白の中に血あり涙ある雅量が、名判官たる好評を世に漲らせてゐる。又、犯罪の中には、ずゐぶん共同でやる事がある。甲を重くし乙を輕くする、どの位輕重をつけるかといふ場合、又訴訟事件で、原告被告どちらにもつともな事由があるか、どちらにどれだけあるか、之等を量定するには公平といふ事が絕對に必要になる。常識の問題は、法官の非常識よばはりと反對に、可也必要なものになる。犯罪にしても訴訟にしても、ありとあらゆる社會層の出來事で、其社會には特有の慣習があり、獨特の通有語がある。之等の言葉を被告や容疑

者が使ふ時、判官が其意味を知らなければ、事實審理が出來ないのみか、時には「旦那も案外話せませんわね」などゝ、女犯人あたりから馬鹿にされ、知らないのなら、ウンとシラを切つてやれといふ惡い覺悟を被告にさせる事になつたりする。だから何でも知つてゐないと困るとは、法官の體驗談である。殊に醫學上、經濟上、科學上の知識について、敢て深遠なものは必要でないにしても、一通りの事を知つてゐるのがだいじである。其知つてゐる事自身も、たえず世の變化に應じて適用するだけの力がなくてはならぬ。司法官は與へられた事件に對して、法の解釋適用による處斷を任務とする。所が「法」はたび〳〵改正できるものでないのに、世間の事は複雜化と變化とのテムポが早い。そこで法律學者は法令を伸縮性ある尺度とすべしといふものもある。其伸び縮みをどうするかは、時勢に應じ、時流に投じた博い常識を材料とし、之に明澄な判斷を加へてはじめて出來る事である。最後に、法官の仕事は峻嚴なる理知中心の仕事であり、倫理の實踐である。しかも運動不足の體をもつて繁忙なる法廷で激務にあたるのだから、病源のひそむところ、心意の安靜を欠き、明澄の頭腦を曇らせ、判斷の錯誤を來す。頭腦俊敏な被告にさかねぢをくふとか、辯護士にしてやられ、控訴、上告で自分の判決と反對の判決にでもなつたら面目もないわけだ。時には犯罪搜索などの爲に、不眠不休の事も珍らしくない。健康、精力旺盛は大

事な要素である。

かう述べて來ると、司法官は全くむづかしくてやりきれない仕事のやうだが、又そこにいゝ點があるものだ。第一に司法官は自分の判斷で處斷の出來る事だ。外の行政官や實業界の人々だと課長級とか部長知事等にならないと自分の理想の實現は出來ない。一個の事務家として機械的な生活を永年送らねばならないけれども、法官は直ちに國權を行ふ事が出來、社會の革正、惡毒の掃滌をするものである事は、寔に潔いといはねばならぬ。

次には、正義に終始する事である。世の中の一切の不正の處斷に身をゆだねる以上、自己自身たえず正義を以て身を持する。此頃の濁世にひとり自ら清くして、濁り江の水を清める事は救世の事業たるを失はぬ。よし、待遇は厚くなく、地味な生活より出來ぬとしても、生涯所謂終身官として自己の意思に反して免職される事はない等、いゝ點がなか〳〵ある。

舊來「判檢事辯護士試驗」といはれた頃は、合格すれば當然任官されたものであつたが、今は高等試驗が一般に資格を得る試驗であつて、登用試驗でなくなつたので、受かつてから採用して貰はねばならぬ、そこで、外の試驗と同じく、成績が惡くては採用されないといふ事だ。司法科試驗の合格者で、法官に採用されたものは、司法官試補年俸九百圓ないし一千圓頂いて裁判所で

實務の練習をやり、監督判事や檢事正の指導を受け、一年半の後、試驗をうけてから、檢事又は判事になる。終身官ではあるが、病氣とか、不平衝突、昇進遲々に業をにやすとか、又は辯護士になる下地のつもりでやつてゐる人などは、其中退職して辯護士になるものが多い。辯護士は、そんなにいゝものであらうか。今度はそちらの方へ行く事にする。

司法官では待遇がきまりきつてゐる。無難に進んで所謂三丁目一番地、高等官三等一級俸三千八百圓。尤も大審院長に迄もなれば別だが一般には三丁目一番地で終點下車である。ところが辯護士が民事訴訟で係爭額何十萬圓といふ大きな事件に手をかけると、一萬圓以上ので報酬額五分乃至一割だから、廿萬圓の訴訟を年に一つやれば五分として一萬圓になる、これで十分。あとはどうでもいゝやうに思はれる。勝訴の場合は成功報酬一割。だから一流の大家になると年收十萬位の人は珍しくないし、財をつむ事何百萬といふ人もある。扱ふ事件は四十年間に三倍しても、司法官が、其間に二三割しか增加しないのに、辯護士は明治四十年に二、〇三〇人が、廿余年にして三倍し、六、五九七人になつて居り、政治界に雄飛する人もだん〳〵增加して、第一回の代議士選擧の際は議員總數三百人中のたつた廿名が、昭和五年の總選擧の結果では、總數四六六名中七九名の多きに進み、會社員の九二名についでの多數で、議員中の一割七分をしめて居り、政黨內

で幅をきかしてゐるものも多い。尙又府縣市會議員中にも牛耳をとるものが少くない。——とかうなると、名、利共に備はり得る辯護士は如何にもいゝ仕事だと思はれる。

皆が皆、金もたまり、地位も得られるとなつたら、セチがらい今日、之ほどいゝ職業はないやうだが、そんなに世の中は甘く出來てゐない。辯護士試驗に登第してすぐに開業の看板をかけても、依賴者はすぐに殺到するものではない。何しろ、訴訟に勝つか負けるかの重大事をたのむ人であり、刑が重くなるか輕くなるかについて、判官のハートを動かす人をたのむのに、かけ出しの人間をえらぶものではない。某辯護士は、「苦しきは事務閑散、手持無沙汰の時也。今は忙しくて困る程なるが、昔のはやらぬ時の苦痛、今も忘るゝ能はず候」と云つてゐる。仕事が仕事だけに人からの信用信賴が大切だから、「えらい」と思はせる爲には、邊幅をかざる必要もあり、貧乏貧乏した生活ぶりも見せられぬ。「はやる」やうすを見せねばなるまいから、醫者と同じく看板と玄關が大事になる。書生もおかねばならぬ、電話もひかねばならぬ。しかも收入はといへば至つて不定である。何とかして收入を作らうとすれば、つまらぬ事件を訴訟化する人もあり、三百代言人の走狗になつて、品位の低い仕事をするものもある。だから辯護士といへば何となく恐しいもの時々法律の網にかゝつて刑事被告人になる事がある。

のやうに思ふ人もあつたものだ。明治中葉までは辯護士を代言人といひ、口さきで人をごまかす人間、三百代言などゝいふ輕稱か輕稱かを奉つたものだが、近頃は社會的地位も向上して來た。それは此の職業の發生上、有識仁俠の哲人、民間の義人などが之に當つたもので、元來正義を尙び人權を擁護する事業だから、社會も高い地位を與へるに至つたのである。

然り、辯護士は正義に基く人權擁護の事業をするものである。追ひつめられて、生の適場を失ひ、死の檻に圍まれた重罪被告人が、唯一の救ひの手として、自分の命をつなぐ唯一の綱と賴む時、又は私産を傾倒して爭ふ訴訟に、相手の我慾不正をひしぐ戰士として己を委任された時、無罪の判決があり、勝訴の裁きが下されると、人權の神の如く尊敬される、其愉快さ。けれど、辯論其効を奏せず、訴訟に於て自己の主張の破れ、寃罪をも救ひ得なかつた時、其不快は又言外である。何業にも、苦あり樂ありだが、眞劍な利害休戚に參與して、人權の親となり得る此の仕事は、まことに小氣味のよいものではある

そこでかういふ眞劍な仕事に對しては、明晰な頭腦をもつ必要はいふまでもない。犯罪にしても係爭にしても、世の中に起る事件の內容は非常に複雜であり、其當事者は、ドタン場に於て、心の平調を失ひ易い際涯にたつ。此の人から、事件の內容をきいて、法律にあてはめ、勝敗を決

し、寃を解き、正當な裁きをして貰ふやうに努力せねばならぬ。頭が敏活に働かなくては出來ない仕事だ。そして法廷に於て辯論し、依賴本人の意のある所を主張する事に於て、發表能力がすぐれてゐなくてはならぬ。主張の相手方に、自己の意見を首肯せしめねばならぬし、相手の心を動かす力がなければならぬ。必ずしも雄辯たるを要せぬにしても、所信他を動かすだけの能辯は必要である。そして其目的は正義人道の個々的實踐である。徒らに詭辯を弄してもお取り上げにならぬ。事實の妥當、人情の機微をつかむところ、卓拔な識見と圓滿なる人格が中心である。「はやるかはやらぬか。」の問題は、一時の問題ではなくて一生の問題であり「はやる」事が、依賴者からの信賴を根柢とする以上、人格の人、任俠の士である事が結局永久的な「はやる」基となるのである。

○九　訓導・教諭・教授——學者

1. 人間製造家

中學を出る人の前途志望を調べて見ると、先生になりたいといふ人が甚だ多い。近頃の現象である。教員養成の學校の入學競爭率は此の二三年は殊にひどくなつて來た。と同時に、專門學校や大學の各方面の專攻者の學校をめがけて職を爭ふものも亦非常に多數である。ところが、歐洲大戰後の好景氣時代には、學校は教師を得るのに隨分困つたものだつた。景氣の良否と學校教師の供給の多少とは逆に行つてゐる。そして現在は不景氣のドン底だか、もつとドン底へ行くか知らぬが、とにかく學校では教員志望過剩で困つてゐる。好景氣時代に教師不足で困つてから、臨時教員養成所を十五も作るし、專門學校を出たものに免狀をくれて資格づけるし、中等教員の檢定試驗が年一度だつたのを二度にするなどゝいふ事からして、中等教員は今日とても樂には口が見つからぬ。小學校の方も、師範學校が男女分立し、男子師範が或府縣では二つある所もあり、二部制度が廣まつて、元は一ヶ年で四五十名づゝ出たのが、今は二學級以上で百名づゝも出る。

其外、講習科などもあつて、各學校屆とも、人は極めて潤澤である。さうして、中學を出ようとする諸君に、教員志望が甚だ多いといふ事になつてゐる。考へなければならぬ問題だ。

近頃師範二部の入學受驗者に、私立大學出が澤山あつたといふ話だが、之は何を物語るか。學校を出て二三年も口がなくて遊んでゐるよりは、一年、二部にはいり、學資若干をもらつて、出さへすれば五六十圓の俸給にありつける——これは、パン獲得第一の失業者的な氣持の人には、無理のない進路かと思ふ。かうして、教員の學校へ殺到する所以は、出てから比較的口に困らぬといふ事、在學中學資がわりにかからぬといふ事等が、目前主義、近視眼者流の人を引きつける主原因かと思ふが、又一面に、中學に通ふ頃、他の職業の事を殆ど知るよしもない場合、教育の仕事だけは、小學校以來、どんなものだといふ事が、生徒として見當がついて居り、又教師に對する尊敬の念から、殊に師の中に人格者として畏敬する人があると、他のすべての性質を之で美化して、自分の內省をもあまり深くする事なしに、「教員にならう」といふ事にきめるものもあるのではあるまいか。特に「口がないから、暫く教員にでもなつて居よう。」といふ「デモ教員」志望の人があつたら、人樣の大事な子弟を教育する重大な仕事だ。すぐにやめてほしい。志望轉換をしてほしい。「デモ教員」に教へられた人間が何でエラ物になれるものか。

なる程、今日學校教員は全國でざつと三十二萬も居る。中にはデモ先生も居る事だらう。きまつた事を教へる間は、雜談にすごし、學校がひけると家にかへつてゴロ〳〵してゐたり、圍碁將棋にふけつて、何一つ新しい研究をするでもなし、世間の事情をしらべて常識の人となるでもなし、生徒を薫陶して立派な人にしようといふ熱もなしで、只教科書による注入業で年をとり、頭は化石してやがて冥土に行く。かういふ人だつてないわけではない。すると、此の先生に教へられる生徒は、勞少くして効多からん事を望み、字引をひき問題を解くよりは、ポケツト型解釋本通解で手取り早く難所をきりぬけ、得る所少く、卒業しても力はなしといつたやうな「化石」の下にふさはしい生徒が出來てしまふ。今や日本の國は難關に立つてゐる。之からも一寸にはらくになれさうもない。其の難關をきりぬけて行くのは、新興の青年の頭と腕にまつより外はない。かういふ青年を立派な人間に造らねば此の難關はきりぬけられぬ。其人間製造者が、デモであつたり化石してゐたりして、どうなるものか。少くとも、教育方面を志す諸君は「デモ」式ななまはんかな考は斷然ひつこめる事だ。どの方面の仕事にも、私は重要性を話して來たけれども、根本は人間なのだ。どんなに制度、法律、ないし、文化施設が整うても、運用する人間がなまくらだつたら、國は亡びる。其人間製造家が教師ではないか。今までいゝかげんな考で「二部へでも

行かう」「中等教員にでもならう」と思つてた人がもし諸君の中にあるとしたなら、速かに撤回してくれ給へ。でなければもう一度「教員志望の再吟味」を熱心にやつてくれ給へ。

教育界にも理想の偉人がゐる。ペスタロツチである。吉田松陰である。福澤諭吉である。新島襄である。ペスタロツチは貧民の子弟のお守をしてやがては歐洲大戰前獨逸國運隆興の基をひらき、歐洲新教育の濫觴をなした。松陰門下からは明治維新の傑物が出た。福澤門下からは實業界の俊髦が出た。新島門下亦思想界教界の人物を出した。此外にもえらい先生は澤山あつた。が教へを乞ふ人々は皆が皆、之等教育の偉人に親しく接し、日常の起居を共にしたものが後のえら物になつたのだ。そして之等偉人の皆が皆、ほんの少數の教へ兒に、全人格を傾倒して、短い年月に迸るやうな己の心臟の血を若い心臟につぎこんだものだ。ところが今の學校では、第一多數の兒童、生徒、學生に只教室で面接するだけで、起居を共にする事は甚少い。一人の偉人が、心臟の血をつぎこんで教へ兒を社會に飛躍させたるに比し、今は注ぎこむものが知識中心になり、つぎこみ手も多勢になり、つぎこむ相手たる教へ兒も數十人から數百人一度にといふ事になつて來た。昔のやうな、人格的感化の濃厚さは、今の學制では求めるのが無理かもしれないが、しかし人格的感化の必要な事は、増せばとて寸毫も減りはしない。否今日一番缺けてゐる事はこれなの

だ。「デモ」や「化石」ではだめだといふのはこの事なのだ。

我々が小學校からだん〳〵に上の學校をへた經驗を追憶しても、訓導の先生からの感化はその まゝ骨身にしみてゐる。訓へ導いて貰つた事が今でもはつきりわかる。中等學校でも教へ諭された事が、精神上の動搖時代、とりわけ力づよかつた。今諸君はその教へ諭される環界にゐるわけだ。もしそれ「教授」の下にある時、教へ授けられるのであつて、必ずしも、知識以外の事は諭され導かれる事がないやうだ。實際文科、理科の或る學科に於て、級の人員の少い所だと、生徒三人に教授六人などいふ所もあるから、かへつて小學時代よりは、接觸も多いといへるだらうが 法、經、商方面になると、一級人員數十は少い方で、東大法學部の如き、一學年六百餘、他の學部と合併で教へ授けられるから八百以上になる。心臟の血を分配する段ではない。けれども、荀くも教壇上の人としては、たとひ教へを受くる人が何十人であらうと、何百人であらうと、人格の感化といふ事をさしおいては、正に氣のぬけたビールである。格言に「信は一切のものを眞ならしむ」とある。信ずる所篤ければ、其人のいふ事は凡べて眞と思はれるのだ。而して其の「信」の基は、人格にある。教師として成績劣等と人格劣等なら、まだ成績劣等の方がましである。

併し、教師の仕事は、知識の傳達が主要部分をなしてゐる。曾に傳達のみでない、之を傳達す

る事によつて、次の時代の人に、より以上の成果をもたらして貰はねばならぬ使命をもつ。だから根本として、成績劣等の人では教師になれない。たとひ、扱ふ知識が簡單でも、小學校にだつてつとまるものでない。實に、人間の地上に生ひ立つてより數十萬年、其の間に造りあげた文化は、生れ來る後生に傳はつて、次代から次代へとます〳〵文化財が積聚される。其の「後生に傳はる」手段としては、今日、新聞、雜誌、書籍、映畫其他色々の利器はあるけれども、其傳達の基礎であり、主流となるものは、一に學校である。新聞や書物其他を通じて新知識を吸收するにしても、土臺の知識は、訓導、教諭、教授の口から諸君の頭にはいづての事である。人類の努力幾百年、其結果に成つた一學科が、文化發展の今日、學ぶに其幾萬分の一の時間より要せぬのであるが、之を誤りなく、正しく傳達し、教へたものに對し更に進んだ研究を示唆される所まで引つぱつて行く——これが爲には頭腦がよい教師でなければならぬ。世に、頭のいゝ教師は少くない。けれども、教へられて只それだけ、何等研究慾をそゝられる事のない場合も亦多い。それでは、アナウンサー的だ。「あの先生の時間がすむと、どうしても、先生の云はれた書物をよまなくてはゐられぬ」程の氣もちを起さす事は、やがて、一を教へて十の收穫を得さす所以であり、一人の先生の下から、十人の人物を出す所以である。其爲には、生徒に慾をそゝらせる前に、自分

がたゞさる研究慾にもえてゐなければならぬ。「熱心」の二字は一見平凡に見える偉大な二字である。熱心であるところ、研究にも傾倒すべきであり、生徒の指導訓育にも不眞面目ではあり得ない。

そこで、人格の人で、頭がよくて、熱心であるなら、教育界でなくとも、大抵の所で歡迎されるだらう。むしろ會社員にでもなつて巨富をつむがいゝではないかとも思はれやう。實際教壇生活者は、金にめぐまれない。一切萬事金で解決され、金さへあれば幸福だと思はせるやうな現代。この考は惑ひの基である。しかし、よくしたもので、金にめぐまれない教育家の仕事は、金などでは味へぬものに惠まれてゐる。

會社や役所で机を並べて仕事をするゝ仕事そのものに樂しみもあらうけれども、そこには上役と部下との關係が支配的であつて、指導的な部分は少い。ともすれば對立的な感じがさまよふ。しかし、教壇上の教師は、一教室内に於ては、中心となり、權威となり、知識に於て、經驗に於て、皆自分が一群をリードする地位におかれ、之を手足の如く指導し支配する事が出來る。教師の職業的時間の中、師弟相集ふ教室内こそは、他の職業に見られぬ樂しさがある。さうして、教へ導き、薫陶してやりあげた生徒が、他日人材として社會の一方に地位を得た時、師恩を忘れず

訪問し、又慰問の手紙をくれる。之が樂しみは教育者異口同音にとなへるところである。世に名だたる學者、偉大なる發明家、政治家、將軍等々、群星輝く同じ社會に、最も地味に見える教師は、とかく前途志望上はえのないものに見えるであらうが、其の學者といひ、發明家といひ、政治家、軍人、何れ一人として此の地味な師の膝下から巣立たぬものはない。何れも「先生」の息のかゝつた人士なのではないか。

世は滔々として、目先きの利を獲得する事に狂奔しつゝある。之を正しいものにし、望ましきものにする爲には、各方面の職業者の綜合的努力が要る。しかし何といつても根本は人間製造だ人格を骨に知識を肉に、そして、之を他に及ぼすに熱烈火の如き愛を以つてする。そこに次代のめぐまれた國民は育まれるのだ。——私の云ふ事は現實をはなれたかもしれぬ。けれども、現實の醜さを是正する教育家は、一に理想の現實化への直進をまづ企圖すべきだと思ふからである。さて之から、訓導、教諭、教授の各層の各相を略説する事にしよう。

2. 訓　導

先づ現實を直視する。小學校教員は男女合せて廿二萬餘、この中には資格上、學歴から見て非

常に段階がある。大都市の校長は、此頃高等師範出身のものが漸次增加する模樣であり、又大都市の小學校では平訓導でも、或は夜學により或は壹の學校により、獨學によつて、中等教員免許狀を一つ二つもつてゐるものが可也ある。專科教員例へば、圖畫、體操、音樂、裁縫等は大抵其專門學校出身者もしくは中等教員有資格者である。そして尙師範專攻科出が居り、普通の師範の一部出と二部出、講習科出、檢定（本正、尋正、准訓）代用教員。其人間のはたらきにもよるが何といつても資格が一番ものを云ふ。

そこで中學を出た人が小學校に行くのに二つの道がある。一つはすぐに奉職して代用教員を二年以上やると、正教員になれる。（小學校令施行規則第百七條）も一つは師範二部を一ケ年やる事だ。そしていよ〳〵奉職する。一學級擔任して數十人の子供を教へる事になる。下調べ、成績物の處理、諸表簿の作製、年中行事としての遠足、運動會、學藝會、展覽會等々の仕事が時々晦日のやうな忙しさを以つて襲つて來る。其他、學校の諸種の事務係の一方を引受け、又、研究部として得意と思はれる教科の研究や發表をする必要も年と共に加はる。其他夏冬の休暇にはきまつて色々の講習もある。學校には此頃大抵實業補習學校と訓練所があり、男女青年團の仕事も小學校中心でやつてゐる。何でもかでも皆小學校で教師が先き立ちになるのだから、全く訓導や校長

の仕事は多事多端である。學校によつて、勤務時間などもかなりまち〳〵であるが、本當に熱心に各方面の仕事を徹底的にやつたら、體が幾つあつても足りまい。けれども、長い間には忙しいのが普通になり、いゝかげんにやつてゐれば、それも習慣化される。何しろ、教室内では自分の獨壇上だから、多少の獨創味も出せるけれども、教へる教授内容がきまり、授業時間がきまり、やる事が規則的にきまりきつてゐるので、二三年の中に機械のやうになつてしまふものもある。此の間に處して、優良教師として頭角を表はすものは、大體どんな傾向の人か。

前に一般的に教師としての必要性を、人格、學力、熱心、愛といふやうな諸點においたが、之はそのまゝ訓導資格としても適合する。しかし知識の方は、一方面に深く、他の方面に淺いといふよりは、平均してゐる事が必要である。大きな學校になると、得意な學科を、擔任の學級ばかりでなく、外の學級までも受持つやうになつて來て、適材適所的な傾向があるけれども、赴任地によつては、學校の大小によつてさうばかりは行かぬ。何でもやれる人でなくては不都合である。そして、學力はあつても教へる人たる以上、教へ方が上手でなくてはならぬ。良教員といへば大抵いゝ授業をするといふ評判をもつ。上手な訓導の授業は、子供がとてもよく活動して、授業以外の率があがるけれども、下手な先生の教室は、ガヤ〳〵で、兒童はやりたい事をやり、授業以外の

方に活動してゐる。

事務なども範圍は廣いが、いゝ教師の擔任教室は、一目見るとわかる。キチンとしてゐて、兒童の成績物が、きはだつて調和よく排列されてゐて、平和な樂しい國を思はせる。教師の机上には成績物が片ばしから處理されて行く。通勤用の鞄の中には、職務上の教科書や表簿の外に、時事をかりそめにせぬ爲の雜誌があり、研究を怠らぬ表徴の書物がある。教授訓育に堪能であり、時務におくれぬ研究があり、仕事に停滯がなく、たえず新味ある計畫をもつてゐる。運動場ではとりまく兒童と共に遊ぶ。かうして小さい社會をうまく引きまとめ、伸び行く生命を培ふ中、やがて首席として校内を統べて校長を補佐する地位に進み、ついで校長の椅子について、一鄕をリードする。たとひ月給は二百四十圓がドンづまりでも、職を樂しむ境地に行けば、小學校位面白いところはない。私の知人は、東京市内の小學校に奉職してもはや十七八年。力は修身、教育、國語漢文等に於て優に中等教員を凌ぐものをもちながら、其檢定を受けるでもなし、他の學校から引かれても動かず、此方面で一番羨望される高師訓導にといはれてもまだ動かぬ。一校の中堅として、卒業後微動だもせず、堅實な歩みを續けてゐる。由來大都市の訓導は、勤めを要領よくやつて夜學に通ひ、他日轉職の用意をするか、家庭をまはつて、入學準備兒童を教へて、本俸以

上の收入にホク〳〵するか、コツソリ商賣に手を出すなど、本職とは緣の遠いやうな仕事の誘惑があるものだが、彼はその通り確固不動の一路を辿つてゐる。尊い人だと思ふ、テイピカルな先生だと思ふ。かういふ人が全國一萬數千の小學校に一人づゝあれば、日本は興國の兆が歷然だといつていゝ。

3. 教諭

前にも話したやうに、不景氣と就職難から此頃中等教員志望者が激增して、高等師範や各地の教員養成所は、何れも入學難に陷つてゐる。勿論、競爭者の中には、氣まぐれもあり、一かバチかでやるものもゐる。合格したものでも、學資若干が支給される、口がわりに困らぬといふ事、も一つは、卒業して初任給がわりに高いなどいふ現實のみを重視する人も相當あるだらう。しかし、さういふ態度だつたら卒業後十年足らずの中に不平を起すか沈滯するかで、結局「なくもがな」の先生になり、デモ教員に墮してしまふ。なる程、初任給は高師出など最近數年間百圓といふ相場をさげずに來た。そして普通にやつても、十年もつとめると、田舍の學校なら年俸千八百圓奏任待遇位にはなれた。しかし、子供が中學を卒業して、これから學資がウンと要るといふ頃

になつては、增俸スピードがとても遲々として來る。今日學校を出てから中等學校の校長になる迄にまづ十五年から廿年かゝる。尤も學歷や資格、能力などで、伸び縮みはかなりあるが、とにかく校長さんになつてから、高女、中學、女師、男師等をへめぐる。他の方面では、農、工、商等の中等學校は其道の出の人が椅子をしめるが、何れにしても、校長給の大體は月俸二百圓から二百三十圓位迄で、年俸にして三千圓以上の人はホンの數へる程しかない。卒業後、獨身時代の二三年は百圓以上の收入なら可也潤澤だが、潤澤線から次第に貧窮線に近づいて行く。この點、實業界などでは、子供一人位の時なか〳〵苦しさうでも、同級生が中學の校長になる頃、課長とか支店長位で地位は大して高くなくとも、生活には困らない。上に行けば行くほど、物質的には等比級數的に增加して行く可能性がある。月給だけで一家をたてねばならぬ先生としてはよほど緊縮の習慣をつけておかぬと、子供を學校にもやれぬといふ事になる。尤も奥さんが、中等教員等で、所謂共稼をして、すつかり殘した上、奥さんの方が恩給年限（十五年）になると、退職して恩給をもらひつゝ子供の教育に專念するといふやり方が多いので、實澤は出來ないながら、子供に皆高等教育迄受けさせてゐる人も少くない。しかし、金本位では出來ない仕事だといふ事は教育者通有の事實である。

訓導に比していゝ點は、自分の好きな學科を專攻し、其專攻した學科を受持つ事が比較的多く出來るといふ事である。數學、物理、英語、國漢等、皆其免許狀をとる人は、全然不得意だつたり、きらひだつたりするのではない。好きな學科を扱うて一生を送るのはたしかに幸福だ。しかし、小さい學校や、奉職學校に於てあまり時間數の多くない學科を專攻した人は、他の色々な學科をもたせられる事が少くない。法學士で中學の先生になる。法制經濟は五年に二時間。卒業したばかりの若い人だと、いきなり上級生だけを受持たせない。英語をやつてくれ給へ、作文をもつてくれ給へ、で、さう自由には行かない。又學校によつて、學科の中にかなり輕重をつけ、重要な學科の方が生徒も熱心だから從つて先生の勢力もあるといふ勘定になる。現行制度下の中學では專門學校の豫備校的になつてゐるから、其入學試驗に適合する學科即ち國漢、英、數、理化方面が中心であるが、實業學校では、國漢や、理化が割合に重んぜられぬ所もある。中學の先生で、受驗準備の書物をかいて、斯界に活躍する人もあり、教科書を書いて恩師の名で出して、案外財を積んだ人もある。さういふ事を考へると、得意不得意よりは、世に受ける學科を專攻した方がいゝといふ事にもならうけれども、時勢は刻々に變化し、學制も亦さういつまでも不變ではないので、需要的方面のみを主にしては失望する事になる。只、自分の得意な學科の中で、將來

も相當需要のありさうな學科を見とほしをつけて、其方面に專念するといふ事が大切だと思ふ。

專攻した學科を受持つについて、二つの傾向をもつ。一は奉職後四五年も同じ事をくりかへすと、もはや何も調べなくても教へられる。一人前になれる。その間に生ずるひまを娛樂に用ひて日新の工夫をせず、時勢に從ふ事の出來なくなる事だ。もう一つは、熱心研究をつゞけて、たゆまずうまぬタイプ。中等教員は學科分擔であり、受持がちがふと專門も違ふので、他の干涉の領分が狹いから、獨壇上もひろく、獨斷上も廣い。從つて教室內では、先生方のやり口はさま〴〵である。昔の話だが、政治のすきな博物の先生、教科書を朗讀後、政治談に時のうつるを知らぬといふ人があつたり、漢文の本をさしおいて、小說の話に夢中な人もあつたものだ。概して熱心な先生は馬車馬式に、自分の學科の成績のいゝものだけを偏愛する傾向があつたものだ。私達の時代の話だ。今の先生方はひらけて居られるから、さういふ事はあるまい。一生徒の物理の成績が四十九點、どうしても進級させない。學級主任の先生三拜九拜しても一點まけて下さらぬ。曰く、四十九點は合格點に一點足りませぬ。たうとう落第。一點の差で又臥薪嘗膽一ケ年、まるで早慶野球戰の樣だ。とにかく、學科各々の先生の熱心は是非必要な事だが、學ぶ方は生徒一人である。エネルギイの等分なる分配をする事も容易でないし、等分に配分しても、生れつきの得意

不得意がある。そこで、中等教員は、結局、自分の專門とする學科を以つて、人間能力の一方面を開拓するにあるので、從つて、人間教育の全面の考慮を忽せにしてはならぬ事である。そこに先生の人格、愛といふ事の壇上がある。殊に、中學時代は前に縷說した通り、精神上の變動期なので、導きの深切は、永久に忘れられぬといふよりは、むしろ自分の血とも肉ともなる位のものである。私は其時代に三人の先生に親炙して、危い橋を渡つた時の唯一の恃みにする事が出來た三才で父の死にあつた自分としては、三人の先生が、今でも親のやうな心地である。

4. 教授——學者

專門學校程度以上では、先生を教授といふ。けれども、助教授があり、講師があり、學習院あたりだと、初等科卽小學程度の先生でも教授といふのであるが、こゝでは專門程度以上の學校の教師のつもりで見て頂く。

もはやプロフエツサー級になると「教員」といふ感じよりも、學者といふ感じの方が次第によさを增して來る。と同時に、趣味も熱も、學問中心で生徒學生の訓育方面は主でないのが現狀である。文字通り「教授」なのである。そして其教へる學校が、現在一番問題になつて居り、又